鳥取県教育文化財団調査報告書　38

一般国道９号米子道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅷ

鳥取県西伯郡淀江町

HYAKUTSUKA

百塚第７遺跡
（８区）

１９９５

財団法人　鳥取県教育文化財団
建設省　倉吉工事事務所

序

鳥取県西部地域の米子市・淀江町周辺は、北に雄大な日本海、南に秀峰大山を控え、美しい自然環境に恵まれた地域であります。さらに、古くから遺跡の宝庫としても知られており、西日本では珍しい縄文時代の櫛が出土した井出胯遺跡、本州では唯一の出土であり九州との関連性が考えられる国重要文化財の「石馬」、切石積石室をもつ国指定史跡の岩屋古墳など古墳時代後期の前方後円墳が集中する向山古墳群、彩色壁画や3基の塔心礎の出土で注目される上淀廃寺跡など、当時の活発な交流を物語る遺物・遺構が数多く存在しております。

当財団では、このような遺跡地帯一角を平成2年度より一般国道9号米子道路工事に伴い発掘調査を実施してまいりました。平成6年度も鳥取県教育委員会が建設省倉吉工事事務所と協議の上、財団法人鳥取県教育文化財団が委託を受け、西部埋蔵文化財調査事務所が百塚第7遺跡（8区）の発掘調査を実施致しました。

調査の結果、縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺構が確認され、それぞれの時代の竪穴住居跡や、縄文時代の落し穴、弥生時代の貯蔵穴等、たくさんの貴重な資料を得ることができました。これらの資料が今後の調査研究の一助となり、本報告書が多方面にわたって広く活用して頂ければ幸いであります。

最後になりましたが、今年度は平成2年度より実施してまいりました発掘調査の最終年度に当たります。この数年間の調査に際しまして、多大な御協力を頂きました地元の皆様をはじめ、ご指導いただきました方々、その他関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成7年3月1日

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長　西　尾　邑　次

序　文

建設省が管理する一般国道９号は、京都市を起点として福知山を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、山口県下関に至る延長約609kmの路線であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市（鳥取・島根両県）までの76.4kmを管理しており、各種の道路整備事業を実施しています。そのうちの一つに西伯郡淀江町及び米子市地内において、将来の国土開発幹線道路として、当面活用できる機能を有する高規格な自動車専用道路である米子道路の整備を進めています。

米子道路は米子市及びその周辺部における一般国道９号の交通混雑を緩和するために計画され、昭和47年から事業に着手し、現在までに米子市尾高～陰田町約8.1km（一部ランプ使用）を供用しています。

現在、西伯郡淀江町今津から米子市赤井手及び米子市陰田町から県境までの間を自動車専用道路として施工中です。

このルートには、多数の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い記録保存を行うことになりました。

このうち今年度は、「尾高所在遺跡」「百塚第７遺跡」「百塚第５遺跡」「泉上経前遺跡」「小波狭間谷遺跡」の５箇所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査を行いました。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が文化財保護に深い関心をもち、記録保存に努力していることを理解いただけることを期待するものであります。

おわりに、事前の協議をはじめ現地での調査から報告書の編集に至るまでご協力をいただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し感謝いたします。

平成７年３月１日

建設省倉吉工事事務所

濱　谷　武　治

目　次

序
序文
例言
凡例
目次
第１章　調査の経緯
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の方法と経過 …… 1
第２章　位置と環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　遺構
　第１節　縄文時代の遺構 ……10
　　１．竪穴住居跡　　２．落し穴
　第２節　弥生時代の遺構 ……19
　　１．竪穴住居跡　　２．貯蔵穴
　第３節　古墳時代の遺構 ……22
　　１．竪穴住居跡　　２．掘立柱建物跡　　３．溝状遺構
　第４節　その他の遺構 ……28
　　１．掘立柱建物跡　２．その他の土坑

挿図
　挿図１　遺跡位置図 …… 6
　挿図２　遺構全体図 …… 7
　挿図３　周辺遺跡分布図 …… 9
　挿図４～54　遺構図 ……31
　挿図55～69　遺物実測図 ……97

挿表
　挿表１　落し穴一覧表 ……93
　挿表２　貯蔵穴一覧表 ……96
　挿表３　土器、土製品観察表 ……112
　挿表４　石器観察表 ……119
　挿表５　土坑名対照表 ……177

付論
　鳥取県、百塚第７遺跡出土資料の放射性炭素年代測定結果　古環境研究所 ……120

図版 ……123

例　言

1．本報告書は、一般国道９号米子道路工事に伴い1994年度に実施された、西伯郡淀江町大字小波字泉原に所在する百塚第７遺跡（８区）の埋蔵文化財発掘調査記録である。

2．発掘調査は、建設省倉吉工事事務所の委託を受け、財団法人鳥取県教育文化財団西部埋蔵文化財調査事務所が行った。

3．本報告書で使用した方位は真北、標高は海抜標高である。

4．本報告書に掲載の地形図は、国土地理院の５万分の１地形図「米子」の一部を使用した。

5．報告書の作成は、調査員、調査補助員の討議に基づいて、執筆・編集は仲田・家塚が行った。
挿図のうち、遺構実測は調査員、補助員が行った。
遺物の実測・浄写は鳥取県埋蔵文化財センターおよび西部埋蔵文化財調査事務所で行った。遺構・遺物写真の撮影は仲田・家塚が行った。

6．出土遺物・図面・スライド等は、鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的に淀江町教育委員会へ移管する予定である。

7．古環境研究所に、炭化木の放射性炭素年代測定を依頼した。

8．現地調査及び報告書作成にあたって下記の方々に指導助言・協力して頂いた。（五十音順、敬称略）

芦達賢二　新　英弥　岩田文章　遠藤和子　北浦弘人　熊谷　朗　後藤篤治
志田　睦　杉田千津子　塚田文子　中原　斉　中山和之　中山寧人　西川　徹
松田　潔　松林隆裕　山川茂樹　山崎裕子　山根武雄　湯村　功

凡　例

1．調査区に10m×10mグリッドを設定した。グリッド名は北西隅交点の杭名を持って呼称した。

2．遺構記号・遺物記号は次のように表す。
ＳＡ：柵列　ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＤ：溝状遺構　ＳＩ：竪穴住居跡　Ｐ：ピット
Ｐｏ（●）：土器・土製品　Ｓ（▲）：石器・黒曜石

3．遺構挿図中におけるセクション・エレベーションの基準線標高は「Ｈ＝」の記号で表記する。

4．ピットの寸法は、（長軸×短軸－深さ）㎝で表した。

5．土器実測図のうち、須恵器は断面黒塗りで、それ以外のものは断面白抜きで表した。

6．遺構図中の破線で表現した輪郭線は推定線である。

7．落し穴の遺構図においては、杭痕跡の輪郭線を赤色で表記する。住居跡の焼土面・貼床はスクリーントーンで表した。

8．土器等の観察表中の①～⑧は以下の数値を示す。なお、数値後の※は復元値、△は残存値である。
①口径　②器高　③最大径　④底部径　⑤脚部径　⑥長さ　⑦幅　⑧厚さ　⑨孔径

9．観察表の備考欄に遺物の実測者名を略号で記載した。

10．巻末に報告書掲載土坑名と現場処理用の遺構記号（ＳＫ）の対照表を「挿図５　土坑名対照表」として記載した。

第１章　調査の経緯

第１節　発掘調査に至る経緯

鳥取県西部地域における一般国道９号米子道路工事に伴い、埋蔵文化財発掘調査が西部埋蔵文化財調査事務所によって平成２年度から開始された。平成２～４年度の西伯郡淀江町内の福岡遺跡、平成３・４年度の西伯郡淀江町内の井手胯遺跡、平成４年度の西伯郡淀江町内の今津塚田遺跡、平成４～６年度の米子市内の尾高御建山遺跡、平成５年度の西伯郡淀江町内の大下畑遺跡、米子市内の泉中峰・泉前田遺跡、平成６年度の淀江町内の百塚第５遺跡、泉上経前遺跡、小波狭間谷遺跡の調査が実施されている。

調査に先立ち、平成元年に淀江町教育委員会が試掘調査を行った。その結果、古墳時代の遺構・遺物が検出され、百塚第７遺跡が確認された。このため、建設省倉吉工事事務所と鳥取県教育委員会が協議し本調査の実施を受け、西部埋蔵文化財調査事務所が、平成６年４月より調査を開始した。

参考文献

淀江町埋蔵文化財調査報告書第14集『淀江町内遺跡発掘調査報告書』　淀江町教育委員会　1989年

第２節　調査の方法と経過

調査対象面積は、6,148㎡（表土剝ぎによる実質調査面積は6,018㎡）である。

調査開始に先立ち、業者委託によって調査前の地形測量を行った。平成６年４月より発掘調査に着手した。まず、土層確認と遺構の広がりをつかむためにトレンチを設定し掘り下げた。それをふまえて、重機による表土剝ぎを行い、攪乱層を除去した。その後、人力による精査を行い、黒褐色系の土の落ち込みを遺構としてとらえた。その後、10m×10mのグリッドを業者委託によって設定した。

落し穴と思われる遺構については、一部のものを、その土層断面の観察に調査の主眼を置いた。基本的には、検出面で遺構の輪郭をとらえ、南側を半截した。そして南側を大幅に掘削し、断面観察を容易にした。土層断面について記録を取った後、残りの北側半分を完掘した。

現地説明会は貯蔵穴の遺物が残っている期間にと考え、12月17日に実施したところ約40名もの参加者を得た。

最後に、業者委託により調査地全体の地形測量・航空写真撮影を行い、12月27日に発掘作業を終了した。

写真１　調査参加者

調査体制

調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理事長　西尾邑次（鳥取県知事）
副理事長兼常務理事　入江圭司
事務局長　若松良雄

財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター

所　長　大和谷　朝　（鳥取県教育委員会文化課課長）
次　長　八木谷　昇

庶務係

係　長　梅山照美（鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長）
主任事務職員　木下利雄
事　務　嶋村八重子

調査指導係

係　長　田中弘道（鳥取県埋蔵文化財センター次長）
文化財主事　久保穣二朗（　〃　職員）
長岡充展（　〃　〃）
山桝雅美（　〃　〃）

調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団　西部埋蔵文化財調査事務所

所　長　松尾忠一
主任調査員　原田雅弘
調査員　谷村憲一　山田真一　仲田信一
家塚英詞　鬼頭紀子
調査補助員　樋口友枝
測量補助　左藤　博
整理作業員　石橋　公子、稲垣美智恵、植木　恵子、表　明美、金川　知恵、狩野　仁女
黒見まゆみ、小山菜穂子、佐竹　祐子、塩谷　和子、清水　房子、武永　裕美
田中　和子、田中　園子、中原　千恵、南條　孝子、西村　薫子、野崎　悦子
福田弥千代、松岡　朋子、松本みどり、山添　美喜、山本　清子、山本久美恵
山本　博子、米沢しのぶ、米山　麻紀

調査指導　鳥取県埋蔵文化財センター
調査協力　淀江町　淀江町教育委員会

下記の方々に発掘調査作業員として協力していただいた。記して謝意を表したい。
下島　利彦、国野　吉久、岡田　馨、浅田　茂美、仙谷　巌、坂田　隆徳、長谷川　昇、佐々木好久
金川　有徳、岡田　乙一、岡田さちこ、谷野麻記子、西村トシ子、坂田　君子、西村　善枝、岡田八十子
河井　節子、野口　里子、岡田キクノ、小原　里子、渡辺　郁子、石橋　公子、入江　和子、綾木　秀子
種田のり子、遠藤　礼枝、建部たつ子、佐藤　公子、（順不同、敬称略）

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

鳥取県

鳥取県は本州の西部、中国地方の北東部に位置し、北は日本海、東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県、広島県と接する。中国地方は標高1200mを越える中国山地を境として、日本海に面する山陰地方と、瀬戸内海に面する山陽地方に分けられる。両者の違いは特に冬に顕著である。冬でも比較的晴れて温暖な山陽地方に対して、山陰地方では曇り空が続き雪がかなり積もる。鳥取県はこのような山陰地方に属している。鳥取県は、古代東部は因幡国（現在の鳥取市・気高郡・八頭郡・岩見郡）、西部は伯耆国（現在の倉吉市・東伯郡・西伯郡・米子市・境港市・日野郡）の二国に分かれていた。現在は、鳥取市を中心とする東部、倉吉市を中心とする中部、米子市・境港市などからなる西部に分けられる。各地域とも地勢は山がちで、林野が県総面積の80％近くを占める。それぞれの地域には、千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）の県下を代表する河川が流れ、その下流域には、鳥取平野（東部）、倉吉・北条・羽合平野（中部）、米子平野（西部）が発達している。また各平野の海岸線には、全国的にも有名な鳥取砂丘をはじめとして、河川によって運ばれた多量の砂により大小の砂丘・砂州が発達している。

現在、鳥取県は４市を含めた39市町村により構成されており、人口615,660人（平成６年12月１日現在）、東西126km、南北61.85km、面積3506.96km²である。

淀江町

淀江町は、中国山地最高峰を誇る大山（標高1,711m）の北西麓に広がる淀江町平野を中心とした日本海に面した町であり、東を大山町、西を米子市に接している。地形を見ると大山町との境界に孝霊山（標高751.4m）町西部の平野中に壺瓶山（標高113.7m）があり、宇田川水系の作用によりこれらの山麓には段丘が発達している。また、環境庁名水100選に指定された「天の真名井」、因伯の名水「本宮の泉」などの天然の湧水が豊富なことも淀江町の特質のひとつになっている。淀江町は、人口9,230人（平成６年12月１日現在）、東西8.2km、南北6.1km、面積25.74km²である。

米子市

米子市は、鳥取県の西部に位置している。地形は、中国山地より流れ出た日野川によって形成された米子平野日野川と合流する法勝寺川流域に形成された法勝寺平野などの沖積平野が基本となっているが、東方には大山から続く台地上の山麓が広がっている。海岸部は、弓ケ浜半島のような砂州が広がり、特徴ある地形を形作っている。米子市は、人口133,607人（平成６年12月１日現在）、面積99.46km²である。

百塚第７遺跡

百塚第７遺跡は淀江町小波字泉原にある。米子市と淀江町の境界近くに位置し、大山の山麓から淀江町に向けてのびる台地が米子平野と接する地点にある。地形的には尾根上に位置し、緩やかな斜面を成している。標高は21～28mを測る。付近には、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や古墳など多数の遺跡が見られる。

第２節　歴史的環境

旧石器時代

大山山麓一帯を中心としていくつかの旧石器が発見されている。泉中峰遺跡出土のナイフ形石器、淀江町小波出土の東山・杉久保系統の黒曜石製ナイフ形石器、溝口町長山第１遺跡出土の細石刃（マイクロ・ブレイド）などが発見されている。旧石器時代～縄文時代草創期とされる有舌尖頭器は、黒曜石製が淀江町中西尾から、サヌカイト製のものが米子市奈喜良遺跡、会見町諸木遺跡、岸本町貝田原遺跡をはじめ大山町の坊領や荘田地区、名和町の東坪、門前などでも発見されている。しかし、米子市、淀江町に限らず、鳥取県内には旧石器時代の遺構とされるものは発見されていない。

縄文時代

鳥取県内から草創期の土器は発見されていない。しかし、大山山麓で有舌尖頭器が出土していることを考えると、今後この時代の遺構・遺物が発見される可能性も高いであろう。

早期のものは、大山山麓を中心に押型文土器を伴う遺跡が発見されている。米子市の上福万遺跡では多くの土坑や配石墓と考えられる集石が発見されている。土器や石器もたくさん見つかっており、早期の拠点的な遺跡となっている。当遺跡に近接する尾高御建山遺跡からも若干の押型文土器が出土している。

前期になると遺跡も増えてくる。前期から中期を中心とする米子市の目久美遺跡からはドングリを蓄えた貯蔵穴がたくさん検出されている。陰田遺跡からは人為的な痕跡の残るたくさんの獣骨が見つかっている。淀江町の鮒ケ口遺跡[1]からは、爪形文土器、条痕文土器、九州の特徴的な曽畑式土器に類似するものなどが検出されており注目される。

中期に新たに始まる遺跡は、米子市、淀江町ともに見つかっていない。

後期から晩期のものとしては、200基以上の落し穴が発見された米子市の青木遺跡がある。また、淀江町の河原田遺跡からは、磨消縄文土器、沈線文土器、無文土器などがたくさん検出された。井手胯遺跡[2]では、河川跡から西日本では珍しい朱漆塗りの結歯式櫛や木胎耳栓が出土し注目される。

弥生時代

弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比べると確認されているものが多い。

前期の遺跡には、米子市の目久美遺跡、口陰田遺跡、勝田遺跡や淀江町の今津岸の上遺跡[3]などがある。目久美遺跡は、前期から中期にかけての低湿地遺跡であり、３層の水田跡と多くの木製農具が見つかった。今津岸の上遺跡は、長径約135mと推定されるＶ字状の環濠をもつ集落跡であり、弥生時代の集落形成を知る上での貴重な遺跡である。

中期の遺跡には、米子市の青木遺跡、福市遺跡、淀江町の晩田遺跡、角田遺跡[1]、福岡遺跡などがある。青木遺跡、福市遺跡は後期以降も続く大規模集落跡である。角田遺跡では、太陽、舟、舟を漕ぐ人、建物２棟、樹木、鹿が描かれた線刻絵画土器が出土した。福岡遺跡では200基以上の粘土採掘坑が見つかった。

後期のものは、米子市の池ノ内遺跡、陰田第１遺跡、尾高浅山遺跡、淀江町の井手狭遺跡、坂ノ上遺跡などがある。池ノ内遺跡では古墳時代後期までの５面の水田層が見つかった。尾高浅山遺跡は、一部３重の環濠がめぐる集落と四隅突出型墳丘墓が近接して存在する遺跡である。尾高浅山遺跡の近くには、四隅突出型墳丘墓を含む弥生時代から古墳時代にかけての墳墓群が出土した日下遺跡がある。井手狭遺跡、坂ノ上遺跡は集落跡である。

古墳時代

米子市、淀江町における前期古墳の様相は明確でない。

前期古墳は、米子市では石州府29号墳、日原６号墳などが存在する。数多く存在する方墳は前期のものが多いと考えられており、特徴的である。淀江町内では前期古墳は見つかっていない。

中期のものは、米子市の陰田41号墳、宗像41号墳などが知られている。淀江町では、中期後半の古墳として、上ノ山古墳、向山３号墳が知られているが、近年の発掘調査により井手狭３号墳もこの時期に属することが確認されている。この井手狭３号墳からは、円筒埴輪、形象埴輪が多数出土しており、なかでも形象埴輪の「盾持

人」の出土例は西日本では比較的少なく、一括出土については群馬県の保渡田第３遺跡においてのみとされている。

後期になると、多くの群集墳が形成される。米子市の尾高古墳群、石州府古墳、東宗像古墳群、宗像古墳群などの群集墳が米子平野を取り囲むように、淀江町の中間古墳群、百塚古墳群、向山古墳群などが淀江平野を取り囲むように形成され、向山４号墳、長者ケ平古墳[4]、岩屋古墳、小枝山12号墳、石馬谷古墳といった大型前方後円墳が築かれている。向山古墳群は独立丘陵上にあり前方後円墳８基と方墳１基からなり、このうち、岩屋古墳は切石積の横穴式石室をもち、人物や水鳥などの形象埴輪が出土した。長者ケ平古墳は割石小口積みで両袖式を呈し全長10.3mの横穴式石室をもつ。付随する箱式石棺からは県内唯一の金銅製冠が出土している。これらの古墳は６～７世紀にかけて築かれたとされている。

石馬谷古墳出土といわれている石馬は本州で唯一の類例であり、福岡県の岩戸山古墳例との関連性が考えられているものである。終末期の晩田山31号墳では舟形の線刻がある扉石が発見された。

古墳時代の集落跡としては、弥生時代後期から古墳時代前期にわたる百塚第１遺跡[5]、井手狭遺跡があり、中期には百塚第１遺跡、百塚第４遺跡、百塚第５遺跡、百塚第６遺跡がある。この時期の百塚第１遺跡は、竪穴住居間に掘立柱建物をもつ集落であることが発掘調査により確認されている。また、後期には、福頼遺跡、百塚第１遺跡、百塚第４遺跡、百塚第５遺跡等がある。

歴史時代

律令制の施行により、現在の鳥取県域は、西側の伯耆国と東側の因幡国という二つの国に編成される。伯耆国は６群よりなるが、現在の米子市、淀江町は会見郡から汗入郡にかけて該当する。会見郡衙は、圃場整備にともなって調査が行われ、掘立柱建物と焼米が見つかった岸本町の長者屋敷遺跡であろうと考えられている。汗入郡の郡衙と思われる遺跡は見つかっていない。

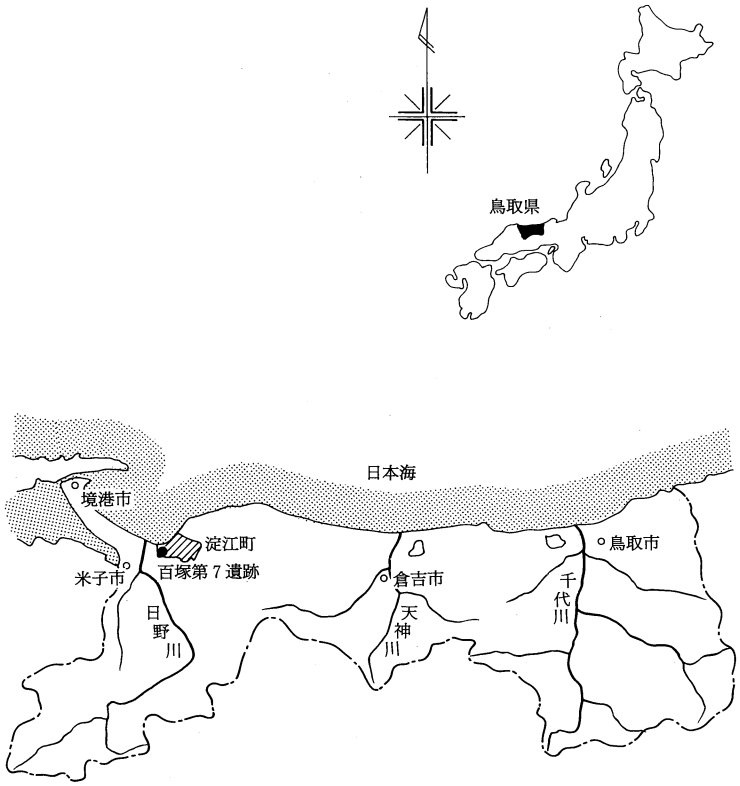
白鳳時代になると、寺院の建立が始まる。代表する遺跡としては上淀廃寺[6]をあげることができる。上淀廃寺からは、最近の調査により彩色壁画片が出土した。白鳳期彩色仏教壁画は法隆寺金堂壁画に次いで２例目であり、発掘調査によって出土したのは初めてである。さらに、伽藍配置では南北に瓦積基壇が近接して２塔並び、その北側には基壇はないがもう一つの心礎が見つかり、三つの塔心礎が南北に並ぶ特異な伽藍配置をしていたことが明らかとなった。上淀廃寺の北側には楚利遺跡[1]が存在する。この遺跡は鍛冶場跡と考えられているが、布目瓦、鴟尾瓦、彩釉陶器、石帯などの破片が出土しており、上淀廃寺との関係が注目されている。

中世城館としては、米子市尾高城、河岡城、淀江町小波城、淀江城、稲吉城、香原山城などが文献に現れる。米子市尾高地域は、山陰道と山陽道に抜ける日野道との分岐点に位置し、伯耆西部の交通・流通の要衝であったため、尾高城の争奪をかけて尼子・毛利両氏が幾度もの激戦を繰り広げた。尾高城は、大山山麓の入り組んだ谷と丘陵を巧みに利用し、空堀と土塁で守られた八つの主要な郭を連ねる構造である。これに対し、淀江町内にあったとされる城とは砦のようなものであったと考えられているが、未だ正確な位置は特定されておらず不明な点が多い。しかし、1333年の後醍醐天皇の隠岐脱出に関連する名和長年と隠岐国守護佐々木清高による小波城の攻防戦をはじめとして、「大永の五月崩れ」として知られる1524年の尼子経久の伯耆への侵入に際しては山名氏方であった淀江城が陥落、1569年には尼子氏と毛利氏による淀江城・稲吉城を巡っての争いなどが起こったことなどが文献に残されている。

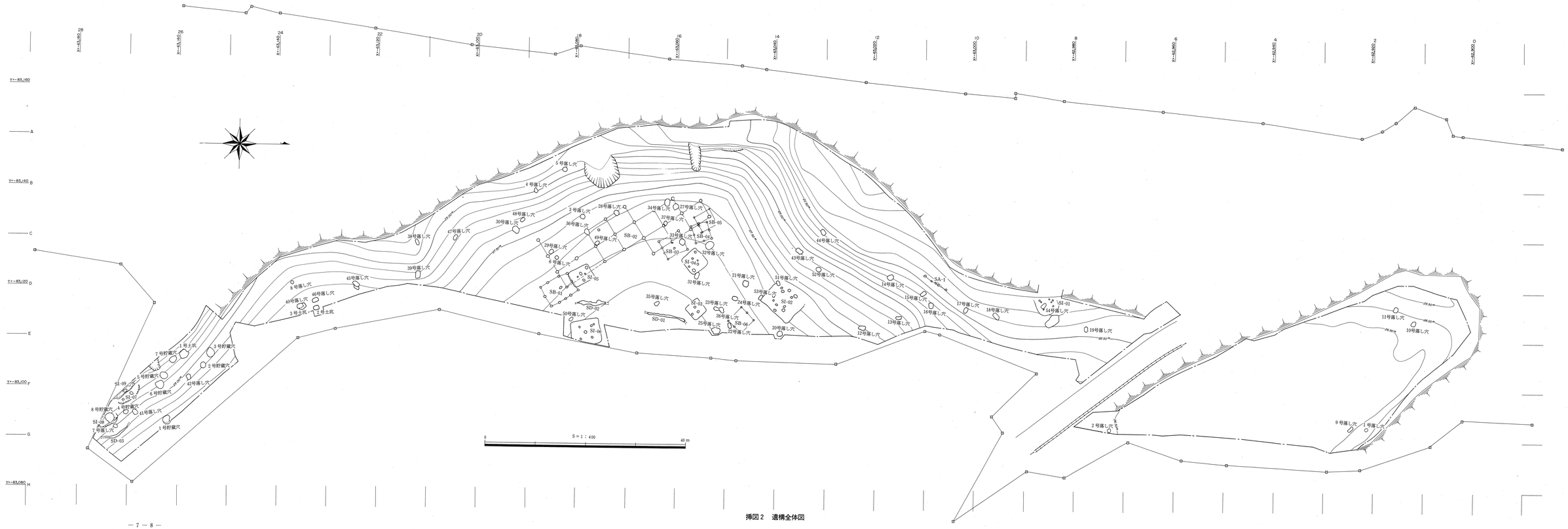
江戸時代になると、吉川広家によって築城が始められていた米子城を中村一忠が完成させ、1601年、米子城に中村一忠が移ると尾高城は廃城となる。その後、米子城は鳥取藩の支城として存続したが、明治になって廃城となった。

本地域周辺は、明治９年に島根県に編入されたが、明治14年に再編入されて現在に至っている。

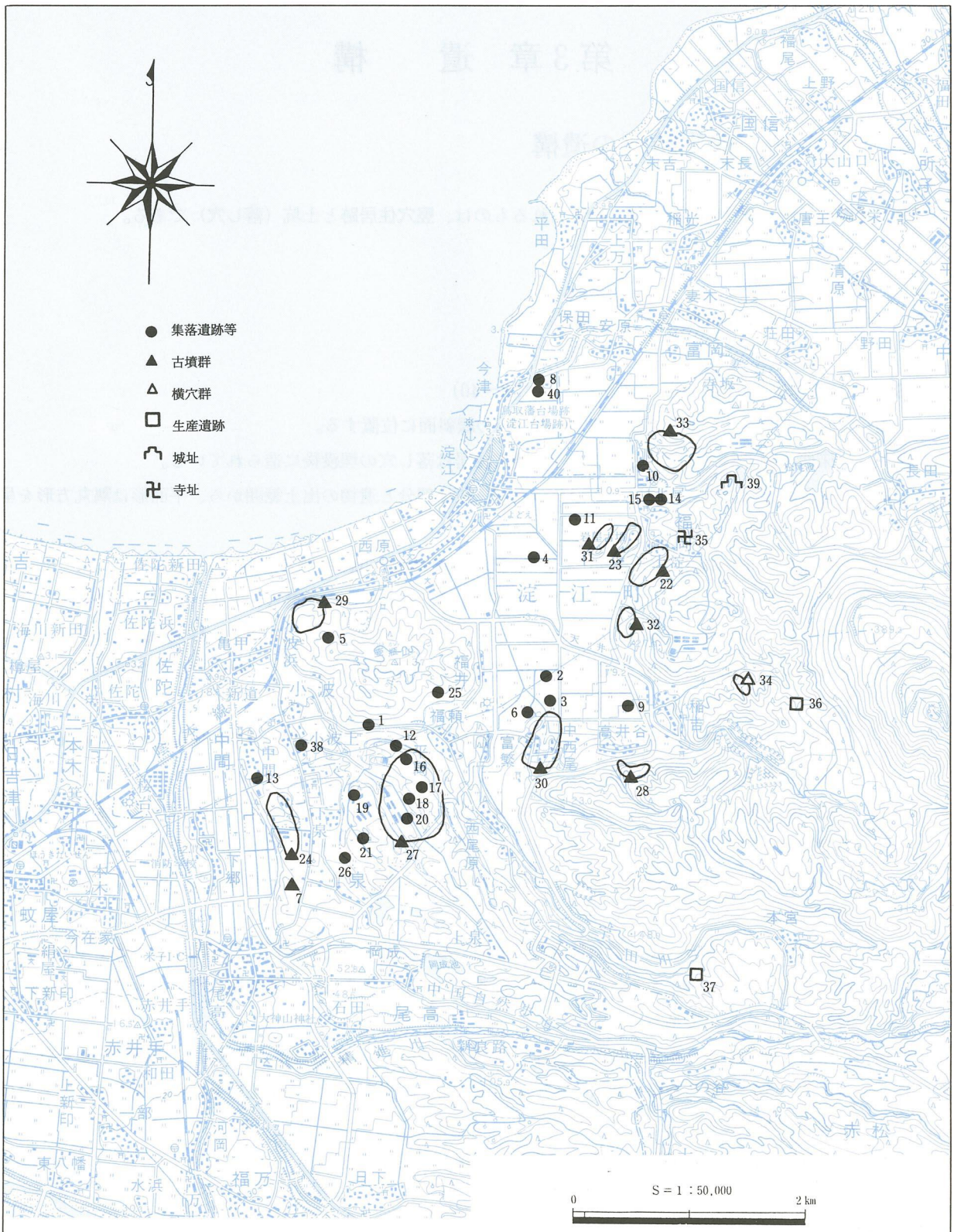
(1)　『宇田川』　淀江町教育委員会　1981年
(2)　『井手胯遺跡』　鳥取県教育文化財団　1993年
(3)　『淀江町内発掘調査報告書II』　淀江町教育委員会　1990年
(4)　『向山古墳群』　淀江町教育委員会　1990年
(5)　『百塚53・105・106・107号墳、百塚第１遺跡、原田遺跡発掘調査報告書』　淀江町教育委員会　1981年
(6)　『上淀廃寺III』　淀江町教育委員会　1993年



挿図１　遺跡位置図


S＝1：400
0
40 m
1号貯蔵穴
2号貯蔵穴
3号貯蔵穴
4号貯蔵穴
5号貯蔵穴
6号貯蔵穴
7号貯蔵穴
8号貯蔵穴
1号土坑
2号土坑
3号土坑
SI-01
SI-02
SI-03
SI-04
SI-05
SI-06
SI-07
SI-08
SI-09
SD-01
SD-02
SD-03
SB-01
SB-02
SB-03
SB-04
SB-05
SB-06
SA-1
1号落し穴
2号落し穴
3号落し穴
4号落し穴
5号落し穴
6号落し穴
7号落し穴
8号落し穴
9号落し穴
10号落し穴
11号落し穴
12号落し穴
13号落し穴
14号落し穴
15号落し穴
16号落し穴
17号落し穴
18号落し穴
19号落し穴
20号落し穴
21号落し穴
22号落し穴
23号落し穴
24号落し穴
25号落し穴
26号落し穴
27号落し穴
28号落し穴
29号落し穴
30号落し穴
31号落し穴
32号落し穴
33号落し穴
34号落し穴
35号落し穴
36号落し穴
37号落し穴
38号落し穴
39号落し穴
40号落し穴
41号落し穴
42号落し穴
43号落し穴
44号落し穴
45号落し穴
46号落し穴
47号落し穴
48号落し穴
49号落し穴
50号落し穴
51号落し穴
52号落し穴
53号落し穴
54号落し穴

挿図２　遺構全体図



1．大下畑遺跡　2．鮒ケ口遺跡　3．河原田遺跡　4．井手胯遺跡　5．壺瓶山第１遺跡　6．井手挟遺跡　7．尾高御建山遺跡　8．今津岸の上遺跡　9．角田遺跡　10．晩田遺跡　11．福岡遺跡　12．百塚第１遺跡　13．坂ノ上遺跡　14．楚利遺跡　15．宮廻遺跡　16．百塚第２遺跡　17．百塚第３遺跡　18．百塚第４遺跡　19．百塚第５遺跡　20．百塚第６遺跡　21．百塚第７遺跡　22．小枝山古墳群　23．向山古墳群　24．中間古墳群　25．福頼遺跡　26．泉中峰・前田遺跡　27．百塚古墳群　28．高井谷古墳群　29．壺瓶山古墳群　30．中西尾古墳群　31．瓶山古墳群　32．城山古墳群　33．晩田古墳群　34．四十九谷横穴群　35．上淀廃寺址　36．大蓋原たたら　37．金くそ谷たたら　38．原田遺跡　39．北尾城址　40．今津塚田遺跡

挿図３　周辺遺跡跡分布図

第3章　遺　　構

第1節　縄文時代の遺構

百塚第7遺跡のなかで縄文時代の遺構と考えられるものは、竪穴住居跡と土坑（落し穴）である。

1．竪穴住居跡

縄文時代と考えられる竪穴住居跡を1棟検出した。

ＳＩ－01（挿図4、55～58・図版2、3、38～40）

位　　置　　Ｄ8グリッドにあり、標高21.0～22.0mの緩斜面に位置する。

重複関係　　床面中央で54号落し穴と切り合う。竪穴住居は落し穴の埋没後に造られている。

形　　態　　北側の壁は流出して検出できなかったが、残存部分と遺物の出土範囲から、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。

規模は南北4.25m、東西3.6m以上で、残存壁高は最大70cmを測る。側溝はない。

主柱穴はＰ1、Ｐ4、Ｐ5、Ｐ7の4個である。それぞれの規模は、Ｐ1（30×25－49）cm、Ｐ4（25×17－54）cm、Ｐ5（24×22－60）cm、Ｐ7（28×25－64）cmを測る。柱穴間距離はＰ1－Ｐ4から順に1.55m、1.78m、1.5m、2.03mである。補助柱穴はＰ－Ｐ4間にＰ2（19×18－21）cm、Ｐ3（30×20－22）cm、Ｐ5の南西側にＰ6（33×27－49）cm：がある。

床面の中央よりややＰ5－Ｐ7側に焼土面が広がり、54号落し穴の位置に床面の高さから30cm程掘り込まれた地床炉を確認した。

盛り土　　住居の北東側で地山土と同質のローム土の盛り土を2.2m×1.3mの範囲で検出した。最も厚いところで50cmを測る。遺物は出土しなかったが、埋土の堆積状況から住居と同時期のものと考えられる。その性格としては住居建造の際に出た廃土の置き場と考えられるが、周堤として使われたかどうかは不明である。

埋　　土　　13層に分層できる。①・②層は現代の攪乱である。③層は土師器片、須恵器片を包含する。縄文土器は④層以下より出土する。⑦層は床面と考えられる。基本的に自然堆積と考えられる。⑭・⑮層は54号落し穴の埋土である。

出土遺物　　床面と埋土中から多量の縄文土器片（Po1～Po20）と、磨製石斧1個（Ｓ1）、黒曜石製石鏃2個（Ｓ2・3）黒曜石石核1個（Ｓ4）が出土した。縄文土器は床面出土のものと埋土中のものとでは時期差がみられる。

時　　期　　床面から出土した遺物より縄文時代後期後葉と考えられる。

2．落し穴

落し穴と考えられるものを54基検出した。ほぼ、長方形・隅丸長方形・円形・楕円形の平面プランを示し、5基を除き底面ほぼ中央にピット（以下、底面ピットと称する）を持つ。この底面ピットは、獲物を殺傷するための銛状の杭をすえるために掘られたものと考える。底面ピット周辺で、石や杭の固定土（黄褐色系の土で固定材と考えられるもの）を検出したものがいくつかあり、底面ピットに杭を固定するための工夫が認められた。杭の固定土を詳細に観察した結果、1つの底面ピットに複数の杭が立てられたことがうかがわれた。この痕跡をここでは、杭痕跡と表現する。また、底面ピットのように、予め穴を掘り込んでおいて杭を立てるのではなく、杭を

底面に直接突き刺したと思われる小穴もあり、これについても杭痕跡と称する。なお、落し穴の実測図においては、底面ピット内の杭痕跡の輪郭線を赤色で表している。

(1) 立地について

百塚第７遺跡の落し穴は、丘陵上面平坦部・丘陵上面平坦部の突端・突端からの斜面に立地する。

(2) 規模について

検出面の長軸は184～66cm、短軸129～48cm、底面の長軸は120～35cm、短軸75～28cm、深さは141～48cm、である。底面ピットの規模は、径50～13cm、深さ65～12cm、杭痕跡の規模は、径26～３cm、深さ50～６cmである。

(3) 形態について

平面プランは、ほぼ検出面形と底面形が同じ平面形系を示す。その組成は、長方形系（長方形・隅丸長方形）と円形系（円形・楕円形）のほぼ２種類である。断面形は、土坑上部を削平されたものもあるが、フラスコ状を呈するものと、逆台形を呈するもの、の２種類にほぼ分類できる。

(4) 埋土について

埋積状況には１つの傾向がある。土層は、おおむね３段階の埋積を示し、上層は淡い黒褐色土系、中層は地山土を含んだ黒褐色土系、下層は地山土を少量含んだ淡い黒褐色土系という構成が基本になっている。例外的な構成として、最下層に地山土と非常によく似た土質の層を検出した。自然堆積とは考えがたく、杭の固定土として使用した等の可能性を推測する。

(5) 底面の施設について

土坑底面の小穴については、底面ピットを持つもの（32基)、底面に直接穿たれた杭痕跡を持つもの(17基)、土坑底面に小穴を持たないもの（５基)、の３種がみられる。３種の内、底面ピット・杭痕跡を持つ落し穴の中には、石を使用し杭の固定に特に留意している様子がうかがわれる。顕著な例として、21号落し穴、31号落し穴、45号落し穴が挙げられる。

(6) 形態と底面の施設の関係について

当遺跡の落し穴については、形態と、土坑底面の小穴の関係によって、２種類（Ⅰ類とⅡ類）に分類できる。Ⅰ類は、平面は円形系、断面形はフラスコ状、底面に直接穿たれた杭痕跡を持つか、あるいは小穴は持たないもの、である。Ⅱ類は、平面は長方形系、断面は逆台形、底面ピットを持つもの、である。Ⅰ類は、８基（１～８号）Ⅱ類は、46基（９～54号）を検出した。

(7) 遺物・時期について

遺物については、ほぼ土坑上層部より、縄文時代の土器片、黒曜石の剝片、石器、を検出している。顕著な例として、８号落し穴（石器)、26号落し穴（土器片)、31号落し穴（土器片・黒曜石剝片)、34号落し穴（土器片・黒曜石剝片・石器）が挙げられる。また、31号落し穴の下層中から炭化木を検出した。あまりにもろく樹種の同定は不可能であった。炭化木の時期については、放射性炭素年代測定によって、B.P.4080±80という結果が得られた。出土層位から、この落し穴の形成時期をほぼ示すものといえよう。

落し穴全体の時期については、土坑上層部ではあるが、複数の落し穴から縄文時代の中期～後期と思われる土器片、黒曜石の剝片、石器等が出土していることを考えると縄文時代と言える。

１号落し穴（挿図５・図版４）

Ｆ２グリッドの北東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ円形を呈し、底面ピットは検出されなかった。断面はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は、①～⑤層は自然堆積したと思われる。⑥～⑨層は壁面が崩落したか、もしくは人為的に埋め戻した可能性も考えられる。特に⑧層は版築状に堆積している。

2号落し穴（挿図5）

Ｆ７グリッドの北東寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ円形を呈し、底面ピットは検出されなかった。上部はかなり削平を受けたと思われる。断面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は、自然堆積し、④・⑤層は壁面が崩落した地山ブロックと思われる。

3号落し穴（挿図6・図版4）

B17グリッドの南寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ円形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を4つ持つ。断面形は下部でフラスコ状を呈する。埋土は、自然堆積したものと思われる。

4号落し穴（挿図6・図版4）

B18グリッドの南西隅に位置し、斜面に立地する。検出面は不定形、底面は円形を呈し、底面ピットはなく、杭痕跡を3つ持つ。断面形はフラスコ状を呈する。埋土は、自然堆積したと思われる。

5号落し穴（挿図7・図版5）

A18グリッドの北寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともに円形を呈し、底面ピットは検出されなかった。断面はほぼ垂直に立ち上がり、下部ではややフラスコ状を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

6号落し穴（挿図7）

C18グリッドの中央に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面はほぼ円形で、底面ピットは検出されなかった。断面はほぼ垂直に立ち上がっているが、下部ではフラスコ状を呈する。木根による攪乱が見られた。埋土は自然堆積と思われる。

7号落し穴（挿図8・図版5）

F27グリッドの北東寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともに円形を呈し、底面ピットは検出されなかった。断面はほぼ垂直に立ち上がり、下部ではややフラスコ状を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

8号落し穴（挿図8、60・図版5、40）

C23グリッドの南東寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともに円形を呈し、杭痕跡を4つ持つ。土層断面に見られる浅い窪みは杭を穿つ際に掘れてしまったものではなかろうか。また、土坑底面の南隅に浅い溝を検出したが、用途は不明である。断面形はフラスコ状を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。また、剝片尖頭器（Ｓ１）を検出した。

9号落し穴（挿図9・図版6）

Ｆ２グリッドの東寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともに長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピット内には黄茶褐色土（③層）が入り込み、３本の杭痕跡（②層）が確認できた。③層は杭の固定土の可能性が考えられる。断面は当初逆台形を呈していたと思われるが、土坑上部を削平されたためほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は、①層は自然堆積と思われる。

10号落し穴（挿図9・図版7）

Ｄ１グリッドの北寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は隅丸長方形、底面は長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれた杭痕跡を6つ持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われ

る。

11号落し穴（挿図10）

Ｄ１グリッドの南西寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

12号落し穴（挿図10）

Ｄ12グリッドの北東よりに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は当初逆台形を呈していたと思われるが、土坑上部を削平されたためほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は、自然堆積と思われる。

13号落し穴（挿図11・図版６）

Ｄ11グリッドの中央に位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれた杭痕跡を２つ持つ。断面は当初逆台形を呈していたと思われるが、土坑上部を削平されたためほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は、自然堆積と思われる。

14号落し穴（挿図11・図版６）

Ｃ11グリッドの南東寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、⑧層以外は自然堆積と思われる。平面ではとらえられなかったが、⑧層は杭の固定土で、⑦層が杭痕跡の可能性がある。

15号落し穴（挿図12・図版８）

Ｄ11グリッドの北西隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともに長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれた杭痕跡を４つ持つ。土層断面に見られる浅い窪みは杭を穿つ際に掘られたものではなかろうか。断面は当初逆台形を呈していたと思われるが、土坑上部を削平されたためほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は、①・②層は自然堆積と思われる。平面ではとらえられなかったが、③層は杭の固定土の可能性がある。

16号落し穴（挿図12・図版８）

Ｄ10グリッドの南西隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に穿たれた杭痕跡を３つ持つ。土坑底面中央に見られる盛り上がりは、杭の固定土か、又は掘り残しか、判別できなかった。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

17号落し穴（挿図12・図版９）

Ｄ10グリッドの北西寄りに位置し、斜面に立地する。検出面はほぼ隅丸長方形、底面は長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピット内に３つの杭痕跡を検出した。断面は逆台形を呈する。埋土は、①・②層は自然堆積と思われる。③～⑥層は埋め戻した固定土の可能性がある。

18号落し穴（挿図13・図版10）

Ｄ９グリッドの中央に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピット内に２つの杭痕跡を検出した。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

19号落し穴（挿図13・図版８）

Ｄ７グリッドの南東寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面は楕円形、底面は長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

20号落し穴（挿図14・図版８）

Ｄ13グリッドの南東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピット（⑥層）を持つ。⑥層以外の土坑底面の小穴２つは攪乱と考えられる。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われるが、⑦層は攪乱層と考えた。また、底面ピット内に５cm大の石を１個検出した。この石が杭の固定に使用されたかどうかは、判別できなかった。

21号落し穴（挿図14・図版11）

Ｃ14グリッドの東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を５つ持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われるが、⑥・⑧層は杭の固定土の可能性も考えられる。また、杭痕跡の上部に、８～12cm大の石を４個検出した。杭の固定に使用したと考えられる。

22号落し穴（挿図15）

Ｄ14グリッドの南東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

23号落し穴（挿図16）

Ｄ15グリッドの北隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。26号落し穴と切り合っている。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれた杭痕跡を２つ持つ。26号落し穴側の底面の浅い窪みは、杭痕跡ではなかった。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。26号落し穴との新旧関係はつかめなかった。①層中より黒曜石の剝片を１点検出した。

24号落し穴（挿図15）

Ｄ14グリッドの南西に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を６つ持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

25号落し穴（挿図16・図版11）

Ｄ15グリッドの北東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

26号落し穴（挿図16、59・図版40）

Ｄ15グリッドの北隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。23号落し穴と切り合っている。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を２つ持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。中層から、縄文時代中期と考えられるＰｏ１（早期の可能性もある）を検出した。

27号落し穴（挿図17・図版11）

B16グリッドの北西寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。上層から、黒曜石の剝片を4点検出した。埋土中より縄文時代中期と考えられる土器片を検出した。

28号落し穴（挿図17）

B17グリッドの北寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

29号落し穴（挿図18）

C18グリッドの南西よりに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

30号落し穴（挿図18）

B19グリッドの北東隅に位置し、緩斜面に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

31号落し穴（挿図19、59・図版12、40）

C15グリッドの東寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。SI－04（古墳時代の竪穴住居跡）と切り合い関係にある。⑤・⑥層がSI－04の埋土であり、SI－04がこの落し穴を切っている。この落し穴の一部を破壊してSI－04が構築されたのであろう。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピット内に4つの杭痕跡を検出した。杭痕跡を囲む様なかたちで10cm大の石を6個検出した。石は底面ピット内に入り込んでいるものもあり、杭の固定に使用したと思われる。断面は逆台形を呈する。埋土中に、地山土と非常によく似た土（②・③層）が多量に入り込んでいた。単なる壁面崩落ではなく、人為的に埋め戻した可能性も考えられる。遺物としては、土坑上層ではあるが、縄文時代中期と考えられる土器片（Po 1・2・3）、埋土中にも縄文時代中期と思われる土器片（Po 4）が出土した。黒曜石の剝片も多数出土した。また、埋土中より多量の炭化物を検出した。特に土坑下層で、炭化木（長軸35cm、短軸15cm、厚さ3cm）を検出した。（付論『百塚第7遺跡出土資料の放射性炭素年代測定結果』参照）

32号落し穴（挿図20）

C15グリッドの北西寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。底面ピット内に、10cm大の石を1個検出したが、杭の固定に使用したかどうかは判別できなかった。また、土坑上層より黒曜石の剝片3点が出土した。

33号落し穴（挿図20）

C15グリッドの南西寄り位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われるが、地山とよく似た土層（④～⑥層）は、杭の固定土の可能性も考えられる。また、上層より黒曜石の剝片を1点、下層より炭片（長軸10cm、短軸6cm、厚さ5cm）、土坑底面にめり込むかたちで8cm大の石を1個検出した。

34号落し穴（挿図21、59、60・図版13、40）

B16グリッドの北西よりに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面はほぼ逆台形を呈する。埋土ついては、⑥層が杭の固定土の可能性が考えられる。遺物は、Po１・２を上層より検出した。Po１は、時期・器種は不明であるが、つまみ状のものではなかろうか。Po２は、縄文時代後期の土器片と思われる。同じく上層より、サヌカイトの石鏃（Ｓ１）が出土した。また、多数の黒曜石の剝片も検出した。

35号落し穴（挿図21、60・図版13、40）

D16グリッドの北西寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピット内に、３つの杭痕跡を検出した。断面は逆台形を呈する。埋土は、①～⑦層は自然堆積と思われるが、⑧層は杭の固定土の可能性がある。遺物としては、玉髄の剝片（Ｓ１）と、黒曜石の剝片を１点上層より検出した。

36号落し穴（挿図22）

B17グリッドの南東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

37号落し穴（挿図22）

B16グリッドの北東寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面は不定形、底面は隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

38号落し穴（挿図23・図版13）

C21グリッドの北西隅に位置し、緩斜面に立地する。検出面は楕円形、底面はほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。土坑上部を削平されてはいるが、断面は当初逆台形を呈していたと思われる。埋土は、自然堆積と思われる。

39号落し穴（挿図23）

C21グリッドの北東隅に位置し、斜面に立地する。検出面は隅丸長方形、底面は長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

40号落し穴（挿図24・図版14）

D23グリッドの中央に位置し、緩斜面に立地する。３号土坑と切り合い関係にある。新旧関係は判別できなかった。検出面は不定形、底面は長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を５つ持つ。この杭痕跡は土坑の床面（固い砂質の層）にしっかりと残っていた。断面は逆台形を呈する。埋土は、⑦層が地山とよく似た土で、杭の固定土の可能性がある。

41号落し穴（挿図24）

F26グリッドの南寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

42号落し穴（挿図25・図版14）

E25グリッドの南東隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ長方形を呈し、底面ピットはな

く、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を５つ持つ。断面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は、自然堆積と思われる。

43号落し穴（挿図25）

Ｃ13グリッドの南西寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

44号落し穴（挿図26・図版14）

Ｂ13グリッドの北東隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピットの下部の掘り込みは、杭痕跡の可能性も考えられる。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

45号落し穴（挿図26・図版15）

Ｃ22グリッドの東隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ長方形を呈し、底面ピットを持つ。底面ピット内に４つの杭痕跡を検出した。断面は、一部攪乱を受けてはいるが、逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われるが、底面ピット内に入り込んでいる⑥層は杭の固定土の可能性がある。また、杭痕跡を囲むようなかたちで底面ピット上部に、10cm大の石を４個検出した。杭の固定に使用したものと思われる。

46号落し穴（挿図27・図版15）

Ｄ23グリッドの北西寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットはなく、底面に直接穿たれたと思われる杭痕跡を４つ持つ。断面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は、自然堆積と思われる。

47号落し穴（挿図27・図版16）

Ｃ20グリッドの西隅位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は、土坑上部を削平されたためほぼ垂直に立ち上がっているが、当初は逆台形を呈していたと思われる。埋土は、自然堆積と思われる。

48号落し穴（挿図28）

Ｂ19グリッドの北東寄りに位置し、緩斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

49号落し穴（挿図28・図版16）

Ｃ17グリッドの西隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

50号落し穴（挿図29・図版16）

Ｄ18グリッドの北隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともに長方形を呈し、底面ピットはなく、杭痕跡を３つ持つ。断面は、逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

51号落し穴（挿図29・図版16）

Ｃ13グリッドの南東隅に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。SI－02（古墳時代の竪穴住居跡）に切られて

いる。検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、底面ピットはなく、杭痕跡を４つ持つ。断面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は、自然堆積と思われる。

52号落し穴（挿図30）

Ｃ13グリッドの北隅に位置し、斜面に立地する。検出面は不定形、底面はほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

53号落し穴（挿図30・図版17）

Ｄ14グリッドの北西に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。SI－02（古墳時代の竪穴住居跡）に切られている。SI－02に一部破壊されてはいるが、検出面・底面ともに長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。⑧～⑩層はSI－02埋土であると考える。

54号落し穴（挿図31）

Ｄ８グリッドの南西に位置し、丘陵上面平坦部に立地する。SI－01の床面で検出した。SI－01に切られているため土坑上部を破壊されている。検出面・底面ともにほぼ隅丸長方形を呈し、底面ピットを持つ。断面は逆台形を呈する。埋土は、自然堆積と思われる。

第２節　弥生時代の遺構

百塚第７遺跡のなかで弥生時代の遺構と考えられるものは、竪穴住居跡と土坑（貯蔵穴）である。

１．竪穴住居跡

弥生時代の竪穴住居跡と考えられるものを１棟検出した。

ＳＩ－07（挿図32、61・図版18、41）

位　　置　　Ｆ26～27グリッドにあり、標高23.7～24.2mの斜面に立地する。

形　　態　　幅（北西－南東）5.5m、奥行き（南西－北東）1.5mのテラス状に残存するのみであるが、その平面形は弧を描くことから、住居の平面形は円形と推定される。その場合、直径は7.4mと推測される。残存壁高は最大で40cmを測る。

主柱穴はＰ１（26×25－62）cm、Ｐ２（25×25－60）cm：の２個が残存している。柱穴間距離は2.2mを測る。

焼土面は確認できなかった。

壁面に沿って幅10～15cm、深さ２～５cmの側溝が掘られている。Ｐ１の北東で幅が狭くなっている。

埋　　土　　埋土は４層（①～④）に分層でき、自然堆積と考えられる。

出土遺物　　Ｐ２周辺の床面で弥生土器甕２個（Po１・２）が出土した。

時　　期　　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

２．貯蔵穴

貯蔵穴と考えられる土坑を８基検出した。

(1)　立地について

これらは、調査区の南端の狭い範囲に密集して存在し、斜面に立地していた。

(2)　規模について

土坑上部を削平されていると考えられるものがほとんどであるが、検出面の長軸は181～115cm、短軸144～75cm、底面の長軸は218～127cm、短軸135～85cm、深さは125～55cmである。

(3)　形態について

平面プランは、検出面・底面ともにほぼ円形を示す。断面形は、袋状かそれにちかい形態を呈する。

(4)　埋土について

埋土は、基本的に黒褐色土系の自然堆積層で形成されている。ただ、土坑下層部で地山と非常によく似た層を検出した。当初、土坑の床面と考えたが、掘り下げていくとまた新たに黒褐色土系の土器片を含んだ層を検出したものがいくつかあった。そこには人間の関与を想定させる。

(5)　遺物・時期・性格について

８基すべてに多量の土器が伴われていた。これらは弥生時代中期後葉にあたるものであり、短期間にこの土坑が掘られたことになる。ほぼその時期に、これらの土坑が形成されたと思われる。また、この土坑の近くで同時期と考えられる竪穴住居跡（SI－07）を検出した。この竪穴住居で生活するにあたって、これらの貯蔵穴を使用したのではなかろうか。

当遺跡のこれらの土坑にともなう土器は、１固体で出土するものが少なく、土器片が散在したかたちで出土している。異なる土坑間で接合した土器片もあった。また、土器以外の遺物（植物遺体等）は検出されなかった。

これらのことから、この８基の土坑は貯蔵穴ではあるが、貯蔵穴として使用した後に土器を捨てたものではなかろうか。

１号貯蔵穴（挿図33、61・図版18、19、41）

Ｆ26グリッドの北東寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともにほぼ円形を呈する。断面は、ほぼ袋状を呈する。埋土については、⑤・⑥層が地山によく似た土層である。⑧・⑨層は淡い黒褐色土であり、①～④層（黒褐色土系の土層）とは明らかに違う。この土坑の西側にテラス状の掘り込みがみられる。このテラスの埋土が①～④層で、別の遺構かと考えた。しかし、はっきりとした切り合い関係はみられず、またPo１（①～④層中）とPo２（⑦・⑧層中）にほとんど時期差がないことから別の遺構とは判別できなかった。遺物としては、甕（Po２）や壺（Po１）等が出土している。また、この貯蔵穴のPo１と７号貯蔵穴の埋土中より出土した土器片が接合した。

２号貯蔵穴（挿図34、61、62・図版22、42、43）

Ｅ25グリッドの中央に位置し、斜面に立地する。検出面はほぼ楕円形、底面は円形を呈する。断面は袋状を呈する。埋土は、自然堆積したと思われる。遺物としては、甕（Po１・２・９・11）、脚付甕の脚部（Po３・６）、壺（Po７・８）等が出土している。

３号貯蔵穴（挿図33、63・図版19、43）

Ｅ25グリッドの北西寄りに位置し、斜面に立地する。一部を破壊されてはいるが、検出面・底面とも円形を呈する。断面は袋状を呈する。埋土は、①～④層は自然堆積と思われるが、⑤層は地山とよく似た土で、埋め戻した可能性も考えられる。遺物としては、甕（Po２）等が出土している。

４号貯蔵穴（挿図35、63・図版20、44）

Ｆ27グリッドの北隅に位置し、斜面に立地する。検出面はほぼ円形、底面は楕円形を呈する。断面形は土坑の東側が袋状を呈する。埋土は、①層は自然堆積と思われるが、②～④層は地山とよく似た土で、壁面の崩落若しくは埋め戻した可能性がある。遺物としては、高杯（Po１）等が出土している。

５号貯蔵穴（挿図36、63・図版20、21、43）

Ｅ26グリッドの北東寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面とも円形を呈する。断面は垂直に立ち上がっているが、土坑上部を削平される以前は袋状を呈していたと思われる。埋土は、自然堆積と思われる。遺物としては、弥生土器の底部片と考えられるPo１・２等が出土している。この貯蔵穴のPo２と６号貯蔵穴のPo６が接合した。また、石３個と土塊を土坑下部で検出した。土塊は、表面が茶褐色で内部は黒褐色で固く、鉄分を含んだ土の固まりという感じであった。成分は不明である。

６号貯蔵穴（挿図37、63・図版21、44）

Ｆ26グリッドの西隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともほぼ円形を呈する。断面はほぼ垂直に立ち上がっているが、土坑上部を削平される以前は袋状を呈していたと思われる。埋土は、自然堆積と思われる。遺物としては、甕（Po１・２・４・７）、脚付甕（Po５）等が出土した。この貯蔵穴のPo４と２号貯蔵穴の埋土中から出土した土器片が接合した。また、この貯蔵穴のPo５と７号貯蔵穴の上層から出土した口縁部片（７号貯蔵穴のPo６）が接合した。そのほか、石を３個と５号貯蔵穴と同様の土塊を検出した。

7号貯蔵穴（挿図39、64・図版22、44、45）

E26グリッドの北寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面とも楕円形を呈する。断面はほぼ垂直に立ち上がっているが、土坑上部を削平される以前は袋状を呈していたと思われる。埋土は、自然堆積と思われる。遺物としては、甕（Po 3～5）、脚付甕の脚部（Po 1）等が出土した。この貯蔵穴のPo 6は6号貯蔵穴のPo 5と接合した。この貯蔵穴の上層より出土したPo 6は単なる流れ込みというよりも、土器廃棄の際に転げ落ちたのではなかろうか。

8号貯蔵穴（挿図38、45、64、65・図版23、31、45、46）

F27グリッドの北東寄りに位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともほぼ楕円形を呈する。SI－08（古墳期の竪穴住居跡）に切られている。断面は袋状を呈する。埋土については、①～④層はSI－08の土層であると考える。⑤～⑫層はこの貯蔵穴の埋土と考えられる。⑦～⑪層には黄褐色土系のブロックが多少とも混在したものであり、土坑の掘り下げに伴う廃土が土坑の埋土になっている可能性が考えられる。特に⑪層は地山とよく似た土で、当初床面かと考えるほどであった。遺物としては、甕（Po 1～4・8・9）、壺（Po 5）等が出土した。Po 6・7は土坑上層より出土した。

第３節　古墳時代の遺構

百塚第７遺跡のなかで古墳時代の遺構と考えられるものは、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝状遺構である。

１．竪穴住居跡

古墳時代の竪穴住居跡と考えられるものを７棟検出した。

ＳＩ－02（挿図41、66、図版24～26、46～48）

位　　置　　Ｃ13～14、Ｄ13～14グリッドにあり、標高27.9～28.7mの丘陵上面平坦部の端部に立地する。

重複関係南隅で53号落し穴と、Ｃ13グリッドで51号落し穴と切り合うが、どちらも住居建造前に埋没していたものである。

形　　態　　平面形は方形を呈する。規模は北東－南西4.25m、南東－北西3.6m以上で、北西の傾斜面側は流出に加えて、削平を受けていると考えられる。残存壁高は南東側で最大80cmを測る。

主柱穴は位置的にＰ２（35×35－54）cm、Ｐ５（33×30－48）cm、Ｐ７（43×37－61）cm、Ｐ８（45×42－57）cm：の４個が考えられる。柱穴間距離はＰ２－Ｐ５から順に3.0m、2.4m、2.8m、2.4m、である。補助柱穴はＰ１（62×54－65）cm、Ｐ３（44×40－28）cm、Ｐ４（31×30－44）cm、Ｐ６（50×45－50）cm、Ｐ９（45×42－57）cm：の５個が考えられる。Ｐ１、Ｐ３、Ｐ４、Ｐ６、Ｐ７、Ｐ９では柱の抜き取り痕を確認した。Ｐ１の底から底面の半分を塞ぐ大きさの礫が検出された。ほかのピットには存在しないことから、柱穴の深さを調節するために沈められたものと考えられる。

南東壁際中央のＰ10（46×41－68）cm：の底からは表面が滑らかな川原石（Ｓ１）と、それを覆う⑭層の上面より、完形の土師器椀（Po５）が出土した。北西側のＰ11（55×53－24）cm：の底からは焼けて表面に亀裂が入った礫（Ｓ２）と、それに覆いかぶせるように意図的に配置された土師器甕（Po１）と土師器壷（Po７）、その他の破片が出土した。これら２個のピットは特殊ピットと考えられる。Ｓ２の表面には、櫛で掻いたような線刻がある。

床面には全面に貼床が施されている。柱痕を残し、貼床が柱穴の上面を覆っていたことから、貼床は柱穴の掘削後に施されたと考えられる。中央部に75cm×50cmの範囲で焼土面が検出された。

側溝は北西側を除く３方で検出された。貼床を施した後で掘られている。幅15cm～20cm、深さ9cm～14cmを測る。

埋　　土　　埋土は16層に分層できる。一部攪乱を受けている（③・④層）が、自然堆積と考えられる。

出土遺物　　埋土中より土師器甕（Po２～４・６）、須恵器有蓋高杯（Po８）、須恵器壷（Po９）が出土している。

時　　期　　出土遺物より、古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＩ－03（挿図40、67・図版26、27、49）

位　　置　　Ｄ15グリッドにあり、標高29.5mの丘陵上面平坦部に位置する。

形　　態　　平面形は方形を呈する。規模は北東－南西3.34m、南東－北西3.1～3.3m、残存壁高は最大20cmを測る。

主柱穴はＰ１（50×46－33）cm、Ｐ２（43×40－43）cm：の２個で、柱穴間距離は１mを測る。

南東壁際にある平面形が円形のＰ３（36×33－32）cm、は位置的に柱穴以外の用途を持つ特殊ピットと考えられる。

床面に貼床はなく、中央に（26×22）cmの範囲で焼土面（⑧層）が検出された。側溝は検出していない。

埋　　土　埋土は７層に分層でき、自然堆積と考えられる。
出土遺物　土師器甕（Po１～３・５・６）、土師器高杯（Po４）が出土している。
時　　期　出土遺物より、古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＩ－04（挿図42、67・図版28、29、49、50）
位　　置　Ｃ15グリッドにあり、標高29.3mの丘陵上面平坦部に位置する。東側にＳＩ－03がある。
重複関係　北東壁で31号落し穴と切り合う。落し穴の埋没後に住居が建造されている。
形　　態　平面形は方形を呈する。規模は北東－南西4.2m、南東－北西4.0m、残存壁高は最大30cmを測る。
主柱穴はＰ３（25×23－37）cm、Ｐ５（28×28－47）cm：の２個で、柱穴間距離は1.4mを測る。
南東壁際に平面形が長方形のＰ２（36×25－28）cm、東隅に平面形が円形のＰ１（62×57－22）cm、西隅に平面形が円形のＰ６（45×43－13）cm：がある。これらは位置的に柱穴以外の用途を持つ特殊ピットと考えられる。
床面に貼床はなく、中央ピットＰ４（57×50－12）cm：では焼土面を確認した。側溝は四方で検出された。南北隅で溝は終息する。幅５～10cm、深さ３～６cmを測る。
埋　　土　埋土は８層に分層でき、自然堆積と考えられる。
出土遺物　埋土中より、須恵器蓋杯（Po１・２）、土師器高杯（Po３）、土師器杯（Po４）が出土している。
時　　期　出土遺物より、古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＩ－05（挿図44、67・図版29、30、50）
位　　置　Ｃ17～18グリッドにあり、標高29.0mの丘陵上面平坦部に位置する。
重複関係南東壁でＳＢ－01と切り合っているが、ＳＢ－01はＳＩ－05の埋没後に建造されている。
形　　態　平面形は長方形を呈する。規模は北西－南東4.5m、北東－南西3.35m、残存壁高は最大で53cmを測る。
主柱穴はＰ１（50×35－73）cm、Ｐ２（47×45－57）cm：の２個で、主柱穴間距離は1.6mを測る。
西隅に平面形が円形のＰ３（64×57－23）cm、北東壁際に平面形が不整長方形のＰ４（45×43－51）cm、北隅に平面形が不整円形のＰ５（50×30－8）cm：がある。これらは位置的に柱穴以外の用途を持つ特殊ピットと考えられる。
床面に貼床はない。中央ピットＰ６（65×40－10）cm：は、（65×26）cmの範囲で焼土面を確認した。また、Ｐ２より南東側の床面に（60～80×7～20）cmの焼土面が３列確認された。
側溝はほぼ全周しており、幅15～20cm、深さ8～10cmを測る。
埋　　土　10層に分層できた。①～⑥層までの埋土からは、木炭の小片が多量に出土している。また、⑤層の赤褐色土は明らかに熱を受けて変色したものである。したがってＳＩ－05は消失住居と考えられる。その場合、前述した３列の焼土面は燃えおちた建材によって生じたものと推測される。
出土遺物　②層より土師器甕（Po１・３）、土師器高杯（Po２）が出土している。Po３はほぼ完全な形で復元できた。出土状況から見て、この土器は鎮火後に意図的に置かれたものと考えられる。
時　　期　出土遺物より、古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＩ－06（挿図43、68・図版30、31、50、51）
位　　置　Ｄ17～18、Ｅ17～18グリッドにあり、標高29.5mの丘陵上面平坦部に位置する。東端は調査区外にかかる。
形　　態　平面形は方形を呈する。規模は南北5.7～5.9m、東西4.8～5.0m、残存壁高は最大で60cmを測る。
主柱穴は、Ｐ１（40×34－63）cm、Ｐ２（33×30－57）cm、Ｐ３（37×34－63）cm、Ｐ４（32×

28－40）cm：の４個である。柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝2.5m、Ｐ２－Ｐ３＝2.4m、Ｐ３－Ｐ４＝2.35m、Ｐ４－Ｐ１＝2.3mである。Ｐ２、Ｐ３では柱の抜き取り痕が認められる。

特殊ピットとしては、北西隅に平面形が円形のＰ５（30×29－92）cm：がある。Ｐ１とはわずかに16cmしか離れていない。内側はやや袋状に拡がり、底部付近から土師器高杯（Po４）が出土している。用途は不明だが、隔絶した深さと埋土の堆積状況からは柱穴とは考えにくい。

床面に貼床はない。中央ピットＰ６（60×50－6.5）cm：では焼土面を確認した。

側溝は調査区内においては全周する。幅20～25cm、深さ7～10cmを測る。

埋　　土　埋土は４層に分層できる。柱の固定土と見られる④層を除けば自然堆積と考えられる。

出土遺物　埋土中より、土師器鉢（Po１）、土師器甕（Po２・５）、土師器椀（Po３）が出土している。

時　　期　出土遺物より古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＩ－08（挿図45、68・図版31、51）

位　　置　Ｆ27グリッドにあり、標高24.5mの斜面に位置する。

重複関係　８号貯蔵穴を切っている。

形　　態　南西側をかなり削平されているが、平面形は長方形を呈していたと思われる。残存規模は、北西－南東4.10m、北東－南西1.02m、残存壁高は最大40cmを測る。柱穴は検出していない。

側溝は削平を受け、一部しか残存していない。規模は、北西－南東3.20m、北東－南西0.31m、深さは最大７cmを測る。

床面では、８号貯蔵穴を埋め戻したと考えられる貼床を検出した。

埋　　土　①～③層は自然堆積と考えられるが、④層は貼床であると思われる。また、⑤～⑫層は８号貯蔵穴の埋土と考えられる。

出土遺物　②層中より土師器甕片（Po１・２）等が出土している。また、⑥層中より弥生土器の甕の底部片（Po６・７）が出土している。これは、８号貯蔵穴の遺物と考えられる。

時　　期　出土遺物より、古墳時代後期と考えられる。

ＳＩ－09（挿図32・図版18、32）

位　　置　Ｅ26、Ｆ26～27グリッドにあり、標高22.9～23.5mの斜面に位置する。斜面上方にＳＩ－07があり、これを切るようにして造られている。

形　　態　幅（北西－南東）4.6m、奥行き（南西－北東）0.8mのテラス状に残存するのみであるが、その平面形は、かすがい状を呈することから、住居の平面形は方形であったと推定される。残存壁高は最大で62cmを測る。

柱穴は確認できなかった。北東壁際に特殊ピットと見られるＰ１（86×50－15）cm：があり、底面で焼土が検出された。北西壁際のＰ２（17×16－12）cm：は、住居に伴うものかどうか判断できなかった。

床面に貼床はなく、壁面に沿って幅５～16cm、深さ５～14cmの側溝が掘られている。

埋　　土　埋土は４層（⑤～⑧）に分層できる。⑤層からは大きな木炭片を検出しており、全体的に炭化物を含む土が堆積している。消失住居と考えられる。

出土遺物　埋土中より土師器片が出土している。器種は不明である。

時　　期　出土遺物と住居の形態から、古墳時代のものと推定される。

２．掘立柱建物跡

古墳時代の掘立柱建物跡と考えられるもの５棟を検出した。

ＳＢ－01（挿図47、68・図版33、51）

位　　置　Ｃ18、Ｄ17～18グリッドにあり、標標28.7～29.2mの丘陵上面平坦部に位置する。西妻側でＳＩ－05と重複する。

形　　態　梁行２間（4.0～4.4m）×桁行北東側４間、南西側３間（6.1～6.2m）。主軸方向はＮ－32°－Ｗで、先行するＳＩ－05の長軸方向（Ｎ－31°－Ｗ）とほぼ同一である。

柱穴は全部で11個を確認した。それぞれの規模は、Ｐ１（47×44－103）cm、Ｐ２（47×43－105）cm、Ｐ３（42×35－81）cm、Ｐ４（43×40－80）cm、Ｐ５（50×45－57）cm、Ｐ６（37×32－95）cm、Ｐ７（37×30－73）cm、Ｐ８（35×35－78）cm、Ｐ９（44×40－91）cm、Ｐ10（43×40－49）cm、Ｐ11（39×37－50）cmである。柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝1.8m、Ｐ２－Ｐ３＝1.35m、Ｐ３－Ｐ４＝1.4m、Ｐ４－Ｐ５＝1.67m、Ｐ５－Ｐ７＝2.25m、Ｐ７－Ｐ11＝2.13m、Ｐ11－Ｐ10＝1.7m、Ｐ10－Ｐ９＝2.53m、Ｐ９－Ｐ８＝1.77m、Ｐ８－Ｐ６＝1.8m、Ｐ６－Ｐ１＝2.2mである。

中央部のやや北西寄りにあるＰ11（61×39－26）m：は、平面形が長円形で、柱穴に比べてかなり浅い。埋土中から土師器片が出土している。

埋　　土　３層からなる。Ｐ７、Ｐ８では抜き取り痕が見られる。Ｐ９の③層は建材に合わせて穴の深さを調節するためのものと推定される。Ｐ３では検出面からの深さ約20cmのところから、柱穴を塞ぐような状態で、柱穴の平面規模とほぼ同大の平たい石を検出した。石の上下で埋土に変化は見られない。一部柱穴壁面に食い込んでいたことと、ほぼ水平な状態だったことから、意図的に置かれたものと考えられるが、性格は不明である。

出土遺物　Ｐ９・Ｐ10の埋土中より土師器甕（Po１・Po２）、Ｐ１の埋土中より土師器高杯（Po３）が出土している。

時　　期　出土遺物より古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＢ－03（挿図48、68・図版33、34、51）

位　　置　Ｂ15～16、Ｃ15～16グリッドにあり、標高29.1～29.2mの丘陵上面平坦部に位置する。北東側にＳＩ－04がある。

形　　態　梁行２間（4.6～4.7m）×桁行３間（4.0～4.3m）。主軸方向はＮ－62°－Ｅ。

柱穴は全部で11個を確認した。それぞれの規模は、Ｐ１（35×37－60）cm、Ｐ２（49×43－45）cm、Ｐ３（35×33－75）cm、Ｐ４（46×40－32）cm、Ｐ５（37×36－67）cm、Ｐ６（42×43－39）cm、Ｐ７（40×33－28）cm、Ｐ８（36×36－27）cm、Ｐ９（52×45－49）cm、Ｐ10（36×35－34）cm、Ｐ11（44×38－62）cmである。Ｐ１とＰ６の間に33号落し穴があったために、存在したであろうピットの平面形を確認することができなかった。

柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝2.27m、Ｐ２－Ｐ３＝2.28m、Ｐ４－Ｐ５＝2.3m、Ｐ６－Ｐ７＝2.35m、Ｐ７－Ｐ８＝2.55m、Ｐ９－Ｐ10＝2.28m、Ｐ10－Ｐ11＝2.4m、Ｐ３－Ｐ５＝1.38m、Ｐ５－Ｐ８＝1.17m、Ｐ８－Ｐ11＝1.45m、Ｐ２－Ｐ４＝1.3m、Ｐ４－Ｐ７＝1.25m、Ｐ７－Ｐ10＝1.4m、Ｐ６－Ｐ９＝1.45mである。

埋　　土　６層からなる。Ｐ３の③層は柱の固定土と考えられる。

出土遺物　Ｐ２・Ｐ３の埋土中からそれぞれ須恵器蓋杯（Po１）・須恵器高杯（Po２）が出土している。

時　　期　出土遺物より、古墳時代後期前葉と考えられる。

ＳＢ－04（挿図49・図版33、34）

位　　置　Ｂ15、Ｃ15グリッドにあり、標高28.8～29.1mの丘陵上面平坦部に位置する。南南東側２mにＳＢ

—03がある。

形　　態　梁行２間（3.3～3.4m）×桁行２間（3.4～3.7m）で、主軸方向はN－72°－Eである。

柱穴は全部で10個を確認した。それぞれの規模は、Ｐ１（33×30－47）cm、Ｐ２（37×35－10）cm、Ｐ３（35×33－59）cm、Ｐ４（34×33－47）cm、Ｐ５（29×28－47）cm、Ｐ６（40×32－32）cm、Ｐ７（34×28－26）cm、Ｐ８（29×28－23）cm、Ｐ９（36×31－24）cm、Ｐ10（41×40－53）cmである。

柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝1.7m、Ｐ２－Ｐ３＝1.7m、Ｐ４－Ｐ５＝1.7m、Ｐ５－Ｐ６＝1.55m、Ｐ７－Ｐ８＝1.7m、Ｐ７－Ｐ９＝1.75m、Ｐ８－Ｐ10＝1.65m、Ｐ９－Ｐ10＝1.65m、Ｐ１－Ｐ４＝1.68m、Ｐ４－Ｐ７＝1.75m、Ｐ２－Ｐ５＝1.72m、Ｐ５－Ｐ８＝1.55m、Ｐ８－Ｐ９＝0.45m、Ｐ３－Ｐ６＝1.77m、Ｐ６－Ｐ10＝1.7mである。

埋　　土　埋土は３層からなる。Ｐ３、Ｐ６では抜き取り痕がみられる。

出土遺物　遺物は出土していない。

時　　期　ＳＢ－03と隣り合い、主軸方向が近い事から、それと近い時期（古墳時代後期）を想定する。

ＳＢ－05（挿図49・図版33、34）

位　　置　Ｂ15グリッドにあり、標高28.8～29.1mの丘陵上面平坦部に位置する。ＳＩ－04と交差する。

形　　態　梁行北東側２間、南西側１間（3.35～3.53m）×桁行南東側２間、北西側１間（3.25～3.5m）で、主軸方向はN－62°－Eである。

柱穴は全部で６個を確認した。それぞれの規模は、Ｐ１（24×23－19）cm、Ｐ２（26×22－33）cm、Ｐ３（28×22－40）cm、Ｐ４（25×20－40）cm、Ｐ５（23×22－35）cm、Ｐ６（22×22－42）cmである。

柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝1.65m、Ｐ２－Ｐ３＝1.68m、Ｐ３－Ｐ４＝1.65m、Ｐ４－Ｐ６＝1.6m、Ｐ６－Ｐ５＝3.53m、Ｐ５－Ｐ１＝3.5mである。

埋　　土　埋土は１層からなる。

出土遺物　遺物は出土していない。

時　　期　ＳＢ－04のＰ８・Ｐ９はＳＢ－05のＰ４を避けて掘られており、ＳＢ－04とＳＢ－05はほぼ同規模の平面形をしている。そしてＳＢ－05はＳＢ－03と主軸方向を同じくする事から、ＳＢ－05はＳＢ－04に先行し、ＳＢ－03とほぼ同時期（古墳時代後期前葉）のものと想定する。

ＳＢ－06（挿図49・図版34）

位　　置　Ｄ14グリッドにあり、標高29.1～29.2mの丘陵上面平坦部に位置する。北西側４mにＳＩ－02、南側５mにＳＩ－03がある。

形　　態　梁行２間（3.6m）×桁行１間（3.7～3.8m）で、主軸方向はN－47°－Wである。

柱穴は全部で６個を確認した。それぞれの規模は、Ｐ１（24×24－32）cm、Ｐ２（26×25－24）cm、Ｐ３（28×28－58）cm、Ｐ４（23×22－46）cm、Ｐ５（24×24－22）cm、Ｐ６（27×25－74）cmである。柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝1.93m、Ｐ２－Ｐ３＝1.6m、Ｐ３－Ｐ６＝3.77m、Ｐ６－Ｐ５＝1.58m、Ｐ５－Ｐ４＝2.0m、Ｐ４－Ｐ１＝3.65mである。

埋　　土　埋土は１層からなる。

出土遺物　遺物は出土していない。

時　　期　ＳＩ－02、ＳＩ－03、ＳＩ－04の向きとＳＢ－06の主軸方向がほぼ同調する事から、これらと同時期（古墳時代後期前葉）のものと想定する。

3．溝状遺構

ＳＤ－01・02（挿図50、51、68・図版34、35、51、52）

Ｄ15グリッド南東よりＤ17グリッド南西にかけて検出した。検出段階では区別したが、土層状況、出土遺物、溝の走向等から同一遺構と考える。古墳期の竪穴住居跡と同様の丘陵上面平坦部に立地する。溝はほぼ直線的で、走行は北から南である。残存規模は、SD－01が全長7.40m、幅0.26～0.53m、最も深い部分で0.10m、SD－02が全長5.42m、幅0.40～1.10m、最も深い部分で0.22mを測る。埋土は、いずれも黒褐色土系で、自然堆積したと思われる。遺物については、土師器甕（SD－01のPo１、SD－02のPo１）、土師器椀（SD－02のPo２）等が出土した。出土遺物より古墳時代後期と考えられる。

ＳＤ－03（挿図52、68・図版36、51）

Ｆ26～27、Ｇ26～27グリッドで検出した。SI－08（古墳期の竪穴住居跡）に隣接し、斜面に立地する。アーチ状に走り、走行は不明である。残存規模は、全長6.50m、幅0.20～0.50m、最も深い部分で0.20mを測る。埋土は黒褐色土系で、自然堆積したと思われる。遺物は、土師器の甕の口縁部（Po１）等を検出した。出土遺物より古墳時代と考えられる。また、SI－08に伴う溝の可能性も考えられる。

第４節　その他の遺構

１．掘立柱建物跡

時期の不明な掘立柱建物跡を１棟検出した。

ＳＢ－02（挿図53、54）

位　　置　Ｂ15～18、Ｃ17～18グリッドにあり、標高27.8～29.3mの丘陵上面平坦部に位置する。

形　　態　梁行４間（14.6m）×桁行７間（32.0m）で、主軸はＮ－34°－Ｗである。

柱穴は全部で23個を確認した。それぞれの規模は、Ｐ１（58×55－20）cm、Ｐ２（60×55－25）cm、Ｐ３（60×59－25）cm、Ｐ４（53×50－12）cm、Ｐ５（56×55－25）cm、Ｐ６（64×57－31）cm、Ｐ７（55×50－25）cm、Ｐ８（60×55－12）cm、Ｐ９（63×60－9）cm、Ｐ10（50×47－5）cm、Ｐ11（42×40－3）cm、Ｐ12（72×66－17）cm、Ｐ13（60×55－15）cm、Ｐ14（55×50－14）cm、Ｐ15（60×52－18）cm、Ｐ16（50×47－12）cm、Ｐ17（70×60－13）cm、Ｐ18（57×50－7）cm、Ｐ19（70×62－17）cm、Ｐ20（50×50－11）cm、Ｐ21（63×59－10）cm、Ｐ22（54×52－9）cm、Ｐ23（45×42－10）cmである。Ｐ23は軸からはずれた位置にあるが、規模が類似していることから、柱穴のひとつに数えた。西側は傾斜が強くなっているためか、表土をはがした後の地山面では柱穴の痕跡を確認できなかった。

柱穴間距離は、Ｐ１－Ｐ２＝4.5m、Ｐ２－Ｐ３＝4.5m、Ｐ３－Ｐ４＝4.55m、Ｐ５－Ｐ６＝4.65m、Ｐ６－Ｐ７＝4.7m、Ｐ７－Ｐ８＝4.7m、Ｐ８－Ｐ９＝4.55m、Ｐ９－Ｐ10＝4.55m、Ｐ９－Ｐ10＝4.55m、Ｐ12－Ｐ13＝4.5m、Ｐ13－Ｐ14＝4.6m、Ｐ14－Ｐ15＝4.6m、Ｐ15－Ｐ16＝4.55m、Ｐ16－Ｐ17＝4.55m、Ｐ17－Ｐ18＝4.75m、Ｐ19－Ｐ20＝4.6m、Ｐ１－Ｐ５＝3.7m、Ｐ２－Ｐ６＝3.75m、Ｐ６－Ｐ12＝3.5m、Ｐ３－Ｐ７＝3.65m、Ｐ７－Ｐ13＝3.65m、Ｐ４－Ｐ８＝3.76m、Ｐ８－Ｐ14＝3.6m、Ｐ14－Ｐ19＝3.7m、Ｐ９－Ｐ15＝3.5m、Ｐ15－Ｐ20＝3.65m、Ｐ10－Ｐ16＝3.6m、Ｐ11－Ｐ18＝3.8m、Ｐ18－Ｐ21＝3.55m、Ｐ21－Ｐ22＝3.7m、Ｐ20－Ｐ23＝2.6mである。平均すると、梁行3.6m×桁行4.6mという極めて規則的な配列をしている。

埋　　土　埋土は２層からなるが、時期差を示すものではない。

出土遺物　Ｐ14埋土中より土師器片が出土している。器種は不明である。

時　　期　Ｐ３とＳＢ－03のＰ７との切り合い関係から、少なくともＳＢ－03より新しい時期のものといえる。また、検出面である地山面からのピットの深さが面積に比べて浅すぎることから、ＳＢ－03の時期よりも表層土が厚く堆積した時期のもの、つまり、古墳時代よりはるかに新しい時期のものと推測される。

２．その他の土坑

時期、用途が不明な土坑を３基検出した。

１号土坑（挿図46、69・図版36）

Ｅ25グリッドの南隅に位置し、斜面に立地する。検出面・底面ともほぼ隅丸長方形を呈する。断面は段状を呈する。規模は、検出面で長軸190cm、短軸152cm、底面で長軸140cm、短軸83cm、深さ43cmを測る。埋土は、自然堆積したと思われる。遺物は、土師器・須恵器の破片が出土したが、流れ込んできた可能性が高い。用途は不明である。

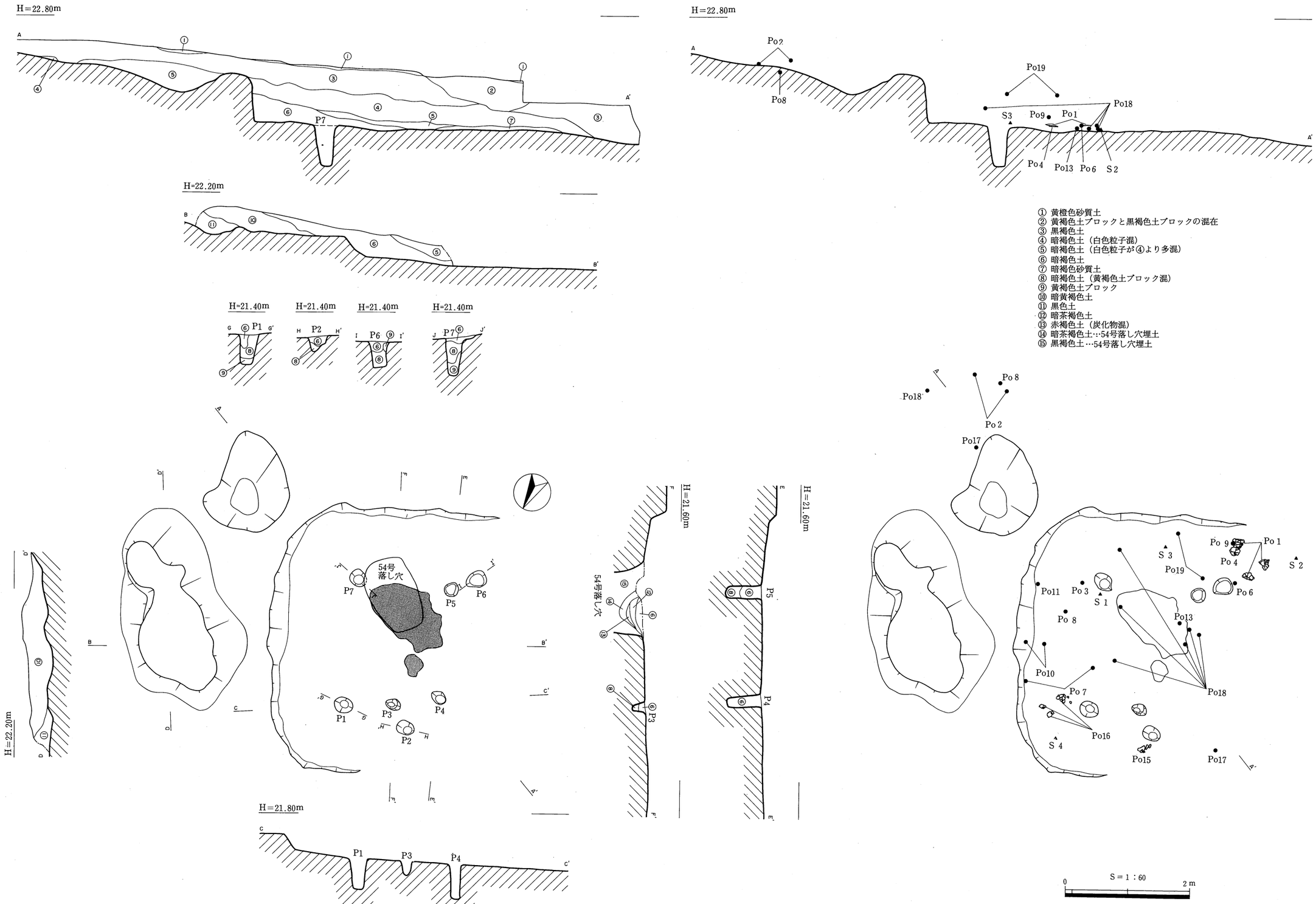
2号土坑（挿図46、69・図版37、52）

D23グリッドの北寄りに位置し、丘陵上面平坦部に立地する。検出面・底面ともほぼ隅丸長方形を呈する。土坑上部をかなり削平され、形態をほとんど残していない。。断面は皿状を呈する。規模は、検出面で長軸109cm、短軸83cm、底面で長軸97cm、短軸74cm、深さ9.2cmを測る。埋土は、黒褐色土系の土層である。遺物は、弥生時代中期後葉と考えられる甕（Po１）が出土した。用途は不明である。

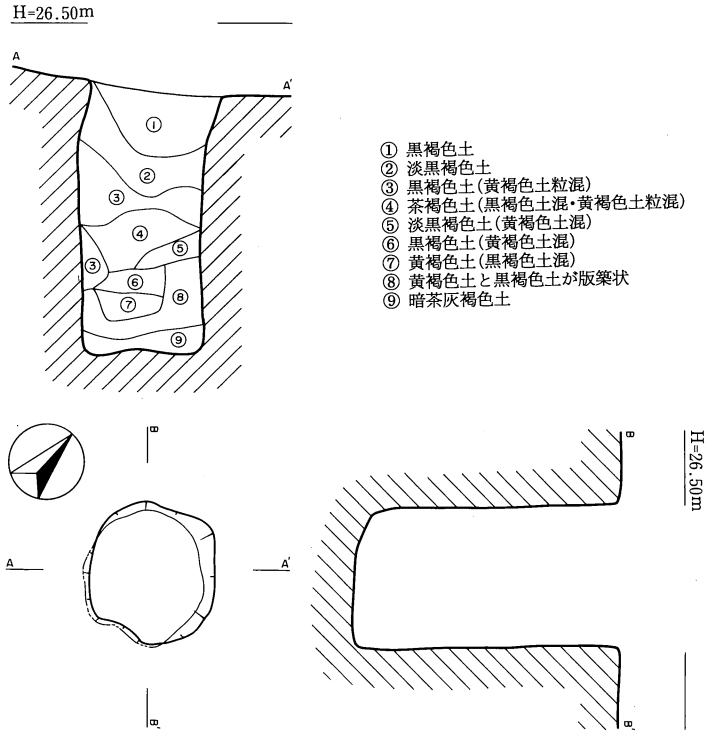
3号土坑（挿図24、69・図版14、36、52）

D23グリッドの中央に位置し、緩斜面に立地する。40号落し穴と切り合い関係にあると考えられるが、新旧は不明である。土坑の一部しか残存していないが、検出面・底面とも隅丸長方形を呈していたと思われる。断面は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸118cm、短軸75cm、底面で長軸99cm、短軸64cm、深さ53cmを測る。埋土は、自然堆積したと思われる。遺物は、土錘（Po１）と土器片を床面から検出した。時期・用途は不明である。

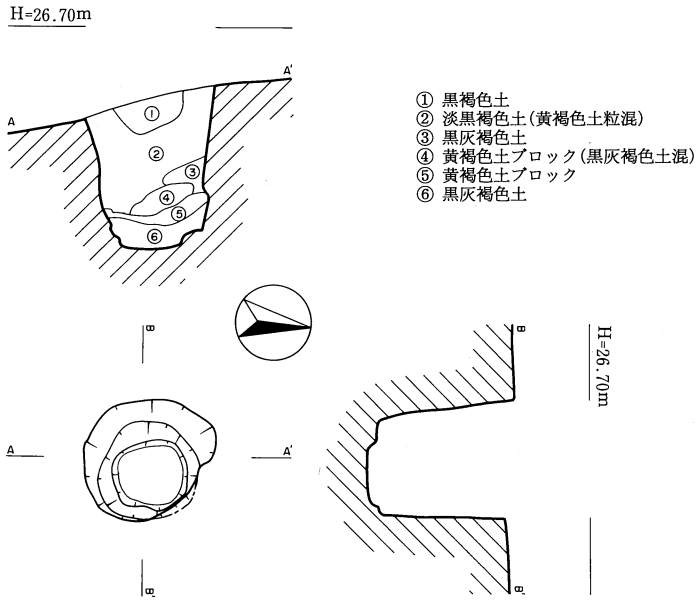
＊遺構に伴ったものではないが、Ｄ９グリッドより縄文時代早期のものと考えられる、押型文を施した土器片（遺構外Po１）が出土した。（挿図59・図版52）


H=22.80m
H=22.20m
H=21.40m
H=21.60m
H=21.80m
54号落し穴
① 黄橙色砂質土
② 黄褐色土ブロックと黒褐色土ブロックの混在
③ 黒褐色土
④ 暗褐色土（白色粒子混）
⑤ 暗褐色土（白色粒子が④より多混）
⑥ 暗褐色土
⑦ 暗褐色砂質土
⑧ 暗褐色土（黄褐色土ブロック混）
⑨ 黄褐色土ブロック
⑩ 暗黄褐色土
⑪ 黒色土
⑫ 暗茶褐色土
⑬ 赤褐色土（炭化物混）
⑭ 暗茶褐色土…54号落し穴埋土
⑮ 黒褐色土…54号落し穴埋土
S=1:60
0
2m

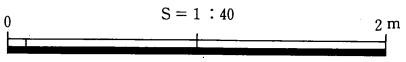
挿図4　ＳＩ－01遺構図



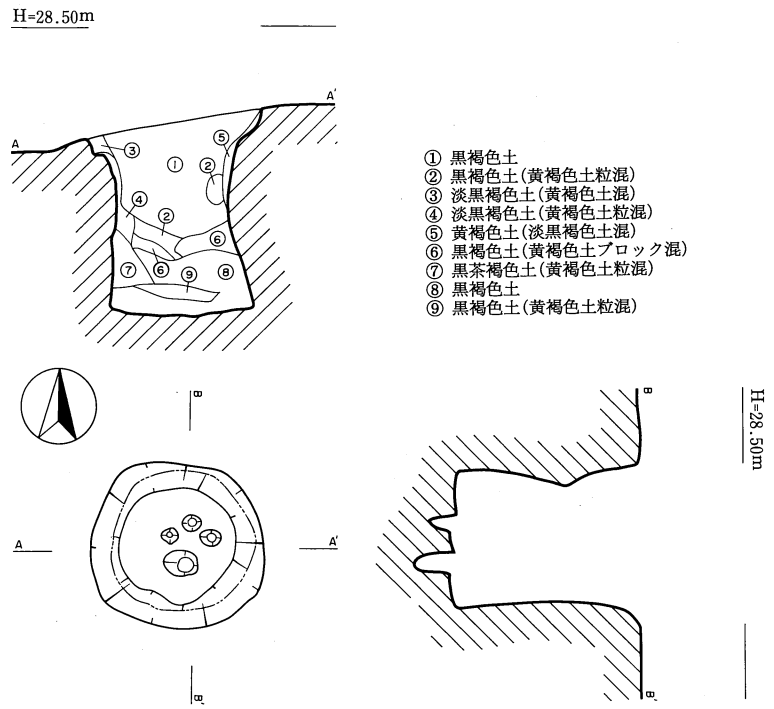
1号落し穴



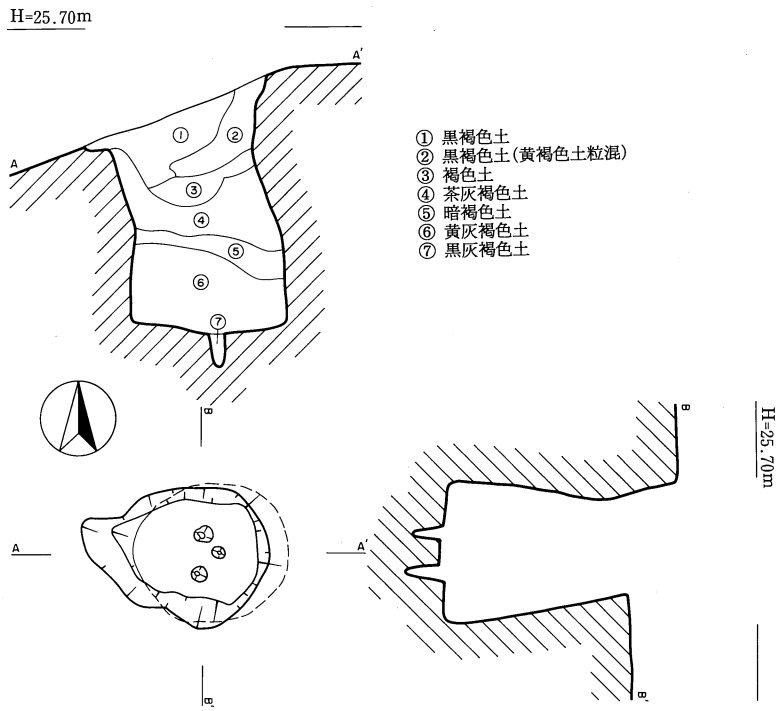
2号落し穴



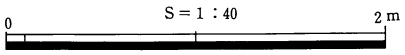
挿図5　1・2号落し穴遺構図



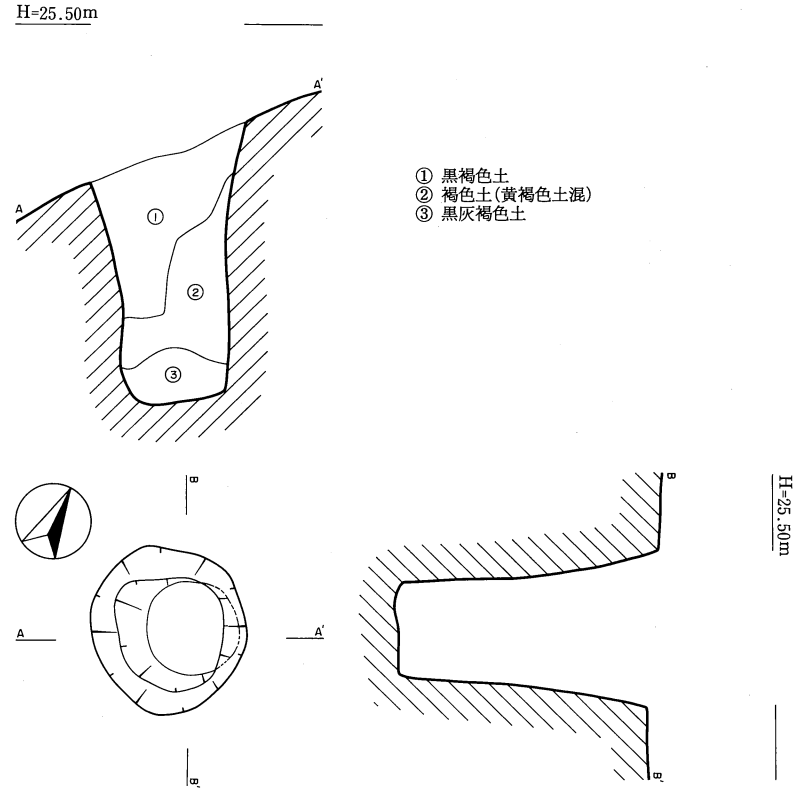
3号落し穴



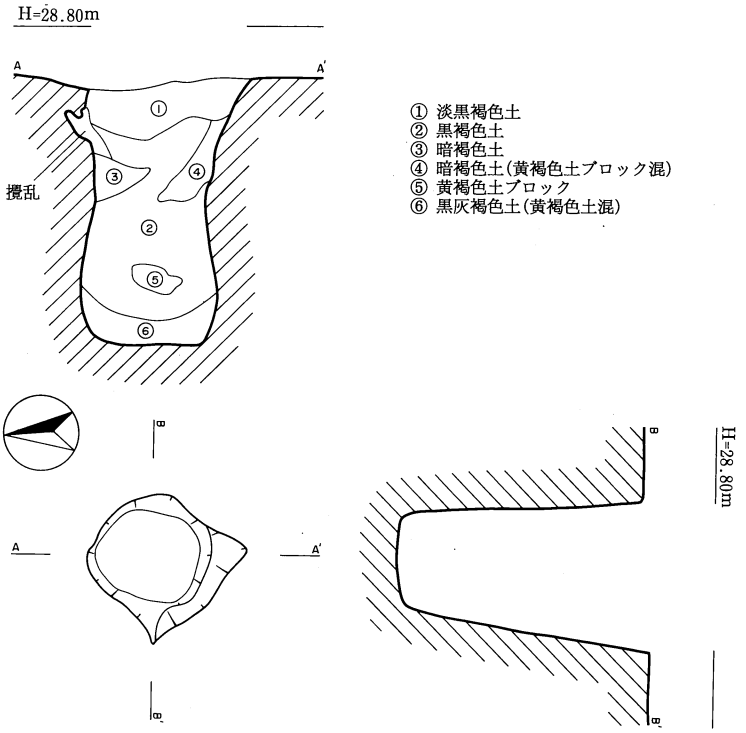
4号落し穴



挿図6　3．4号落し穴遺構図



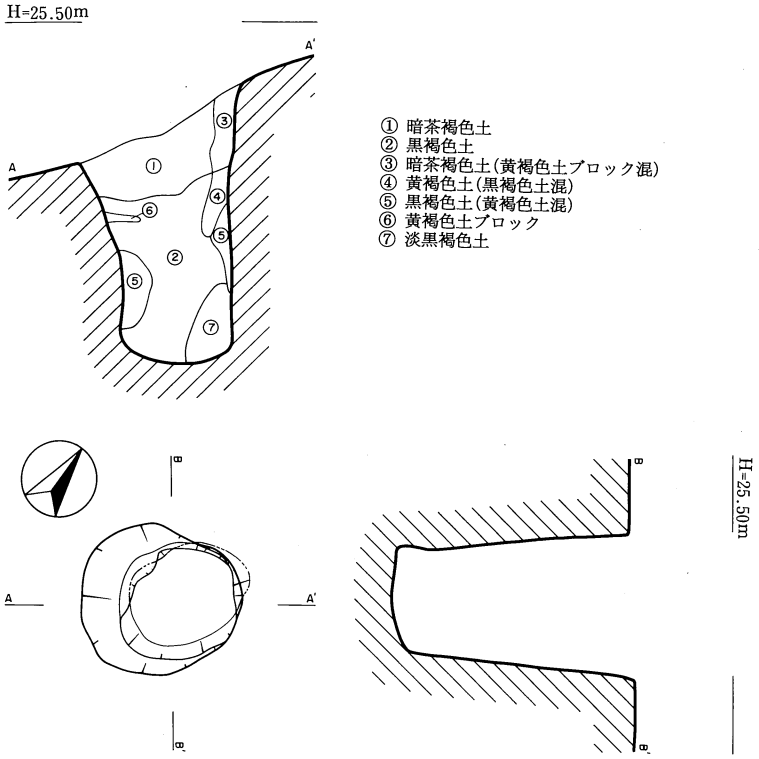
5号落し穴



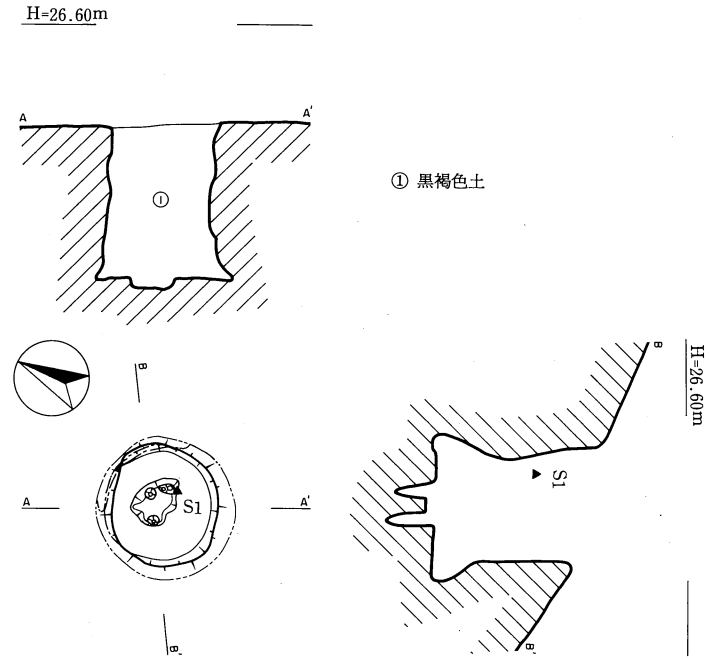
6号落し穴

0　S＝1：40　2m

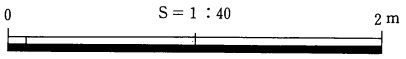
挿図7　5・6号落し穴遺構図



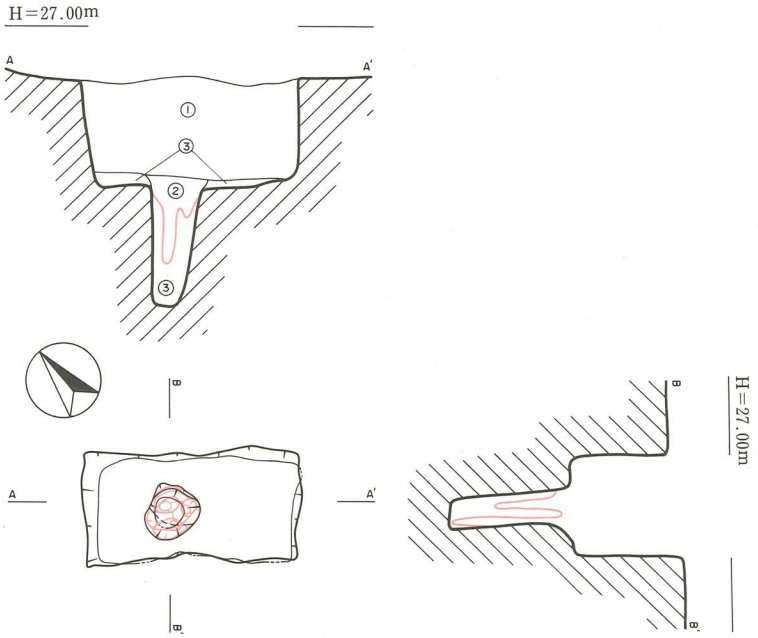
7号落し穴



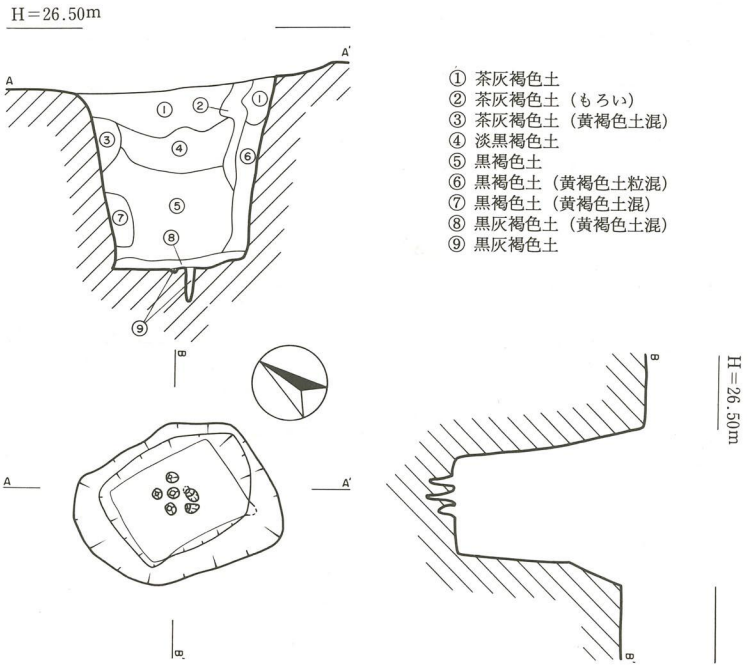
8号落し穴



挿図8　7・8号落し穴遺構図



9号落し穴

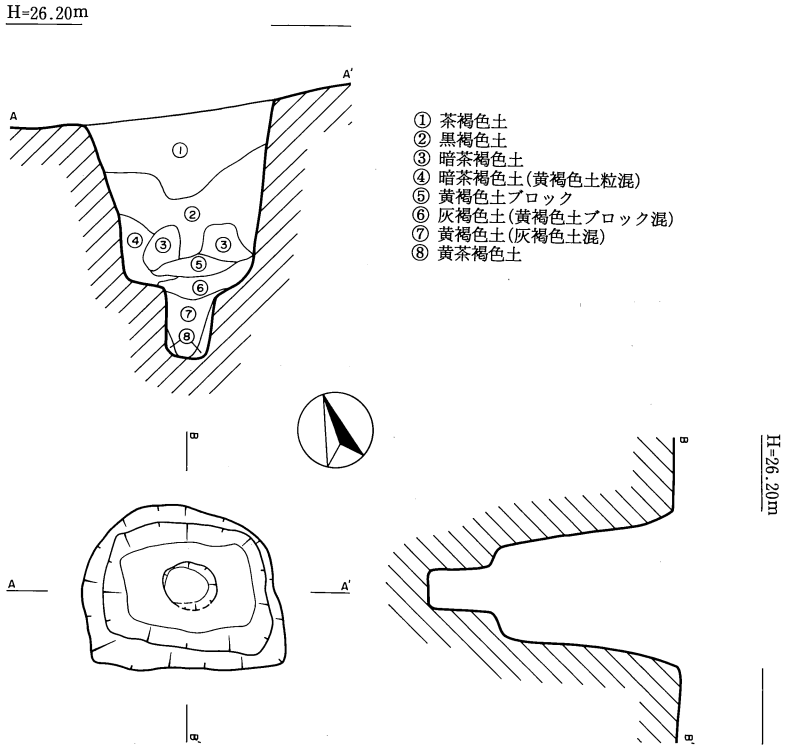


① 茶灰褐色土
② 茶灰褐色土（もろい）
③ 茶灰褐色土（黄褐色土混）
④ 淡黒褐色土
⑤ 黒褐色土
⑥ 黒褐色土（黄褐色土粒混）
⑦ 黒褐色土（黄褐色土混）
⑧ 黒灰褐色土（黄褐色土混）
⑨ 黒灰褐色土

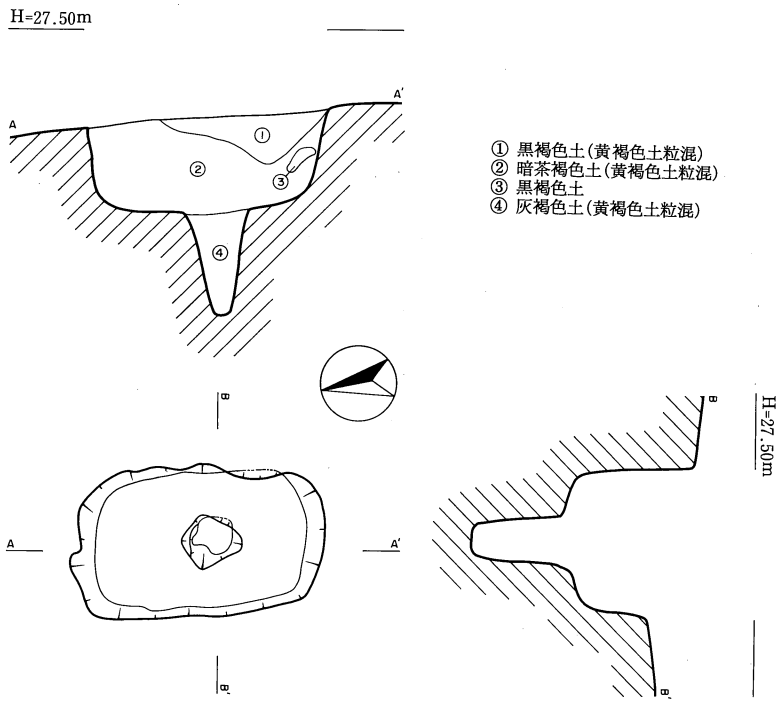
10号落し穴

S＝1：40
0　2 m

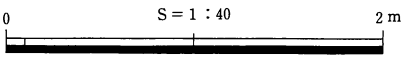
挿図９　９・10号落し穴遺構図



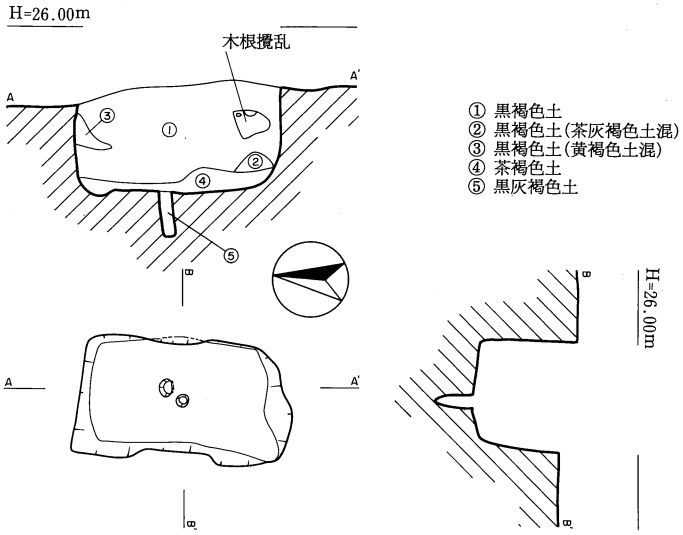
11号落し穴



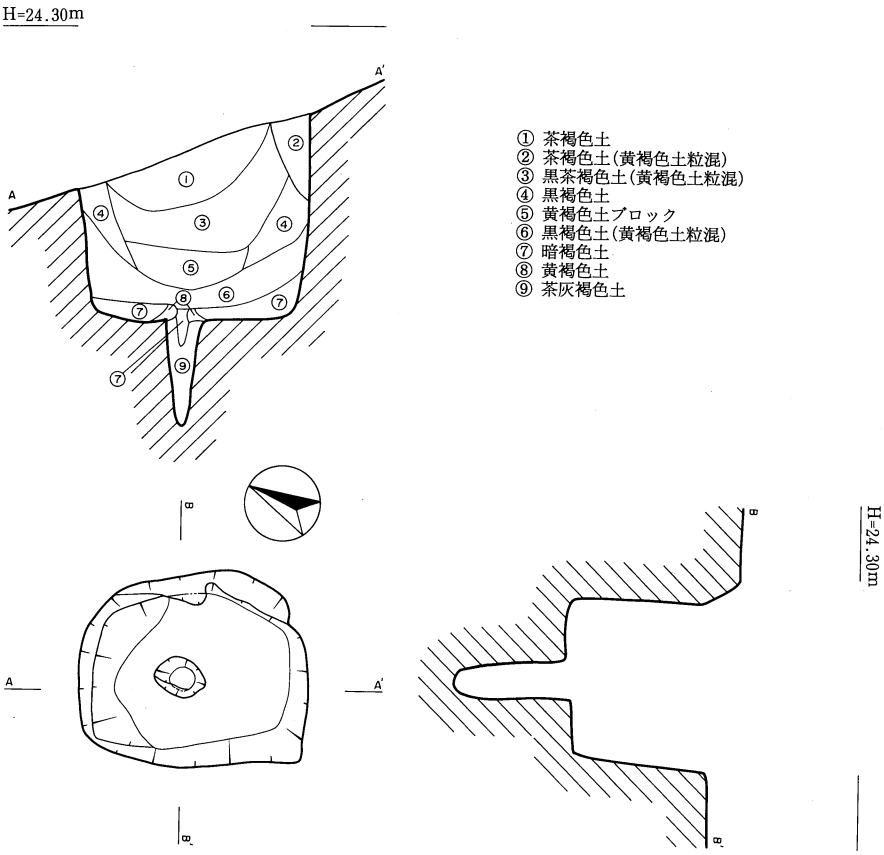
12号落し穴



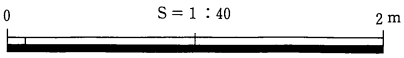
挿図10　11・12号落し穴遺構図



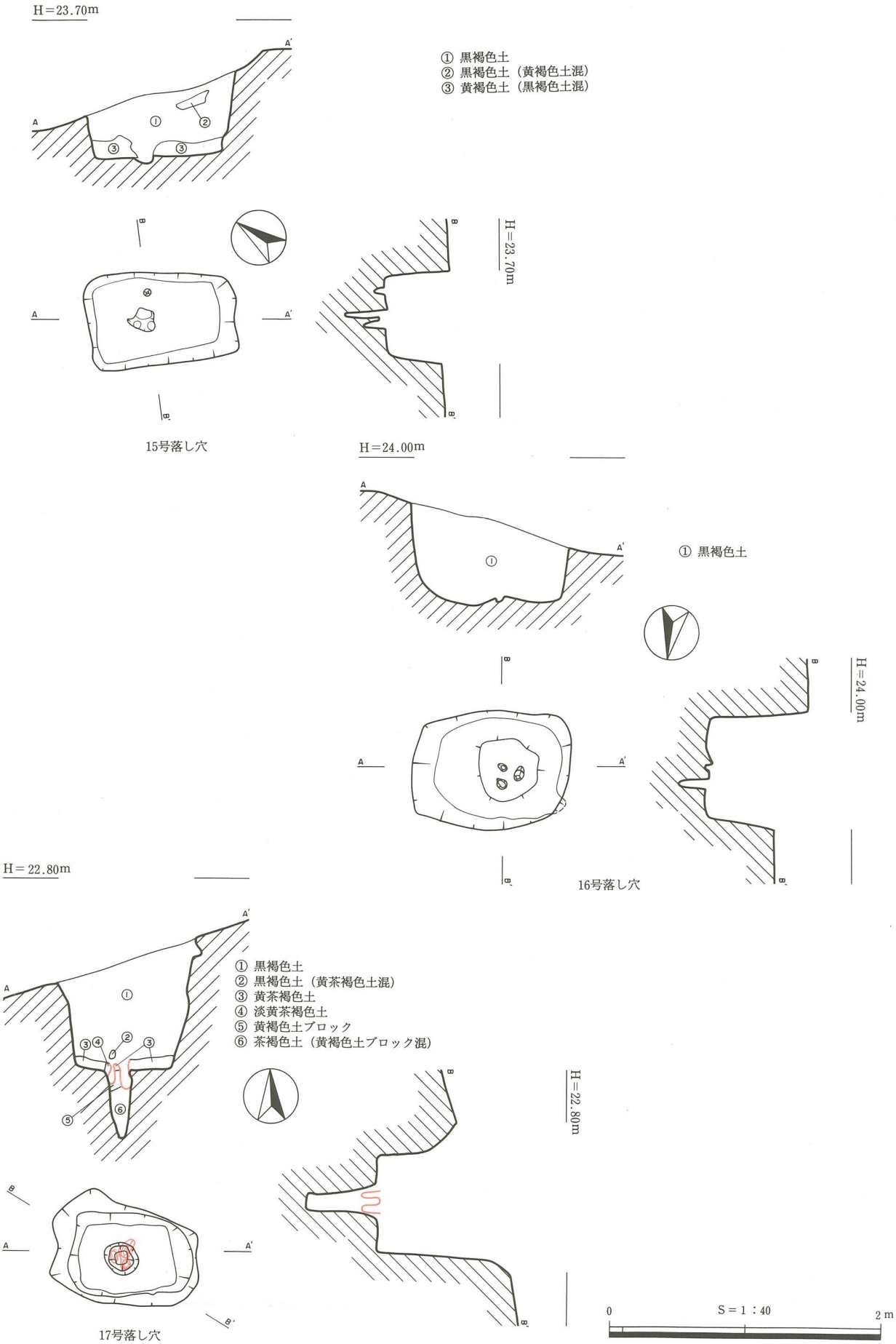
13号落し穴



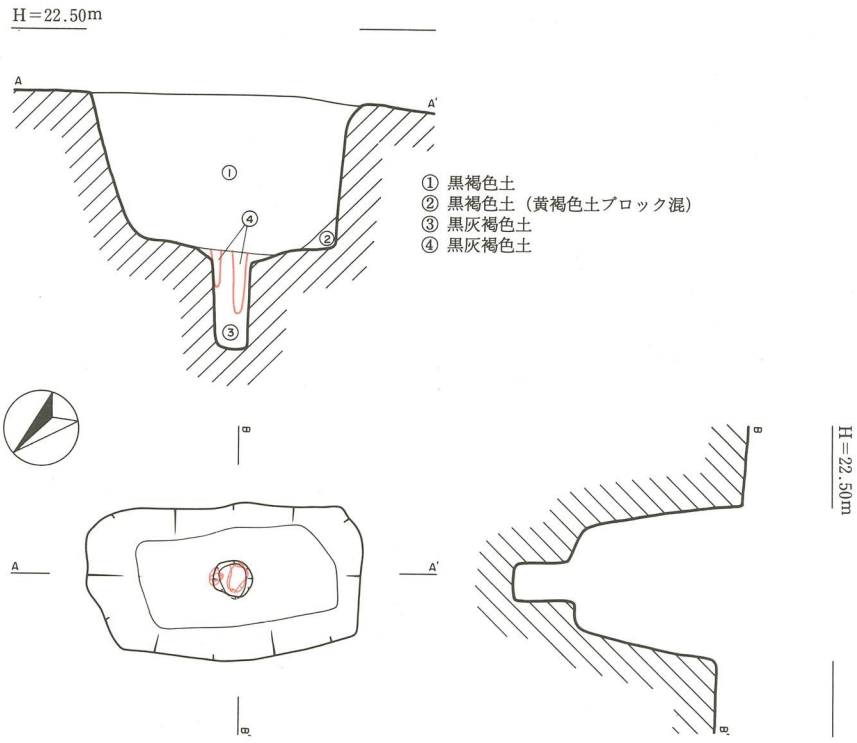
14号落し穴



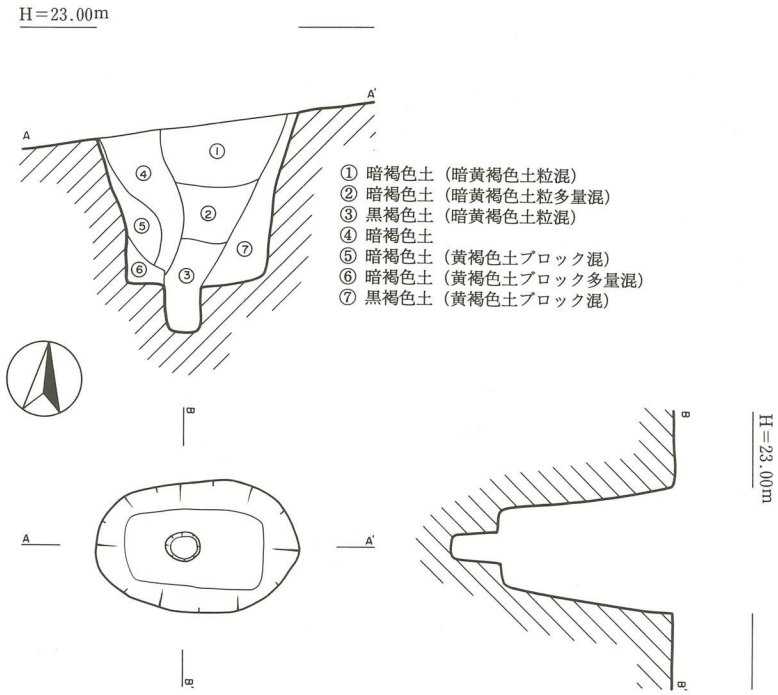
挿図11　13・14号落し穴遺構図



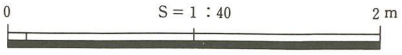
挿図12　15・16・17号落し穴遺構図



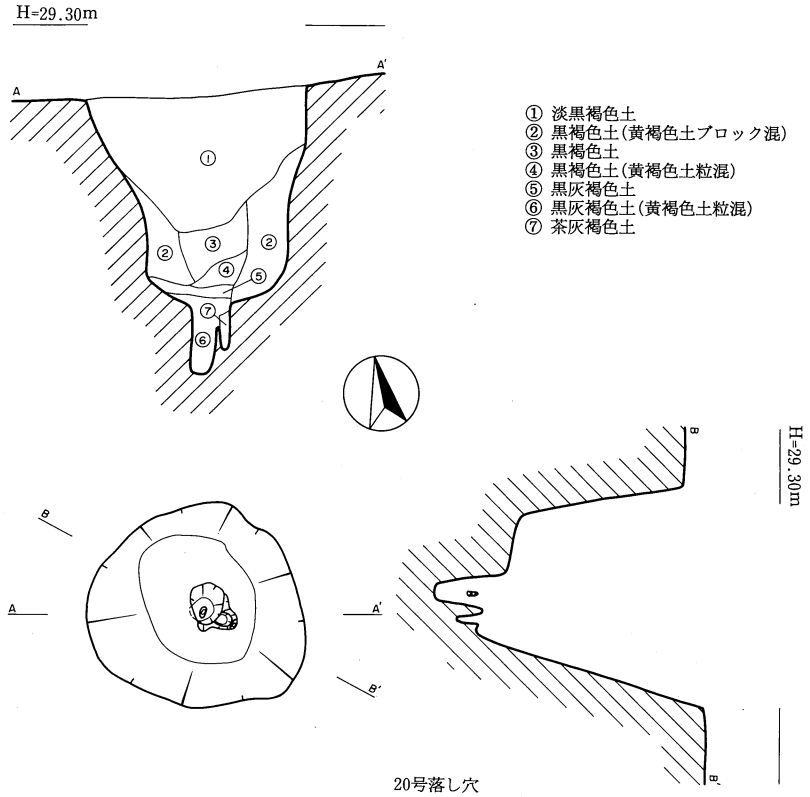
18号落し穴



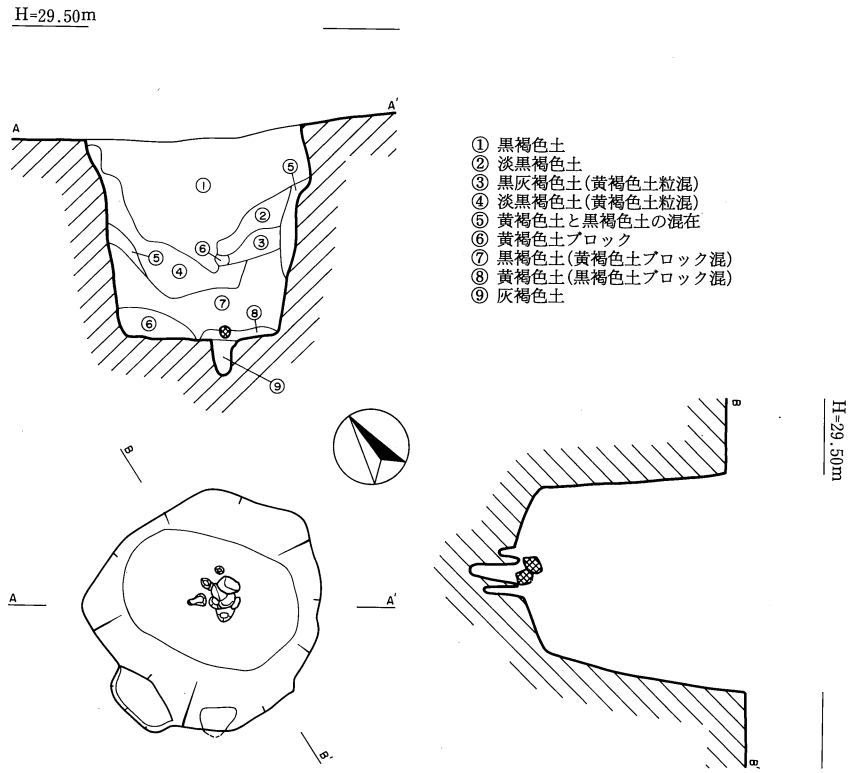
19号落し穴



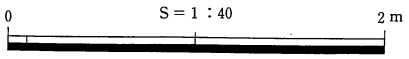
挿図13　18・19号落し穴遺構図



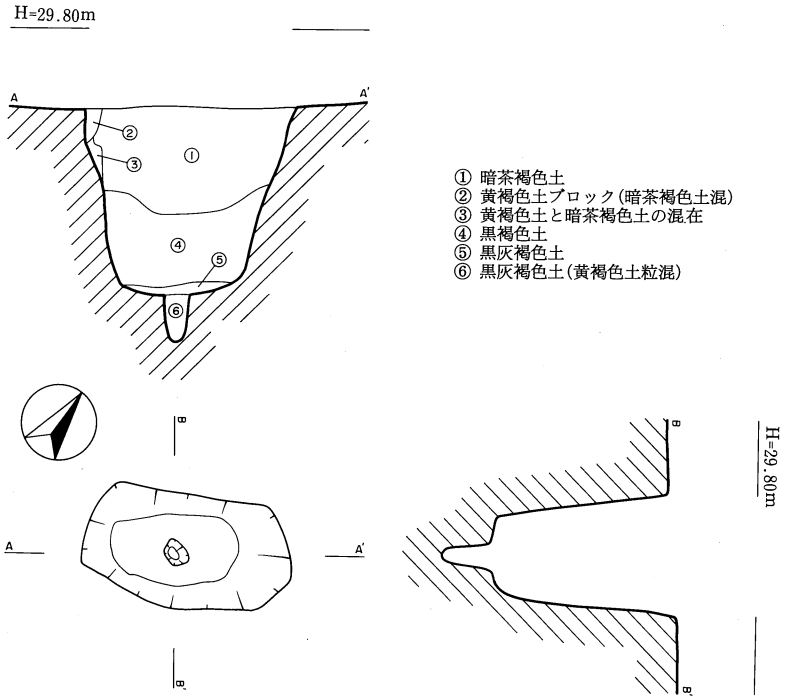
20号落し穴



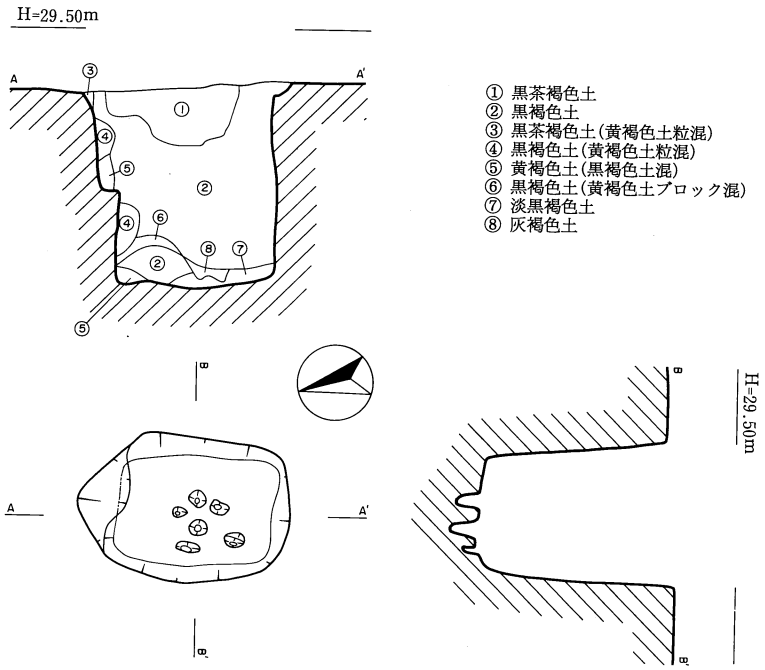
21号落し穴



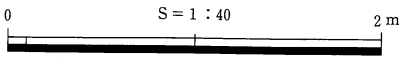
挿図14　20・21号落し穴遺構図



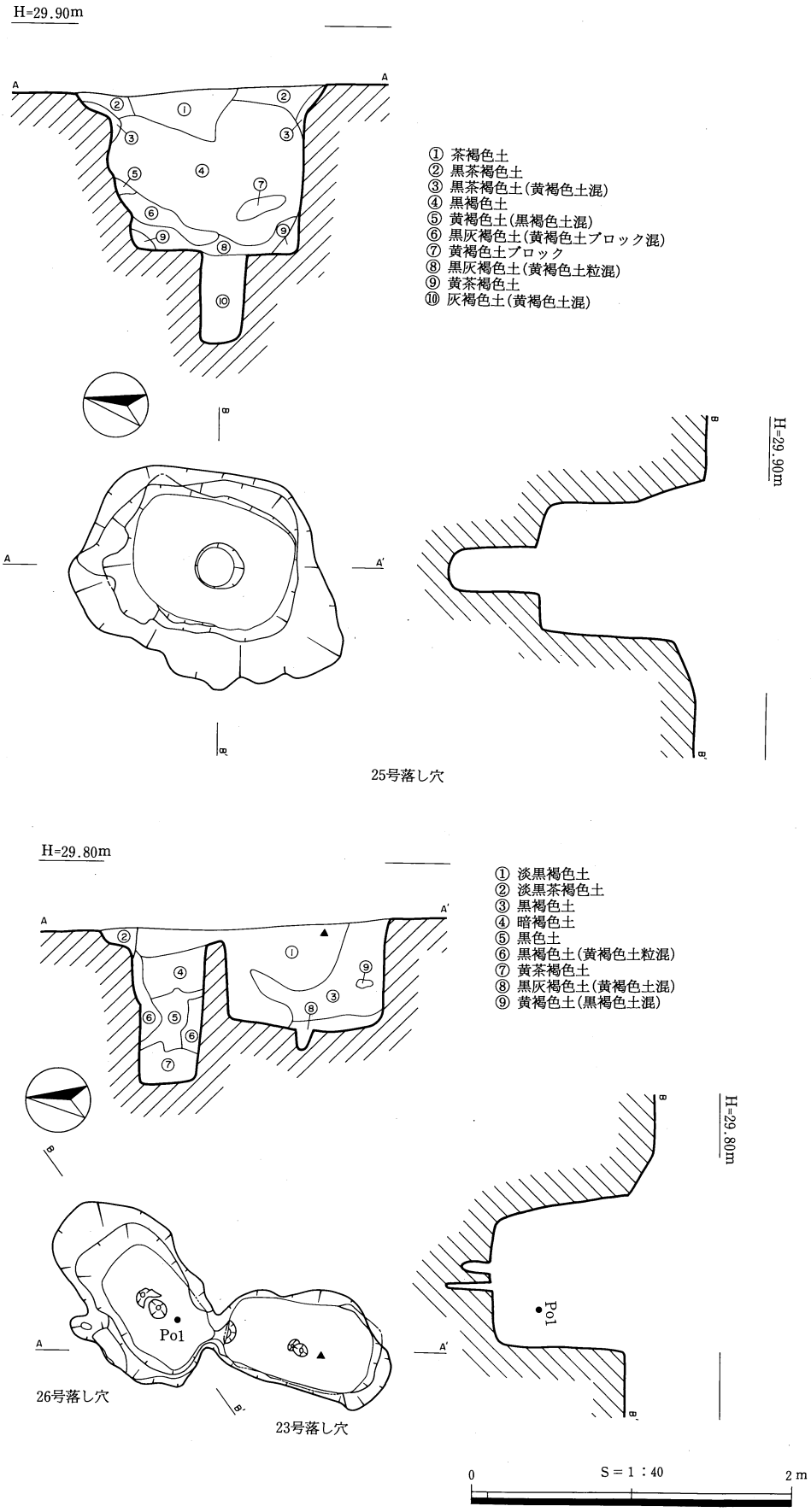
22号落し穴



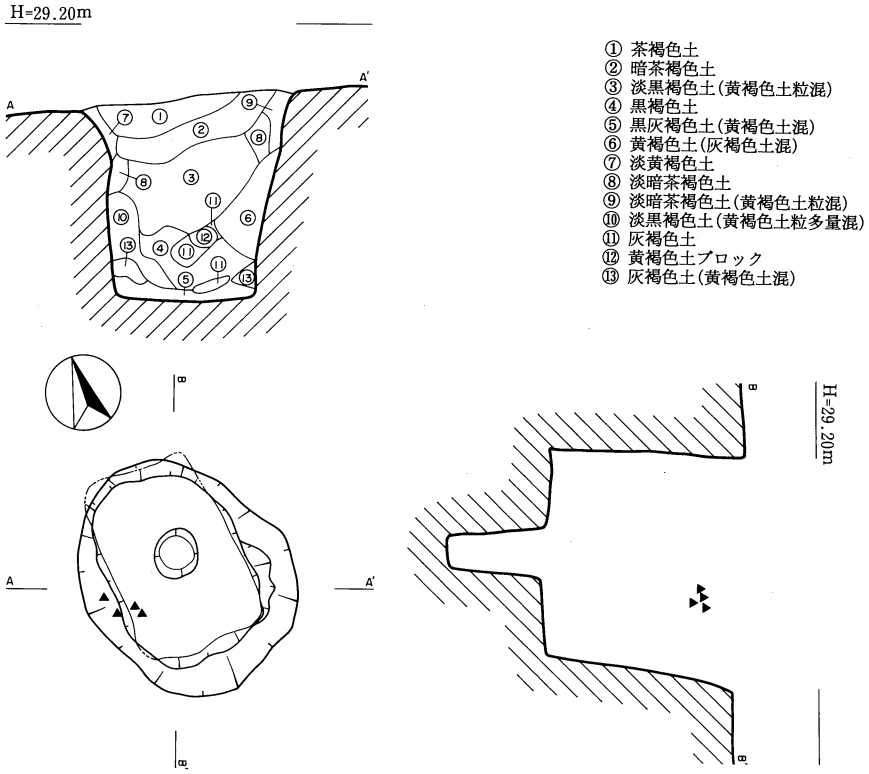
24号落し穴



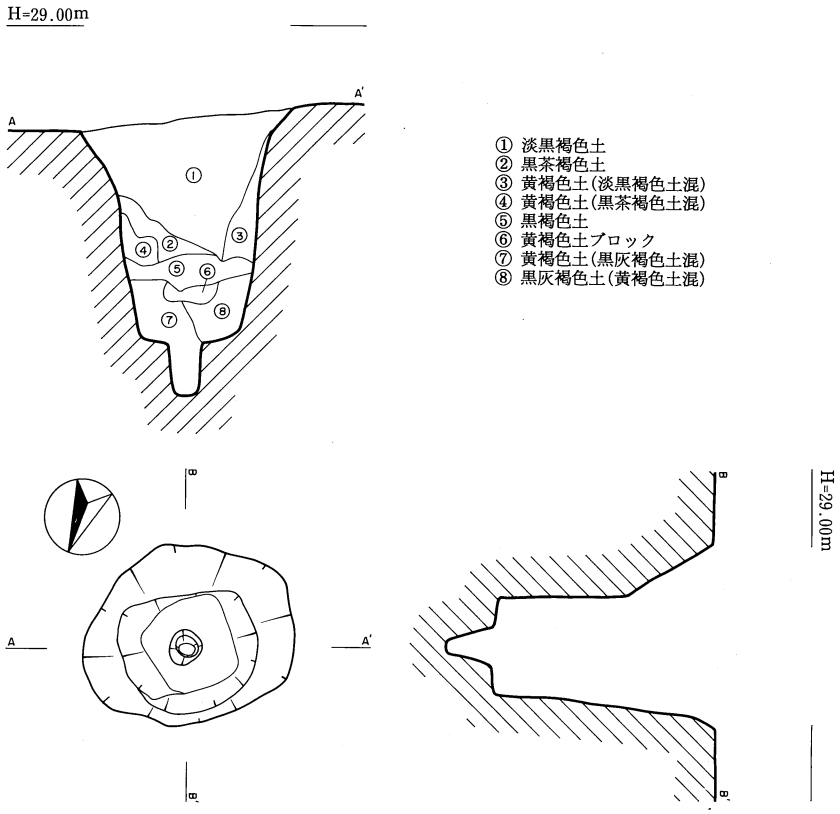
挿図15　22・24号落し穴遺構図



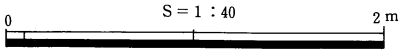
挿図16　23・25・26号落し穴遺構図



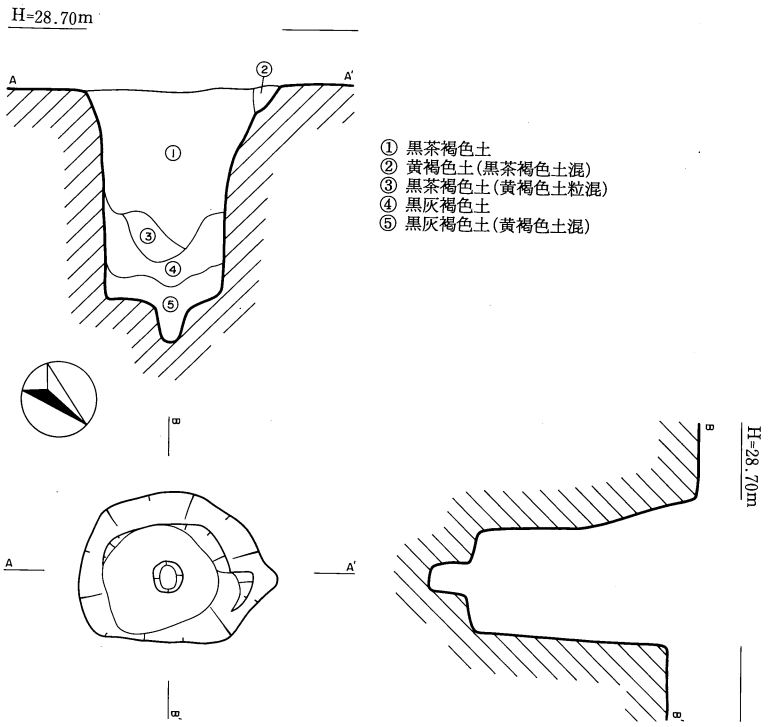
27号落し穴



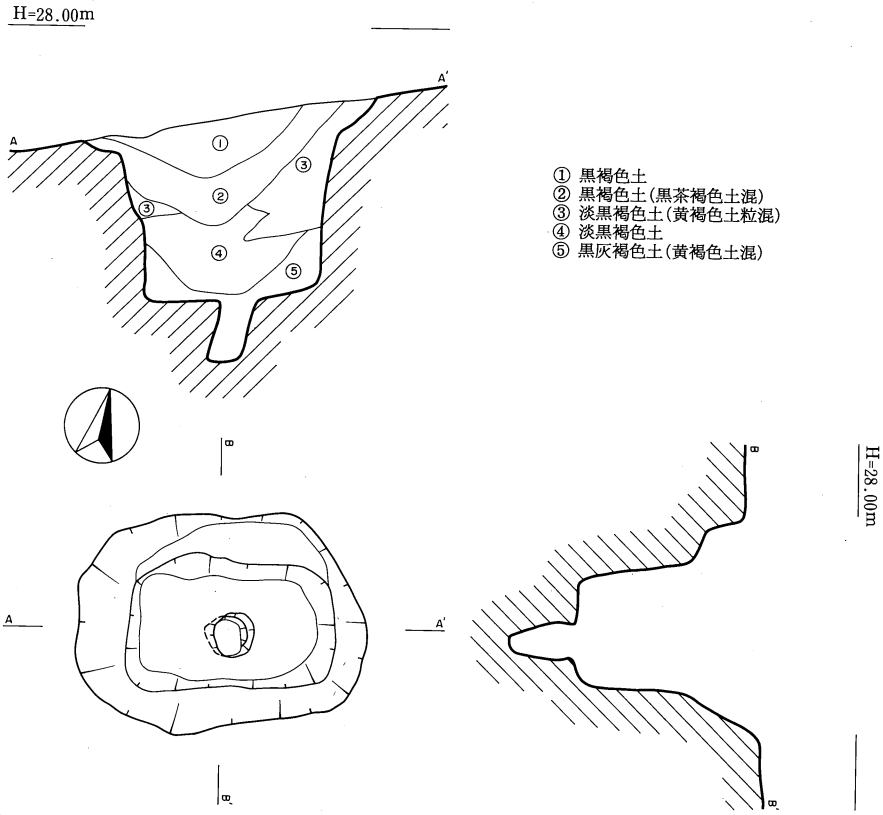
28号落し穴



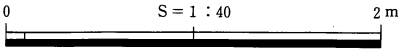
挿図17　27・28号落し穴遺構図



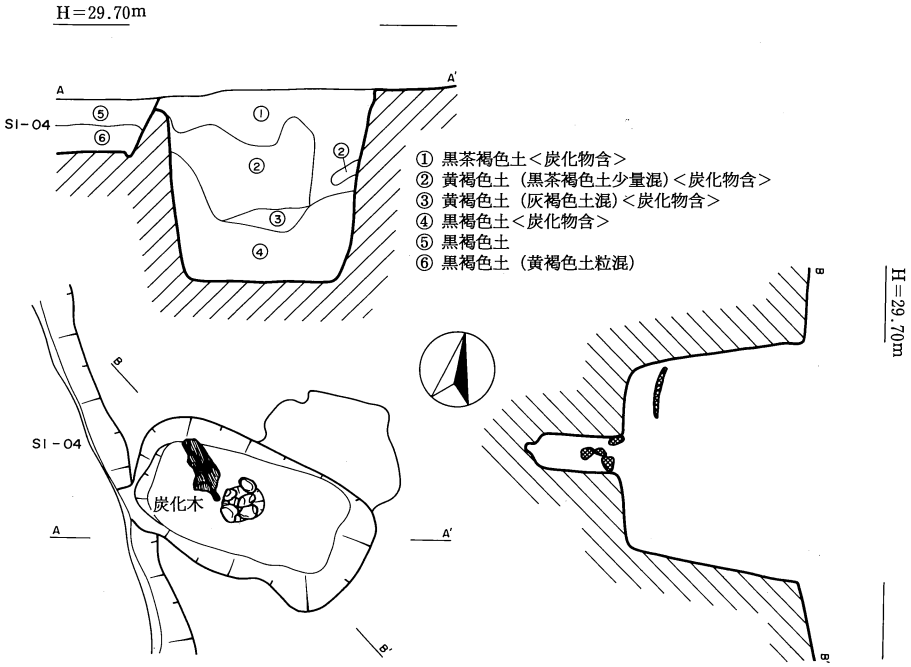
29号落し穴



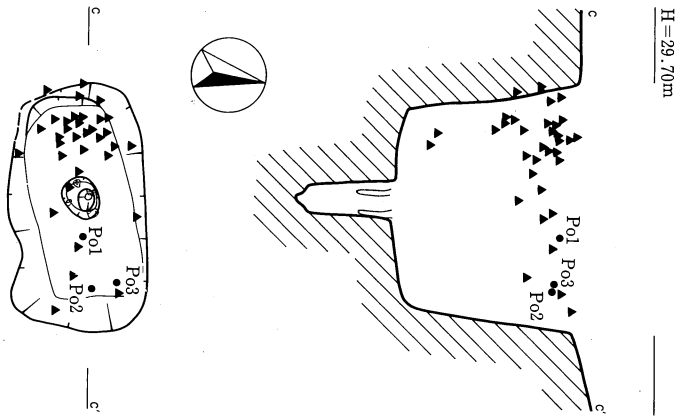
30号落し穴



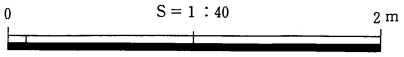
挿図18　29・30号落し穴遺構図



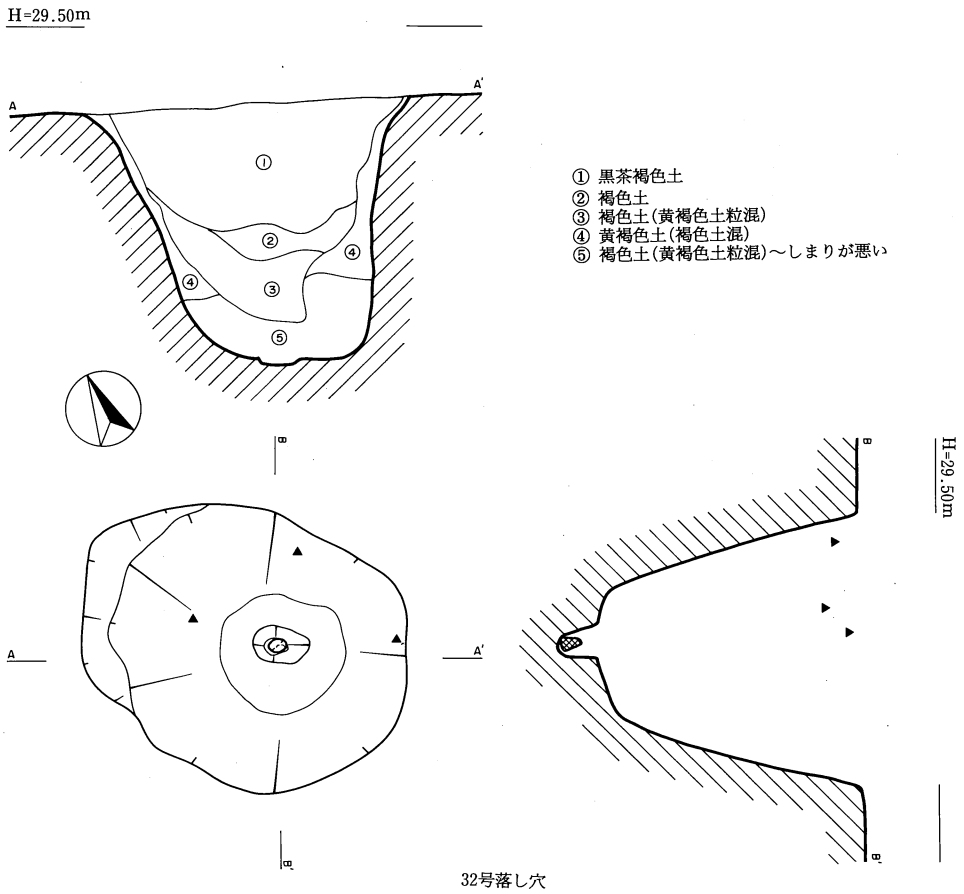
31号落し穴-1



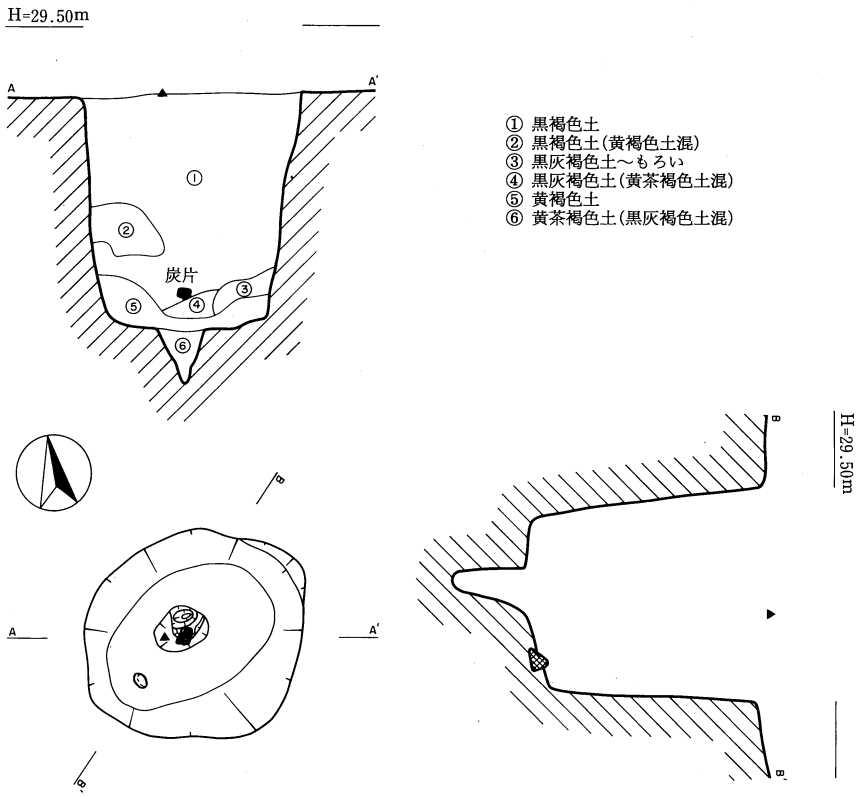
31号落し穴-2



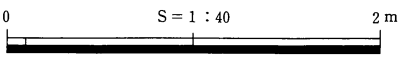
挿図19　31号落し穴遺構図



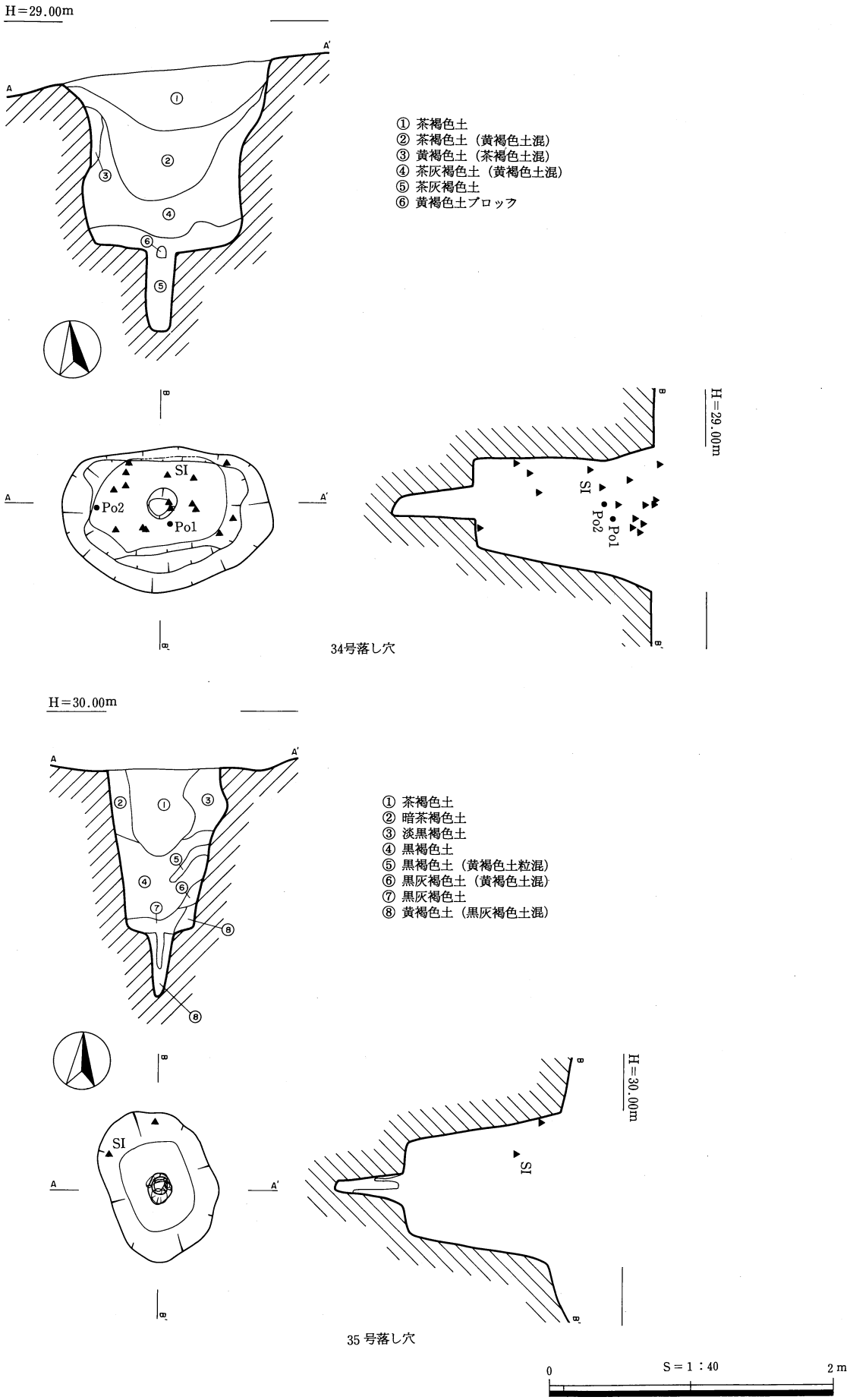
32号落し穴



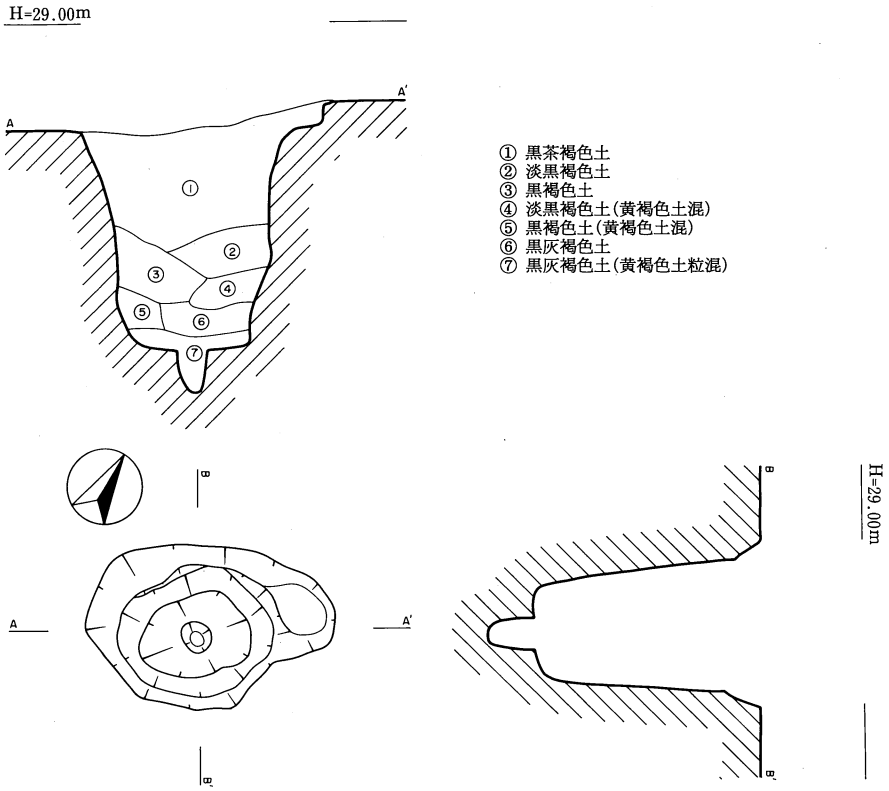
33号落し穴



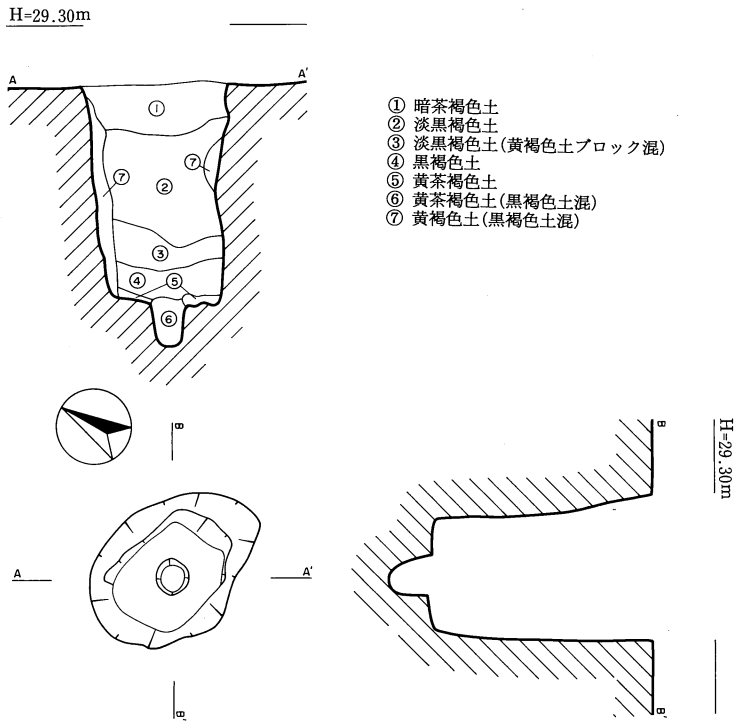
挿図20　32・33号落し穴遺構図



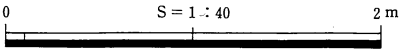
挿図21　34・35号落し穴遺構図



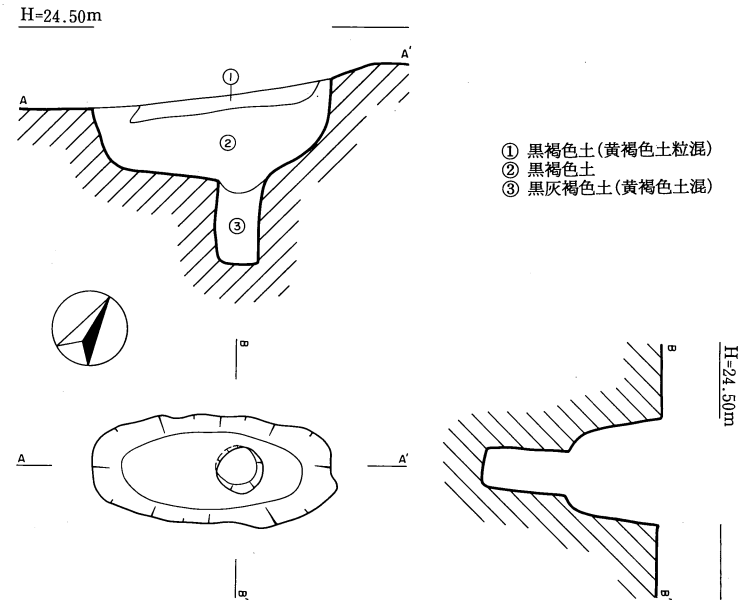
36号落し穴



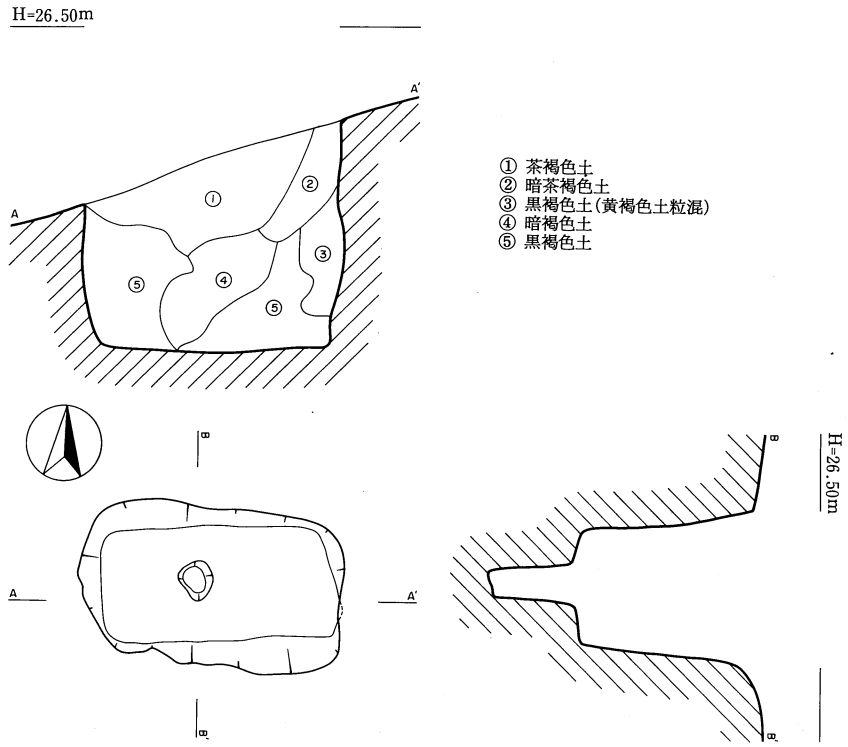
37号落し穴



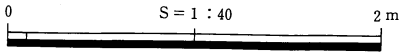
挿図22　36・37号落し穴遺構図



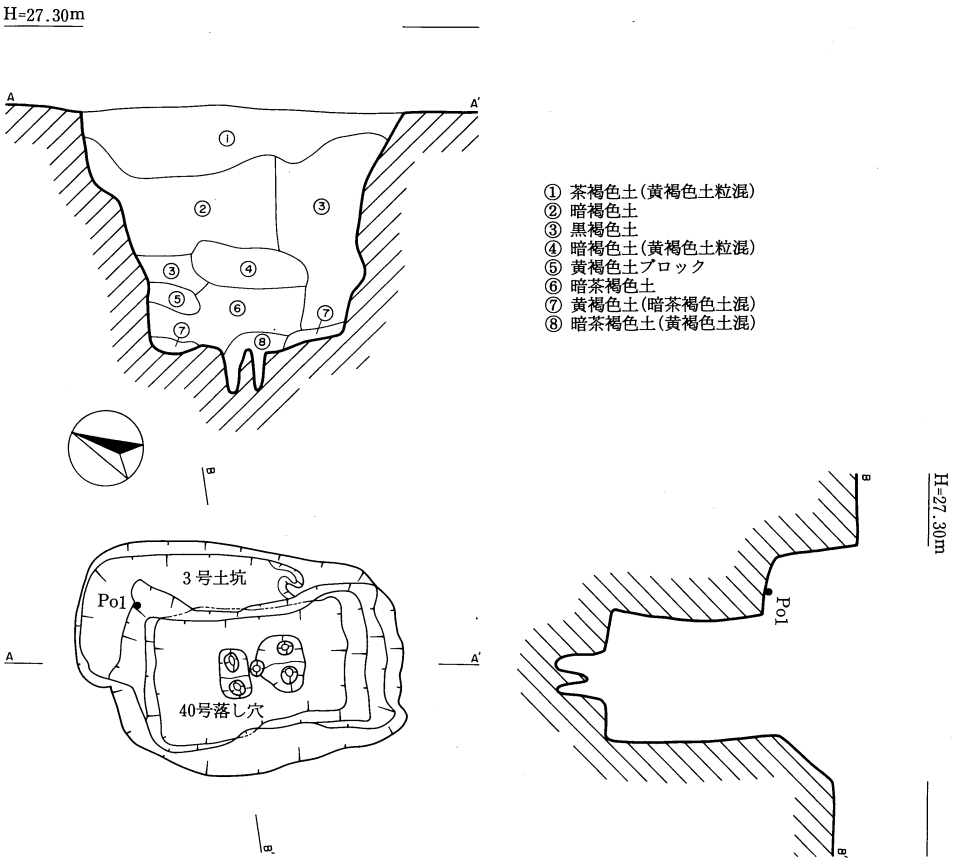
38号落し穴



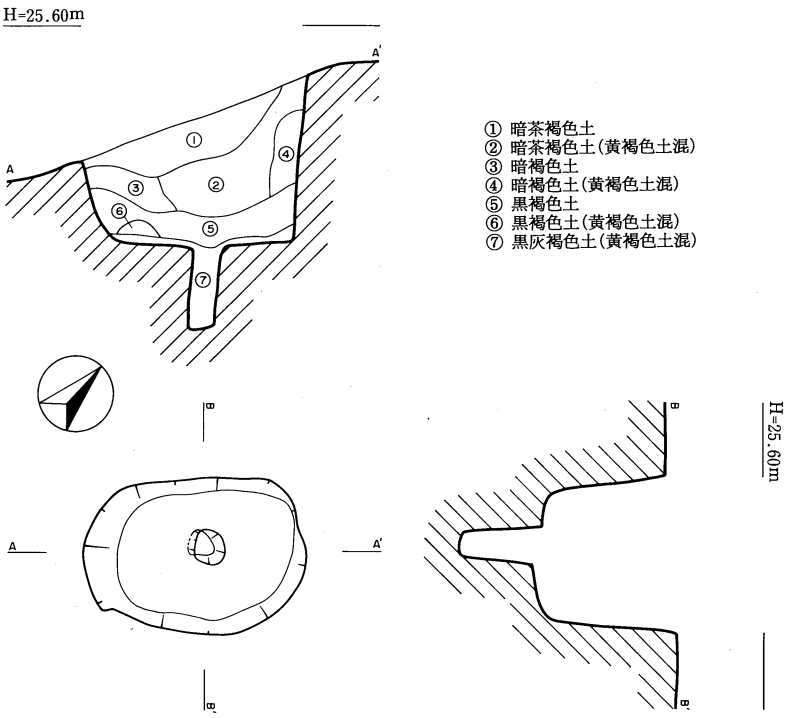
39号落し穴



挿図23　38・39号落し穴遺構図



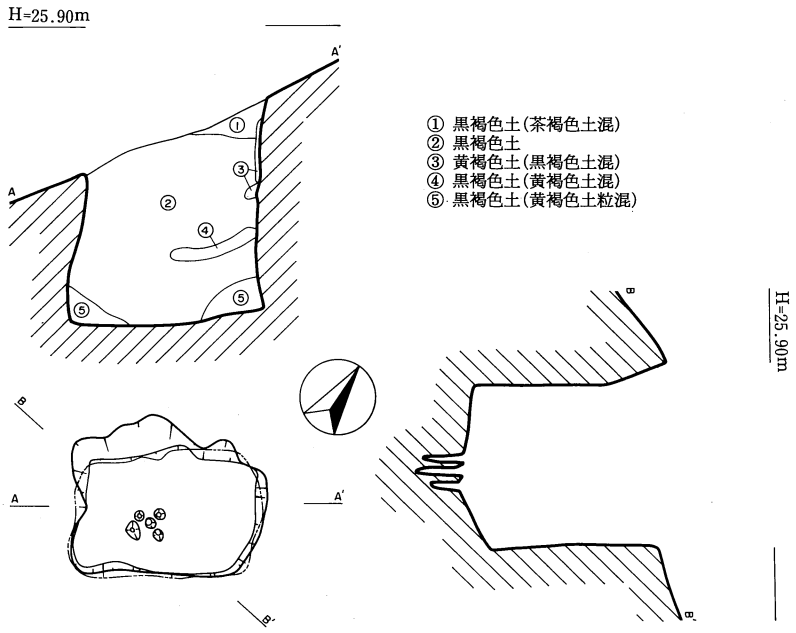
3号土坑・40号落し穴



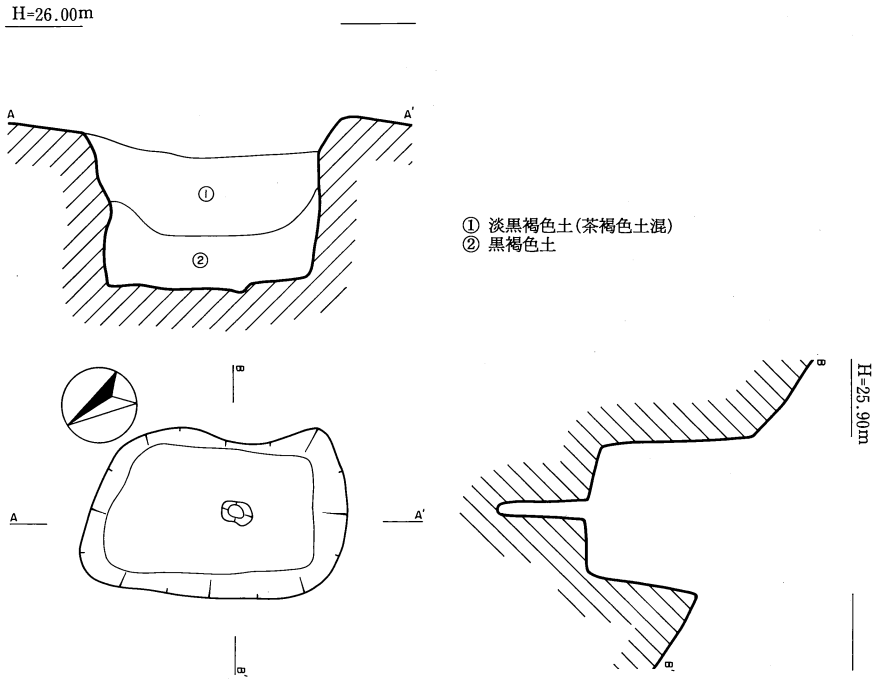
41号落し穴

0　S＝1：40　2 m

挿図24　40・41号落し穴、3号土坑遺構図



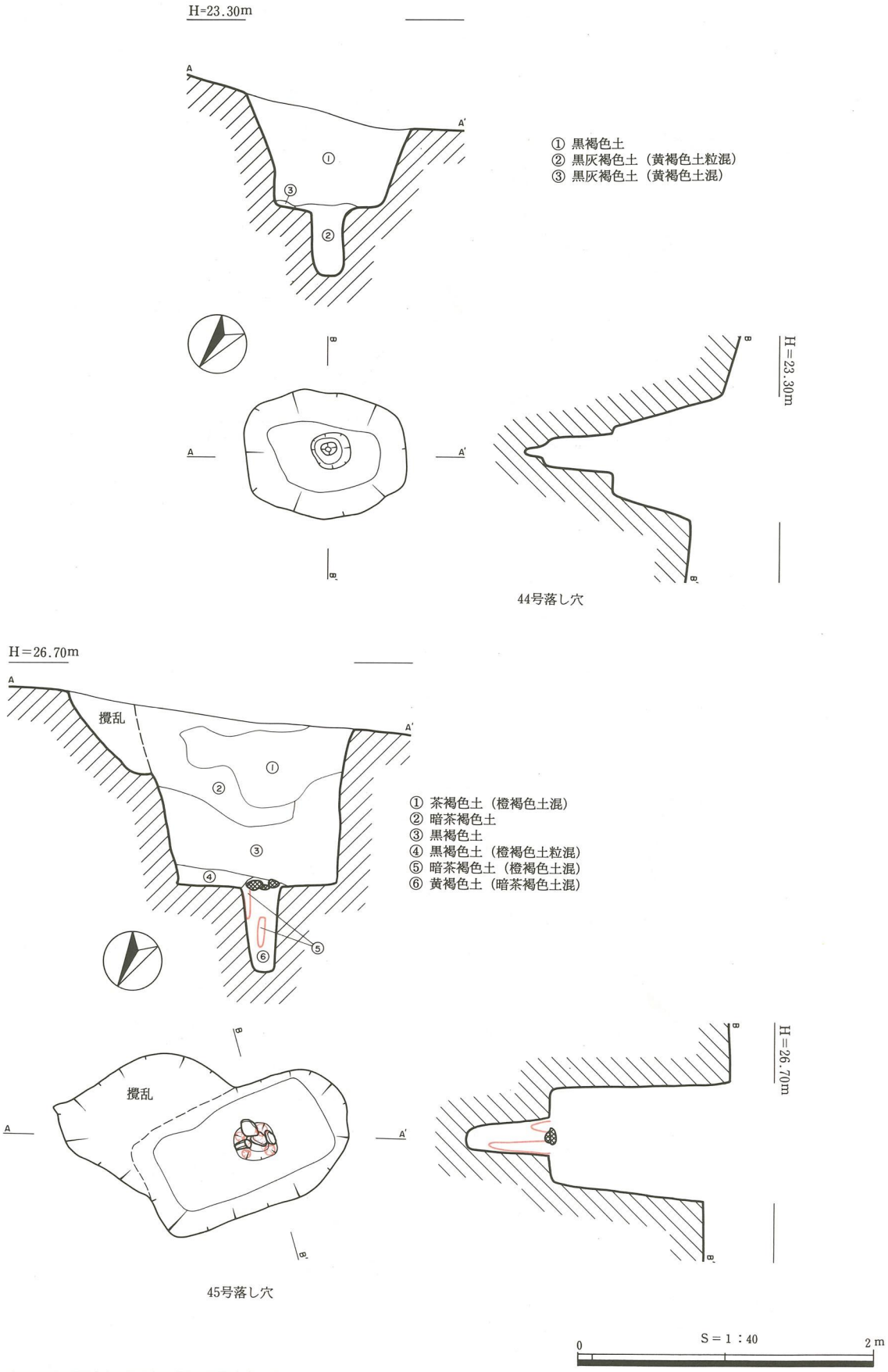
42号落し穴



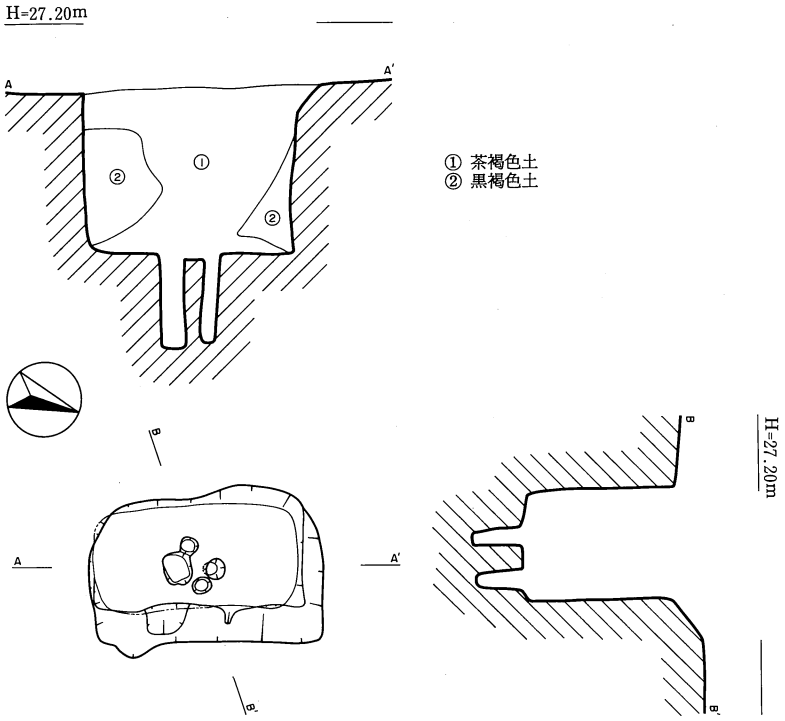
43号落し穴

0　S＝1：40　2m

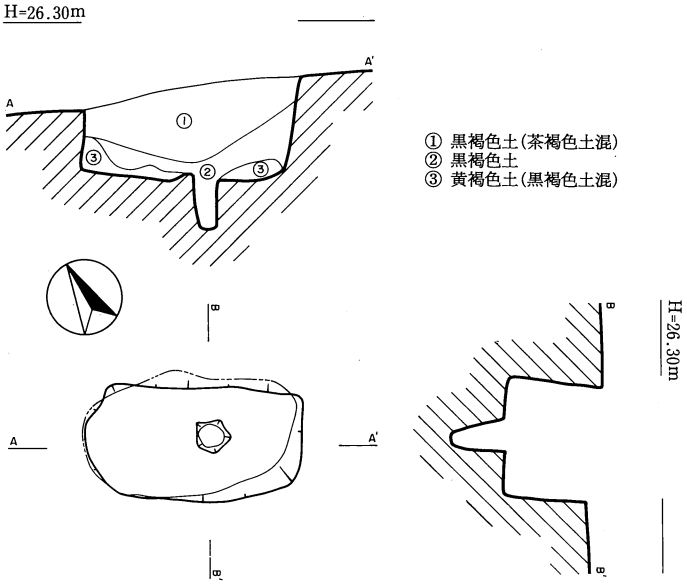
挿図25　42・43号落し穴遺構図



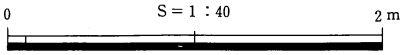
挿図26　44・45号落し穴遺構図



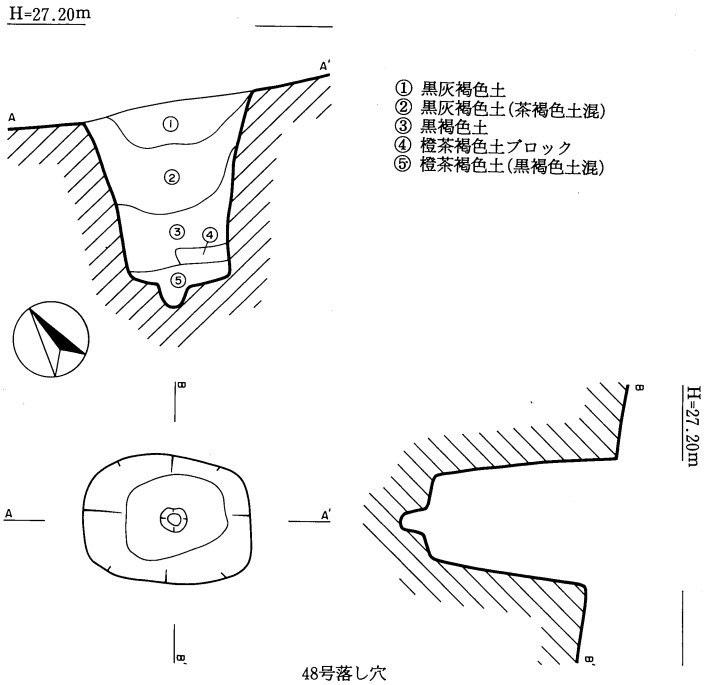
46号落し穴



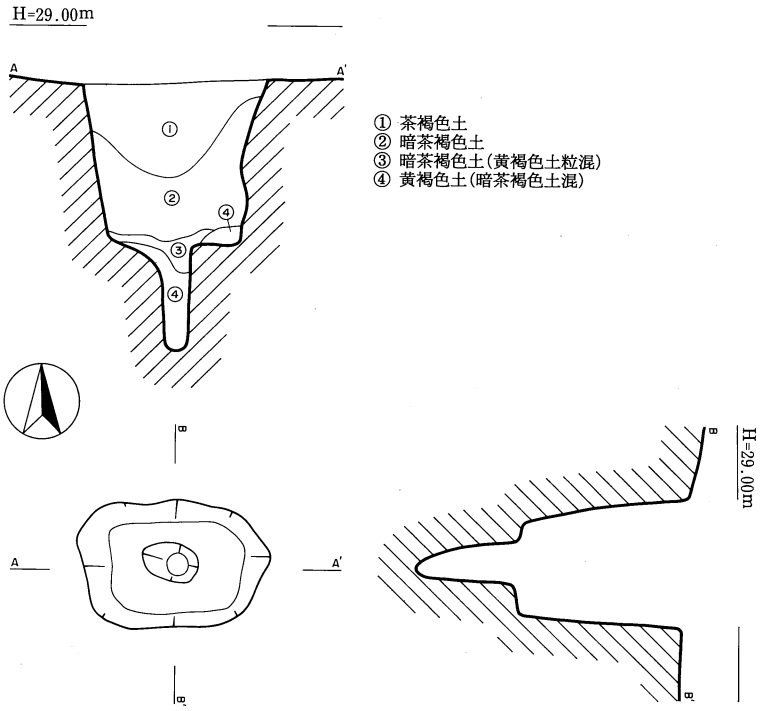
47号落し穴



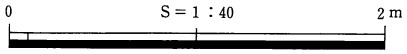
挿図27　46・47号落し穴遺構図



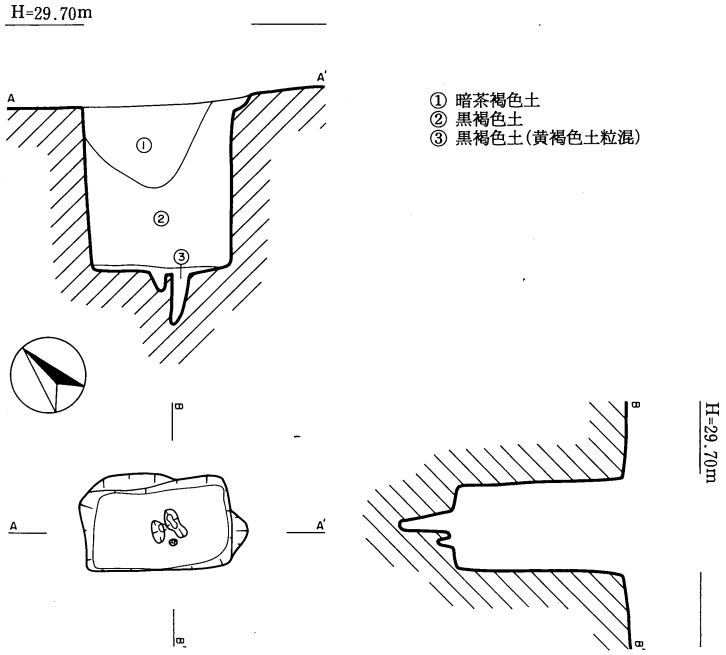
48号落し穴



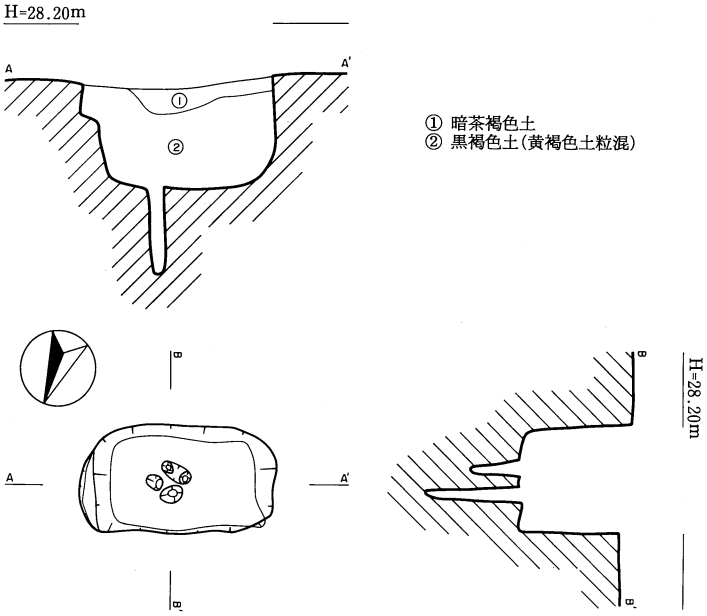
49号落し穴



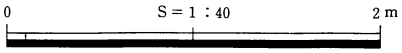
挿図28　48・49号落し穴遺構図



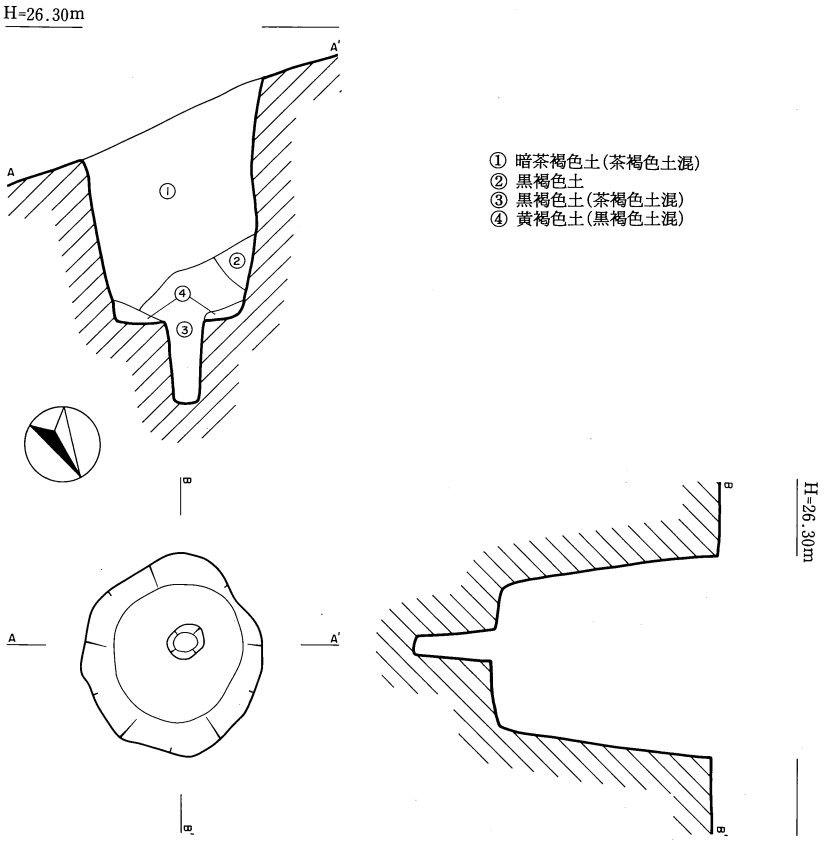
50号落し穴



51号落し穴

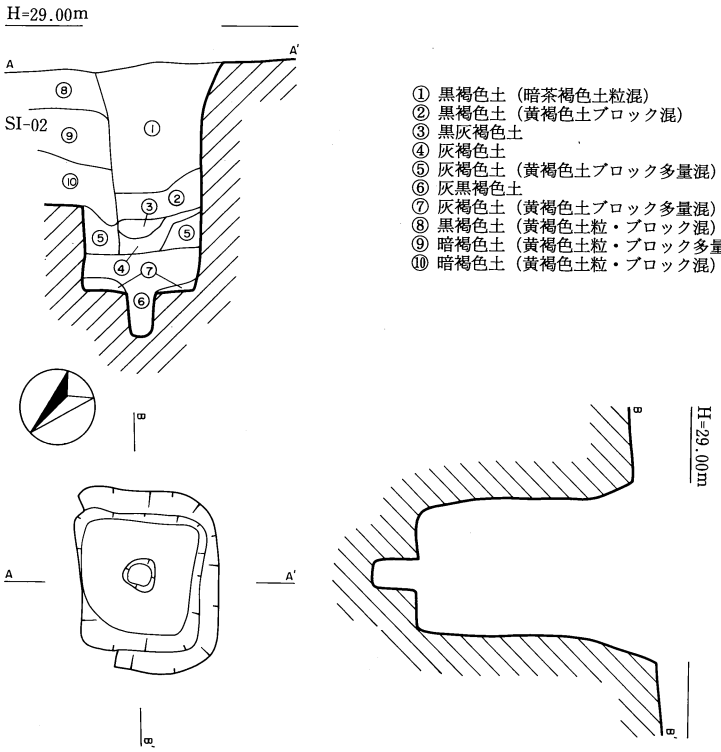


挿図29　50・51号落し穴遺構図



① 暗茶褐色土(茶褐色土混)
② 黒褐色土
③ 黒褐色土(茶褐色土混)
④ 黄褐色土(黒褐色土混)

52号落し穴

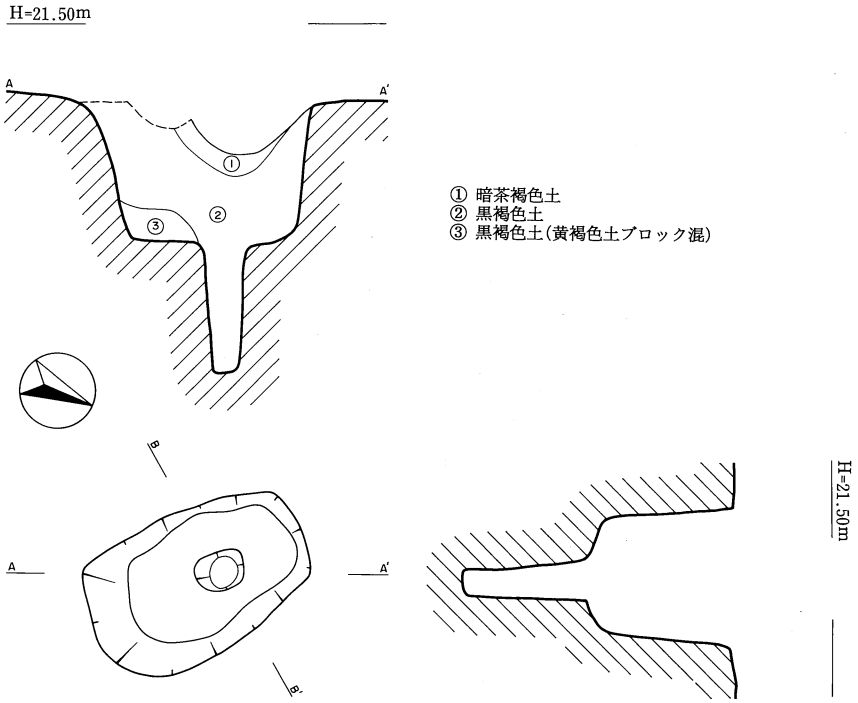


① 黒褐色土（暗茶褐色土粒混）
② 黒褐色土（黄褐色土ブロック混）
③ 黒灰褐色土
④ 灰褐色土
⑤ 灰褐色土（黄褐色土ブロック多量混）～しまりが良い
⑥ 灰黒褐色土
⑦ 灰褐色土（黄褐色土ブロック多量混）
⑧ 黒褐色土（黄褐色土粒・ブロック混）
⑨ 暗褐色土（黄褐色土粒・ブロック多量混）
⑩ 暗褐色土（黄褐色土粒・ブロック混）

53号落し穴

S＝1：40
0　2 m

挿図30　52・53号落し穴遺構図

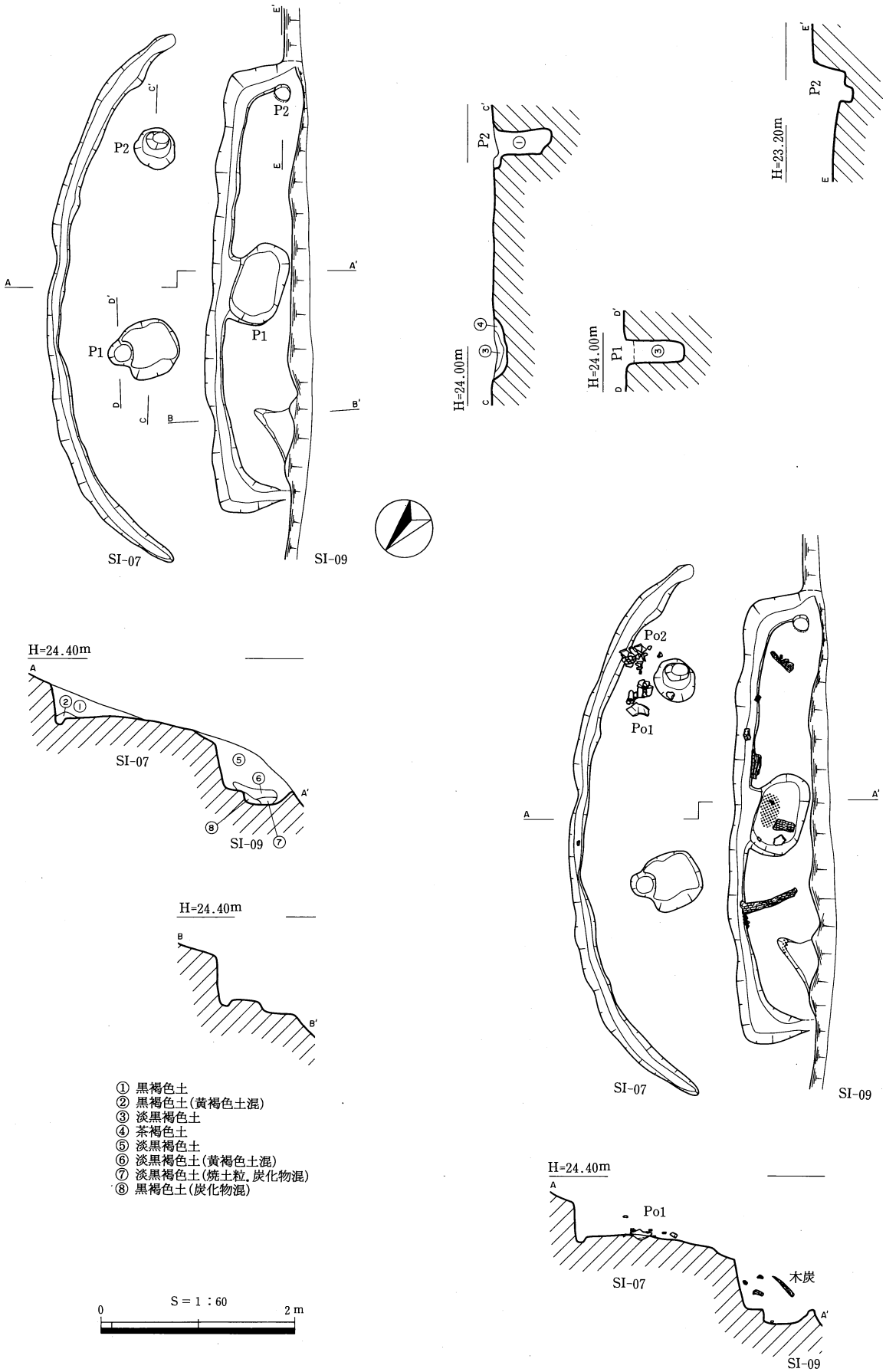


54号落し穴

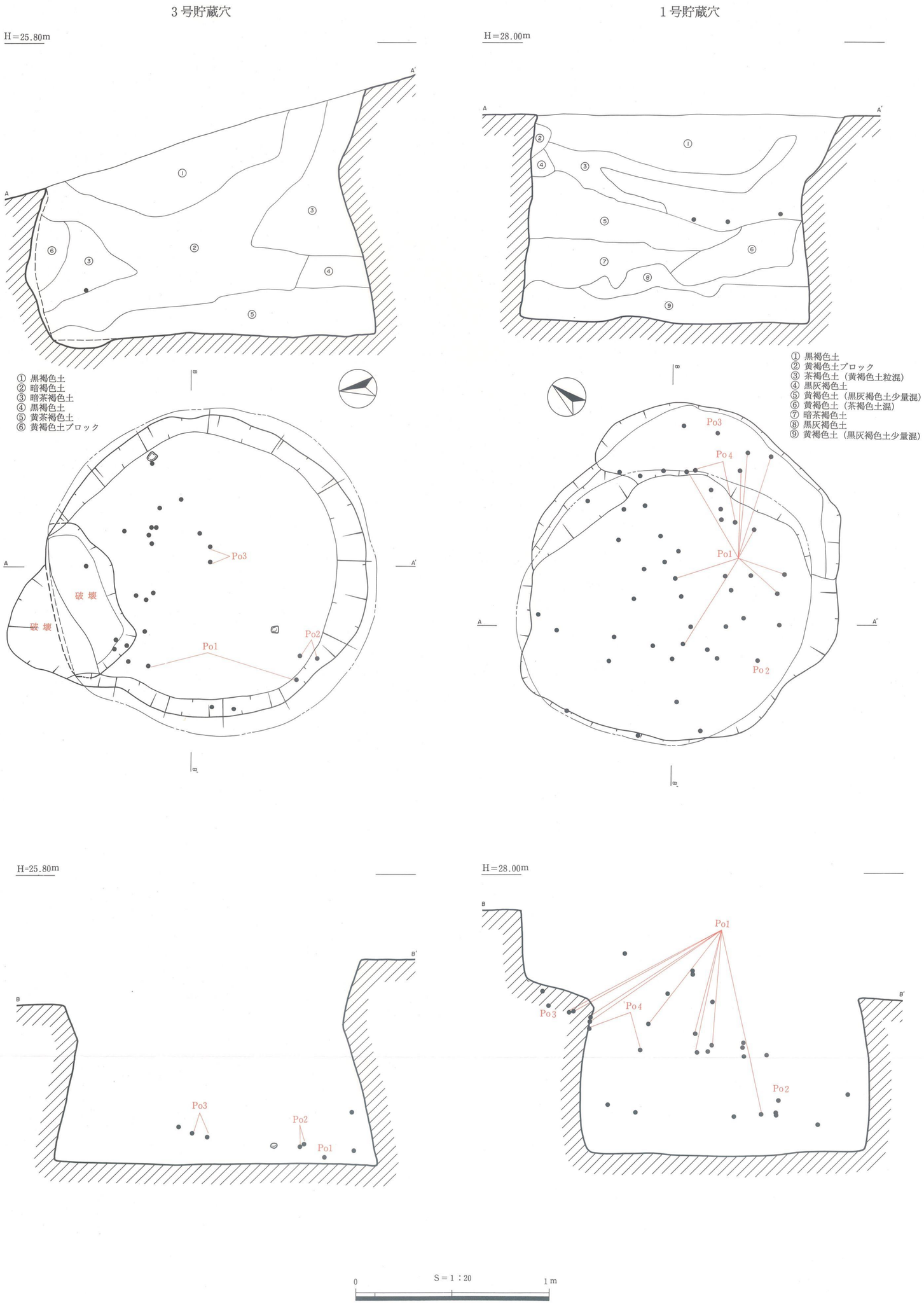
S＝1：40

0　2 m

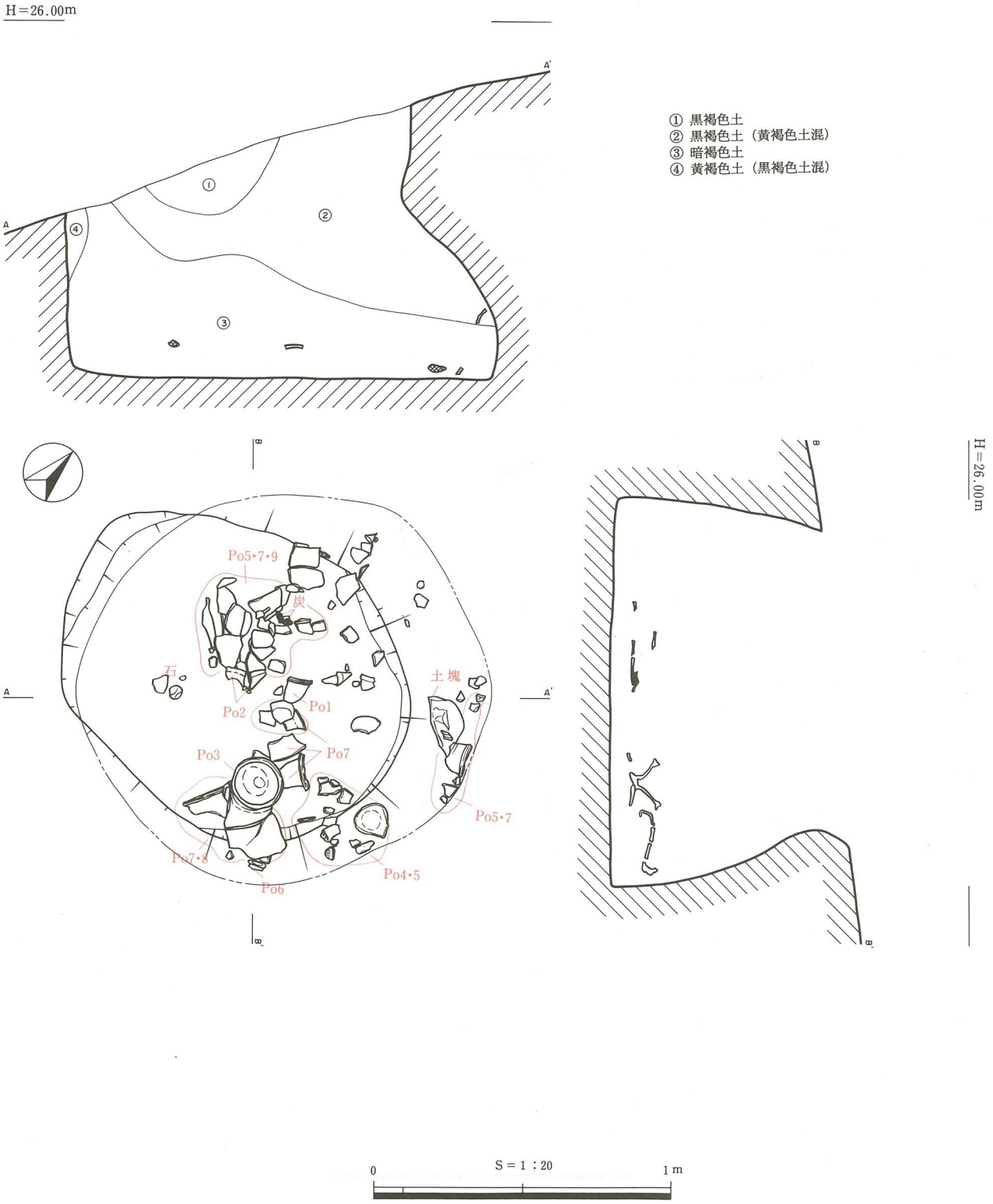
挿図31　54号落し穴遺構図



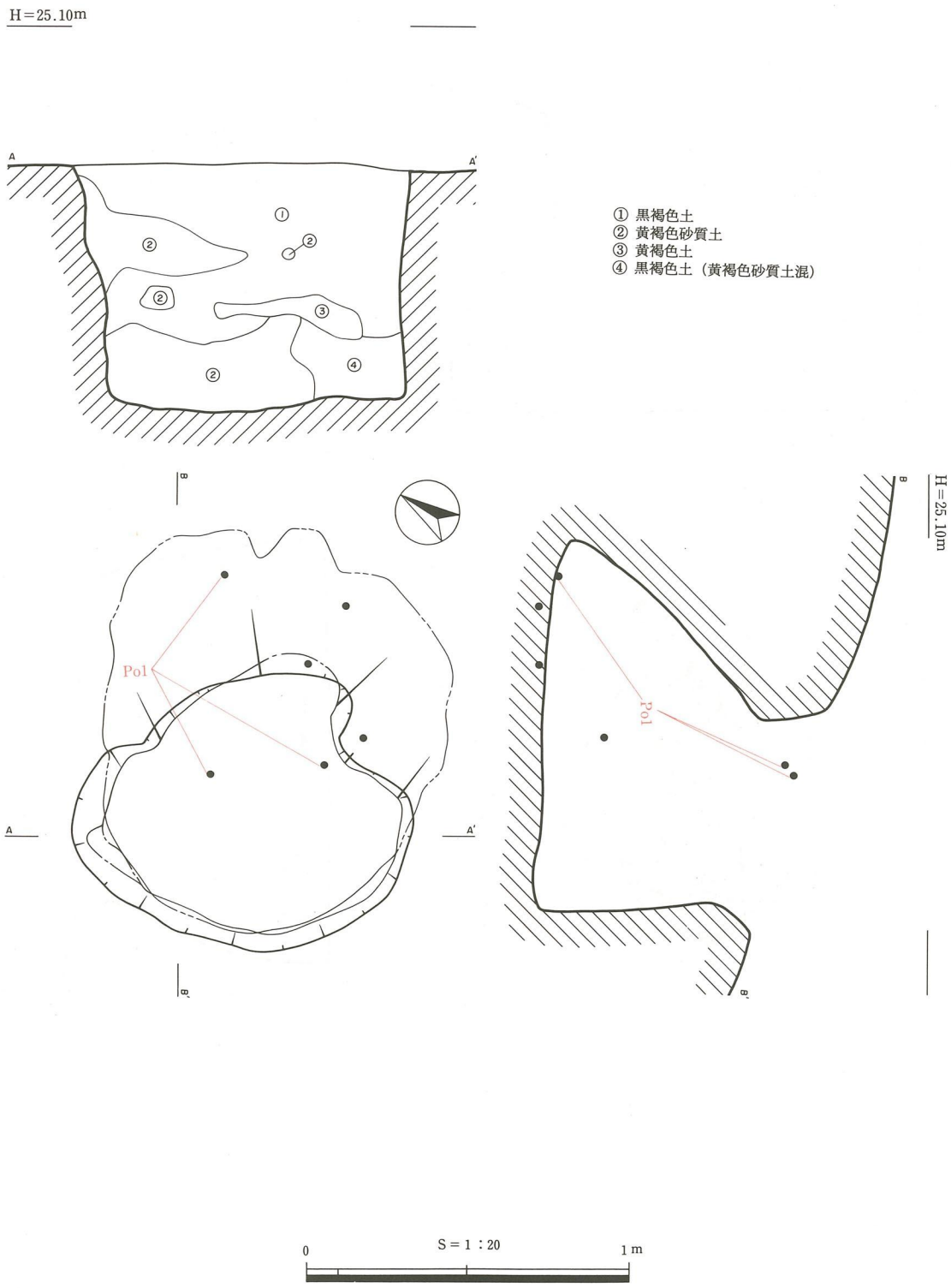
挿図32　ＳＩ－07、ＳＩ－09遺構図



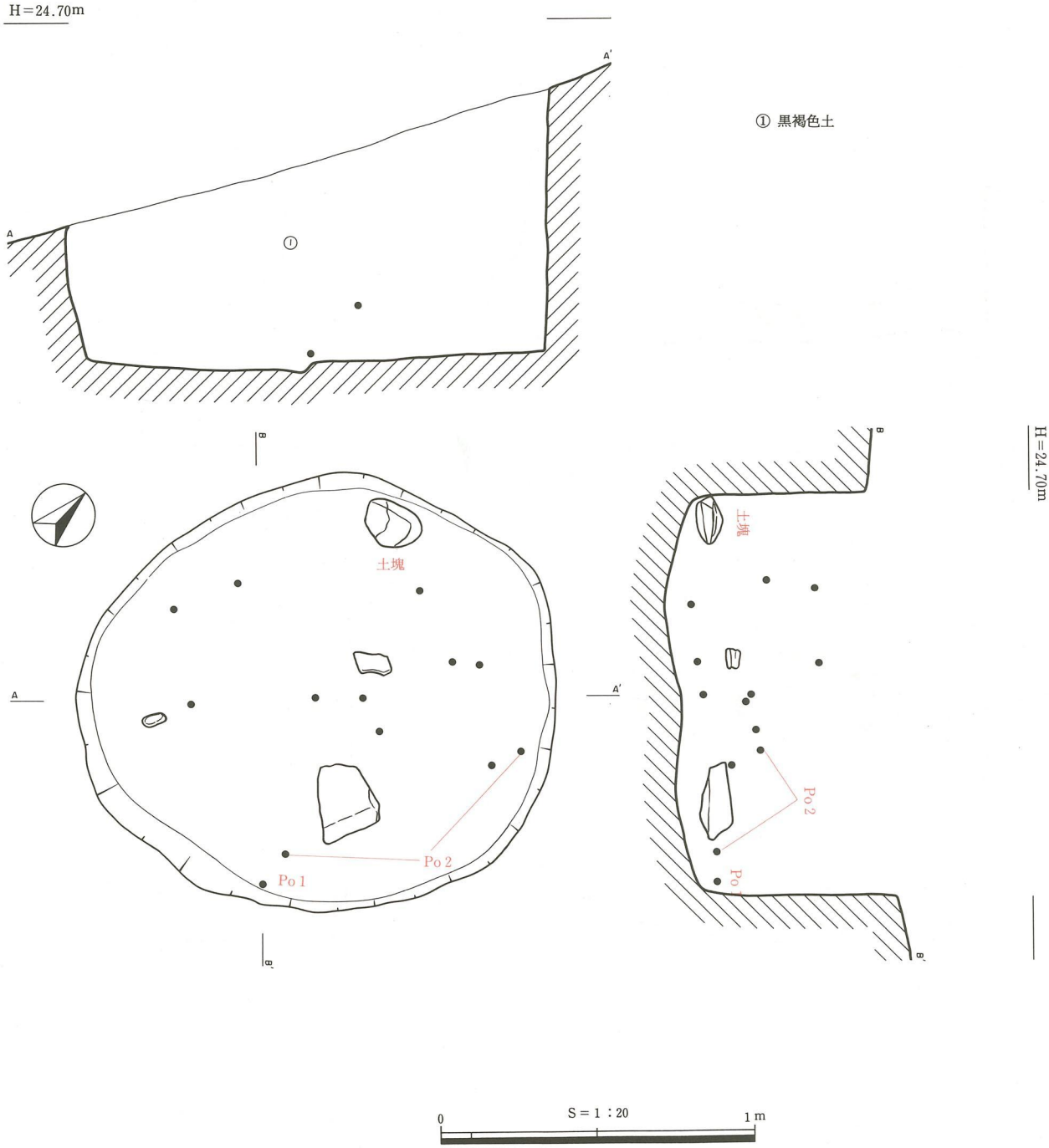
挿図33　1・3号貯蔵穴遺構図



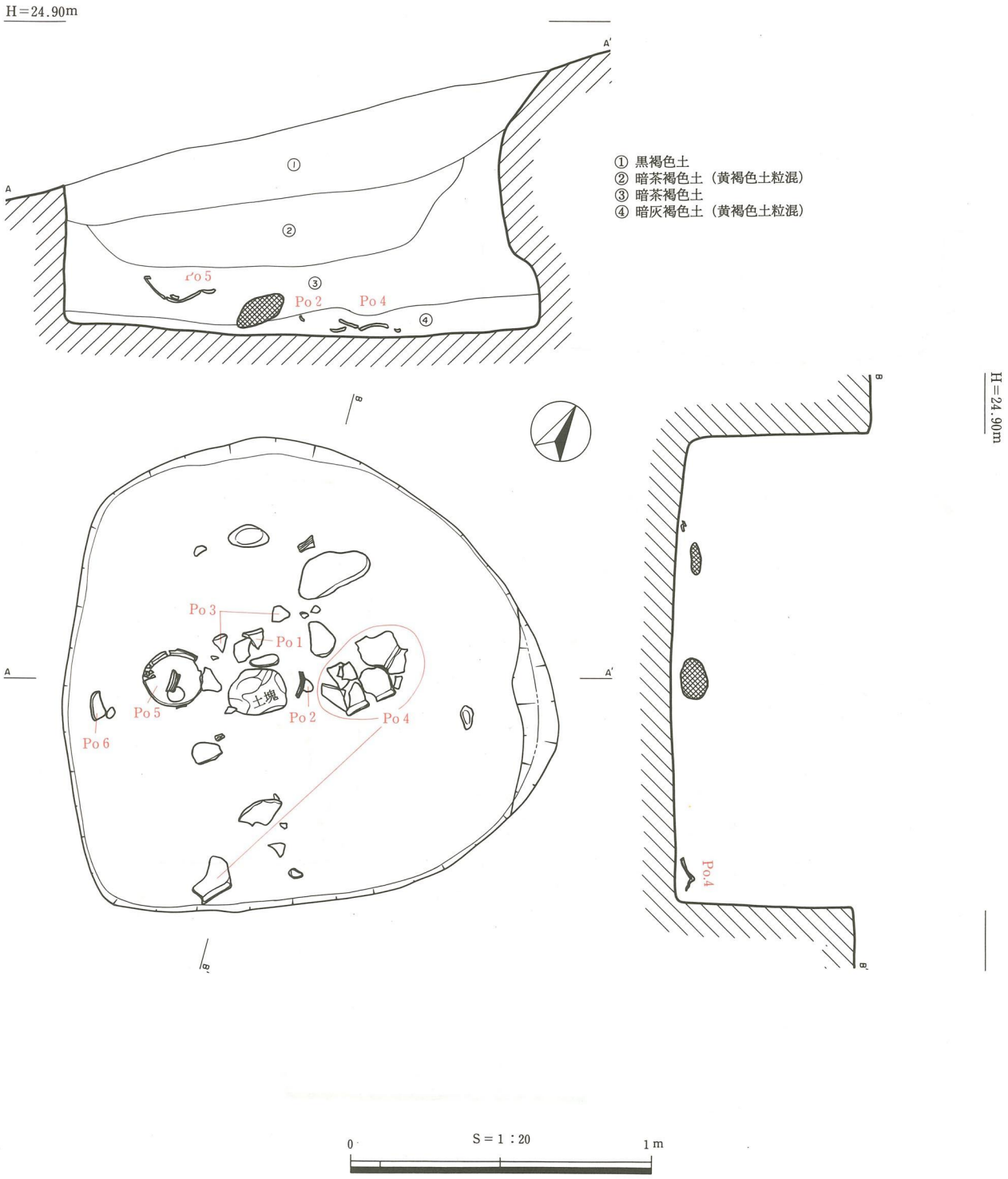
挿図34　2号貯蔵穴遺構図



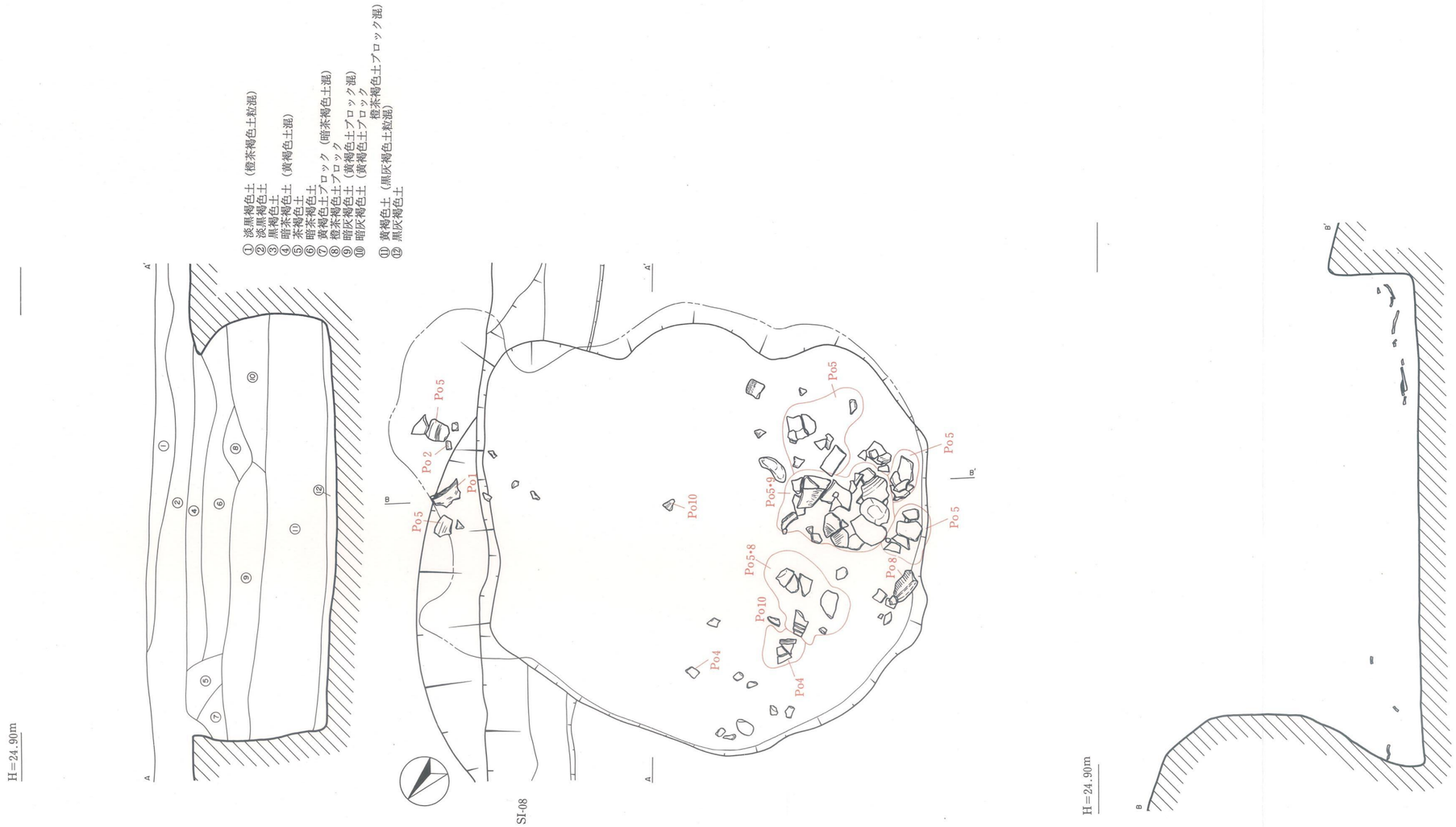
挿図35　4号貯蔵穴遺構図



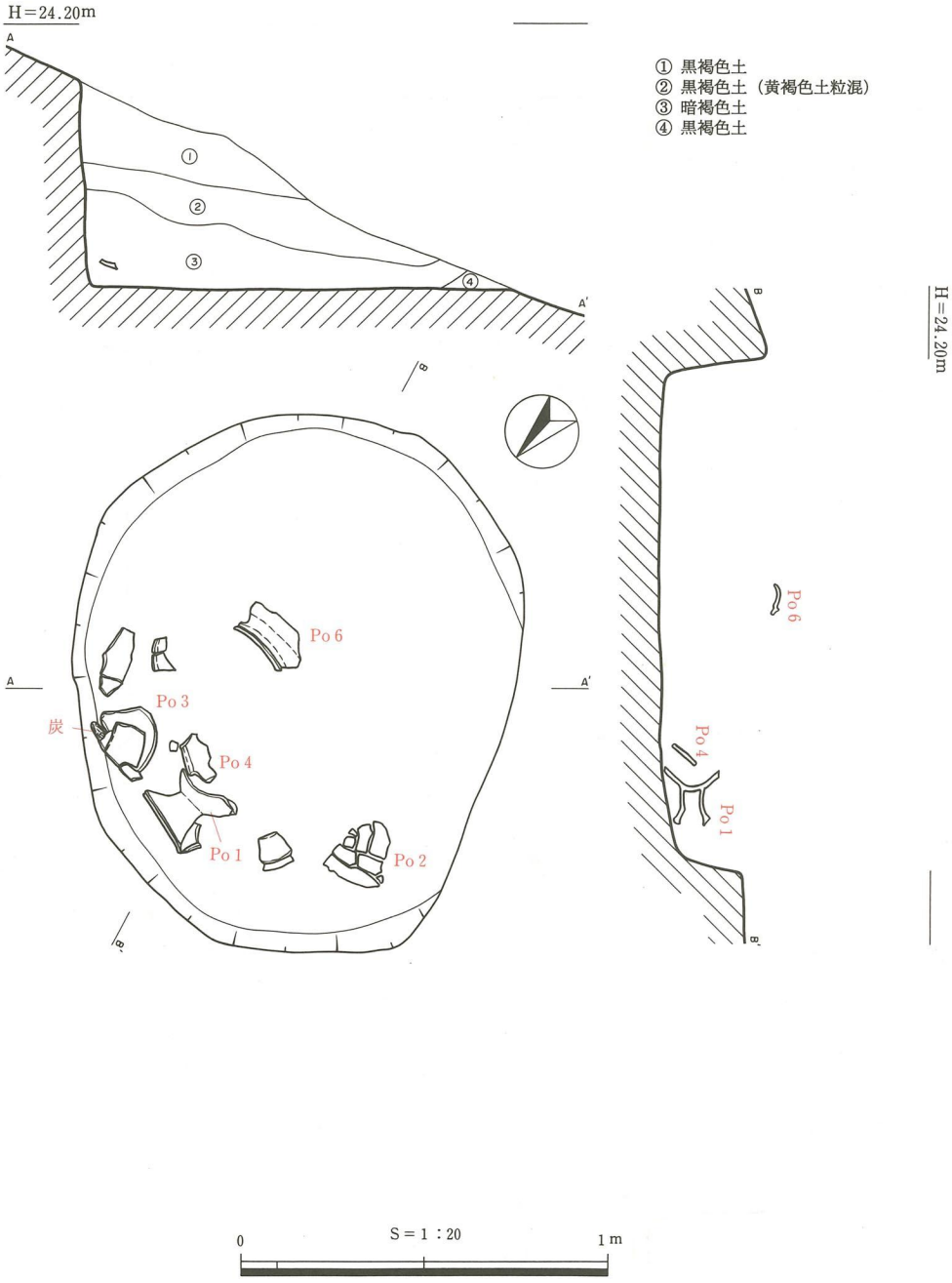
挿図36　5号貯蔵穴遺構図



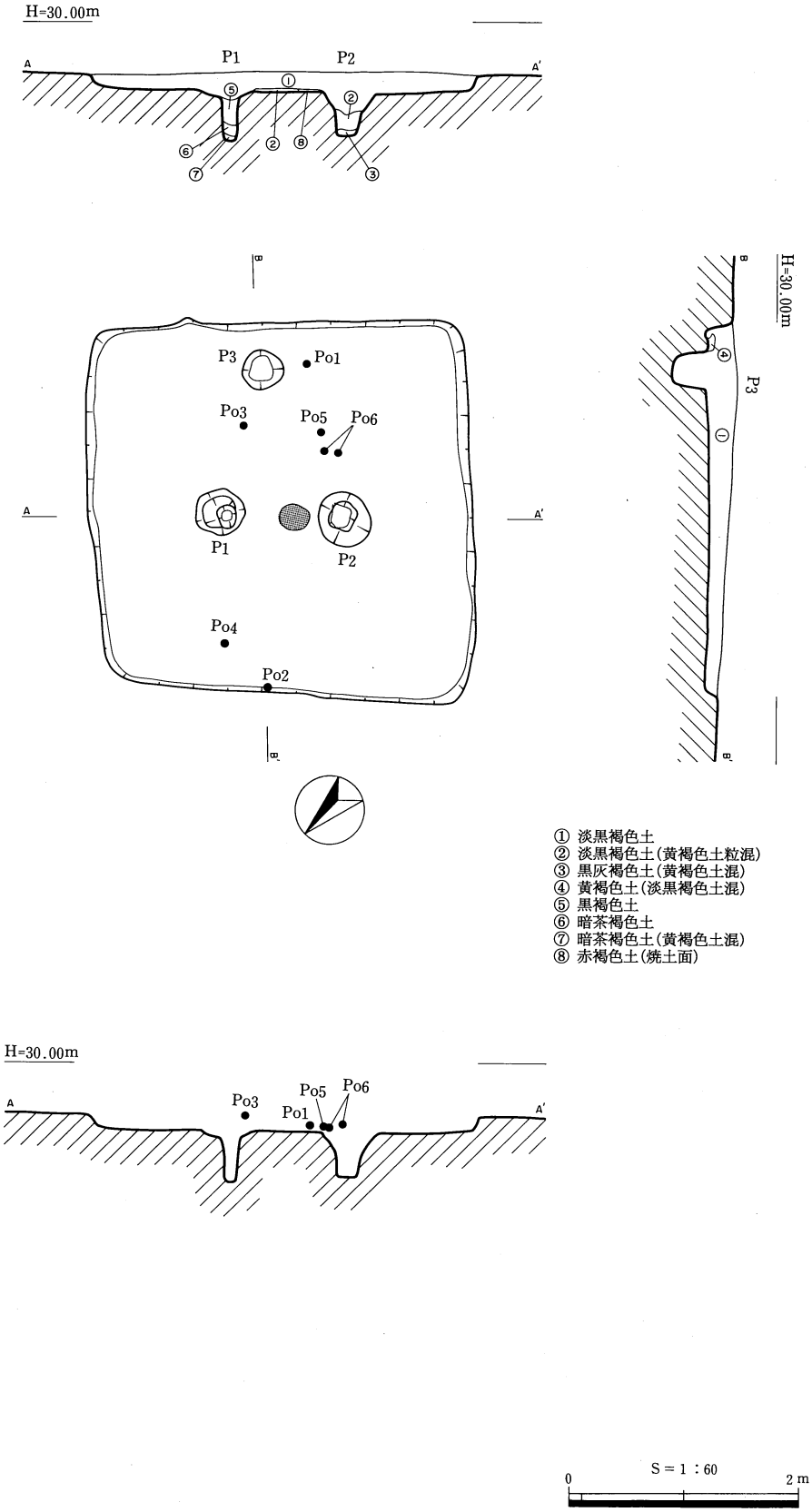
挿図37　6号貯蔵穴遺構図



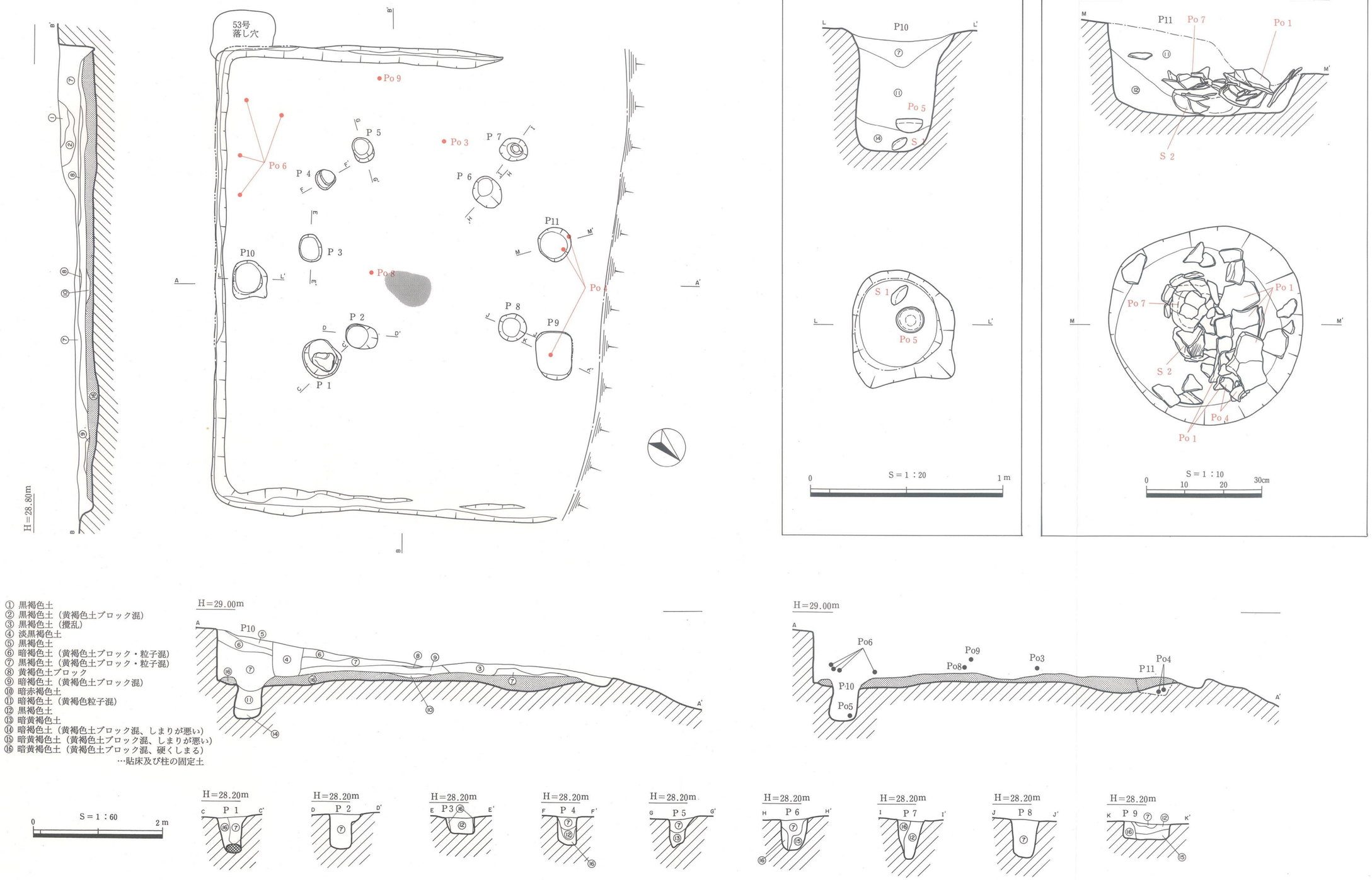
挿図38　8号貯蔵穴遺構図



挿図39　7号貯蔵穴遺構図

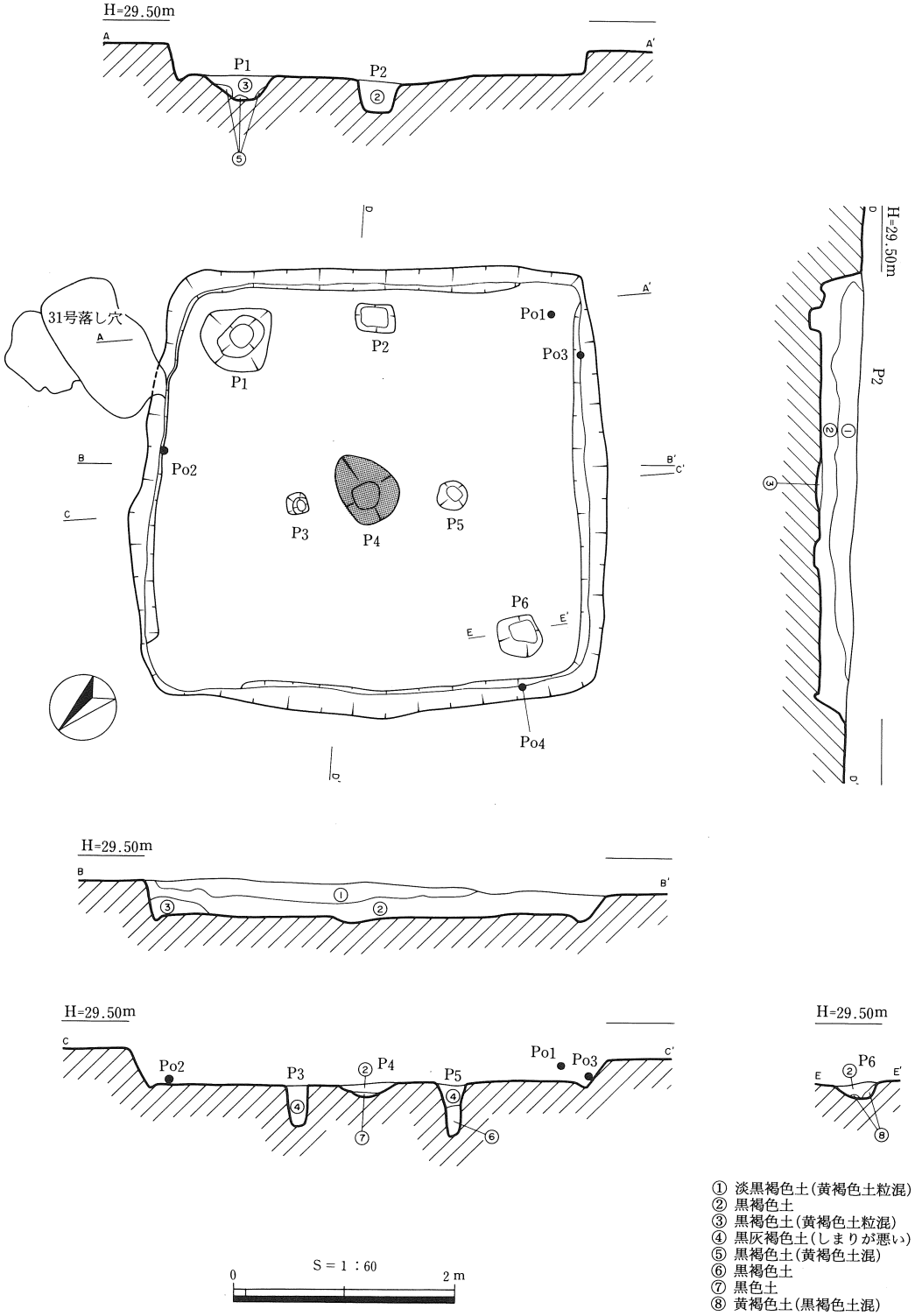


挿図40　ＳＩ－03遺構図



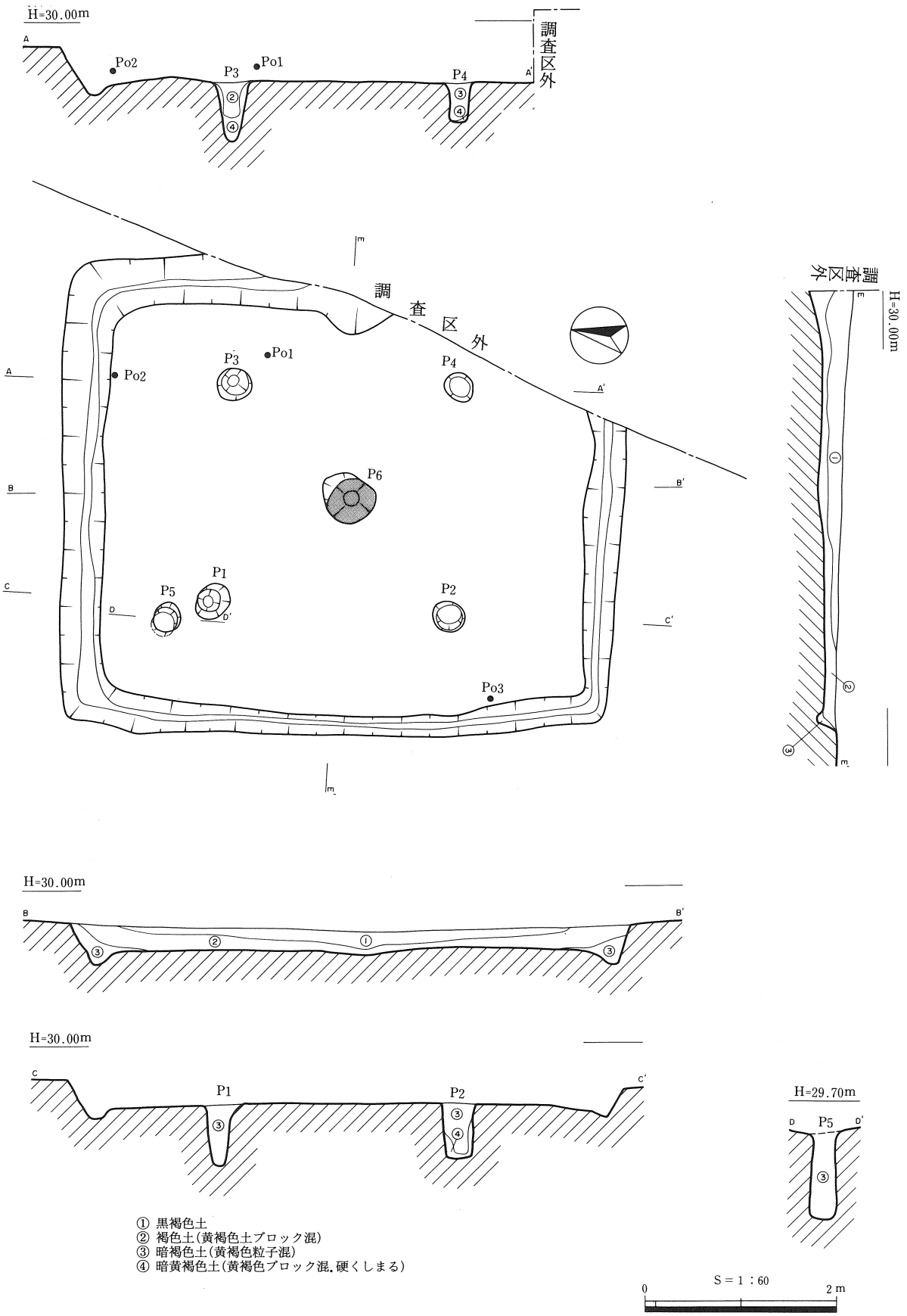
① 黒褐色土
② 黒褐色土（黄褐色土ブロック混）
③ 黒褐色土（攪乱）
④ 淡黒褐色土
⑤ 黒褐色土
⑥ 暗褐色土（黄褐色土ブロック・粒子混）
⑦ 黒褐色土（黄褐色土ブロック・粒子混）
⑧ 黄褐色土ブロック
⑨ 暗褐色土（黄褐色土ブロック混）
⑩ 暗赤褐色土
⑪ 暗褐色土（黄褐色粒子混）
⑫ 黒褐色土
⑬ 暗黄褐色土
⑭ 暗褐色土（黄褐色土ブロック混、しまりが悪い）
⑮ 暗黄褐色土（黄褐色土ブロック混、しまりが悪い）
⑯ 暗黄褐色土（黄褐色土ブロック混、硬くしまる）
…貼床及び柱の固定土

挿図41　ＳＩ－02遺構図

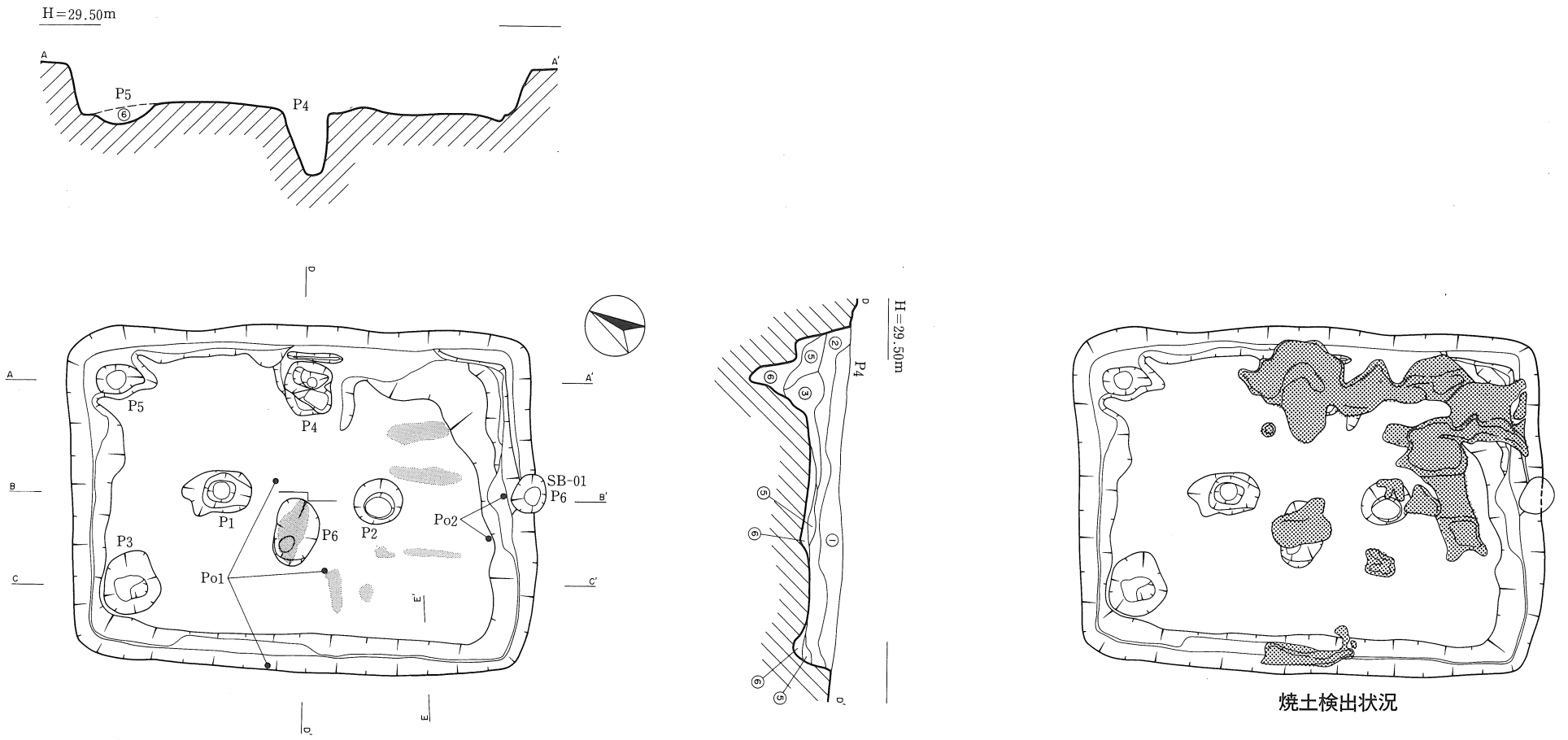


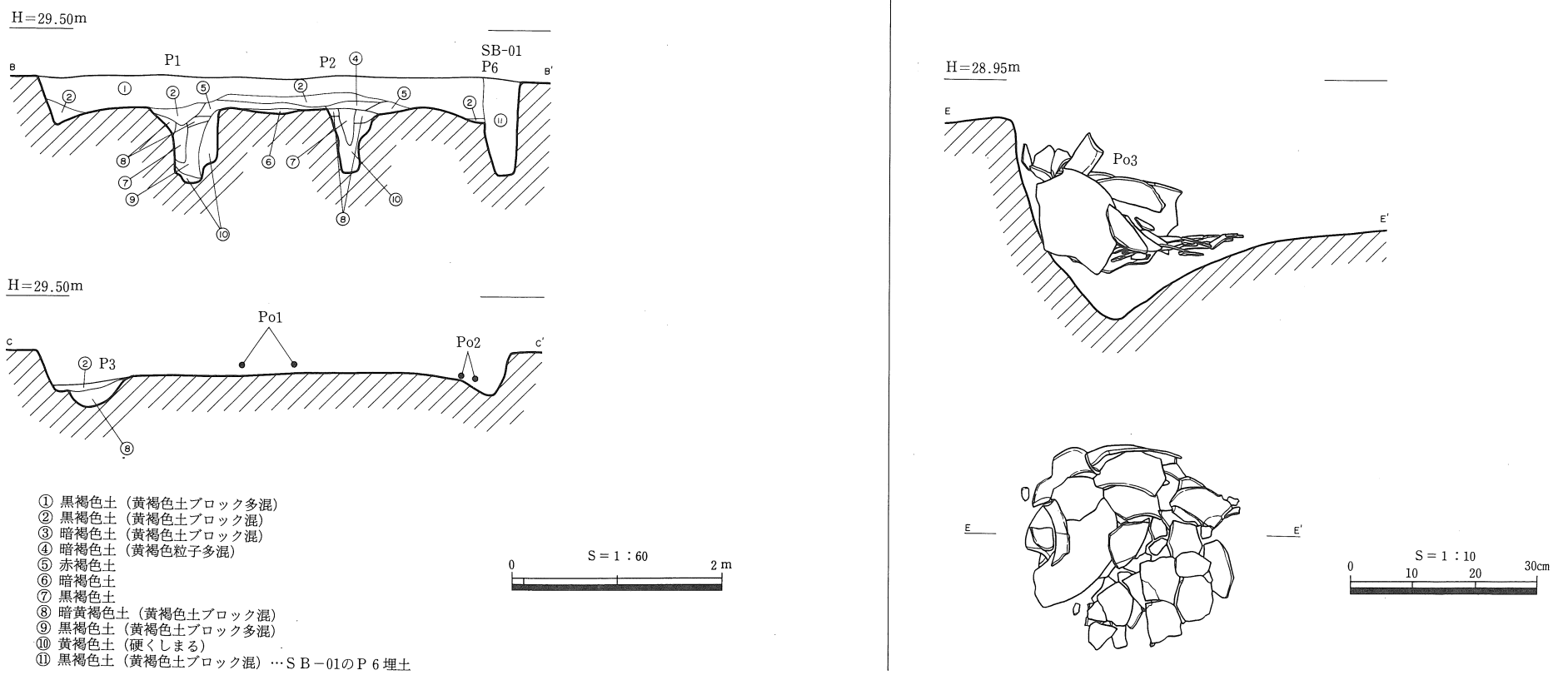
① 淡黒褐色土(黄褐色土粒混)
② 黒褐色土
③ 黒褐色土(黄褐色土粒混)
④ 黒灰褐色土(しまりが悪い)
⑤ 黒褐色土(黄褐色土混)
⑥ 黒褐色土
⑦ 黒色土
⑧ 黄褐色土(黒褐色土混)

挿図42　ＳＩ－04遺構図



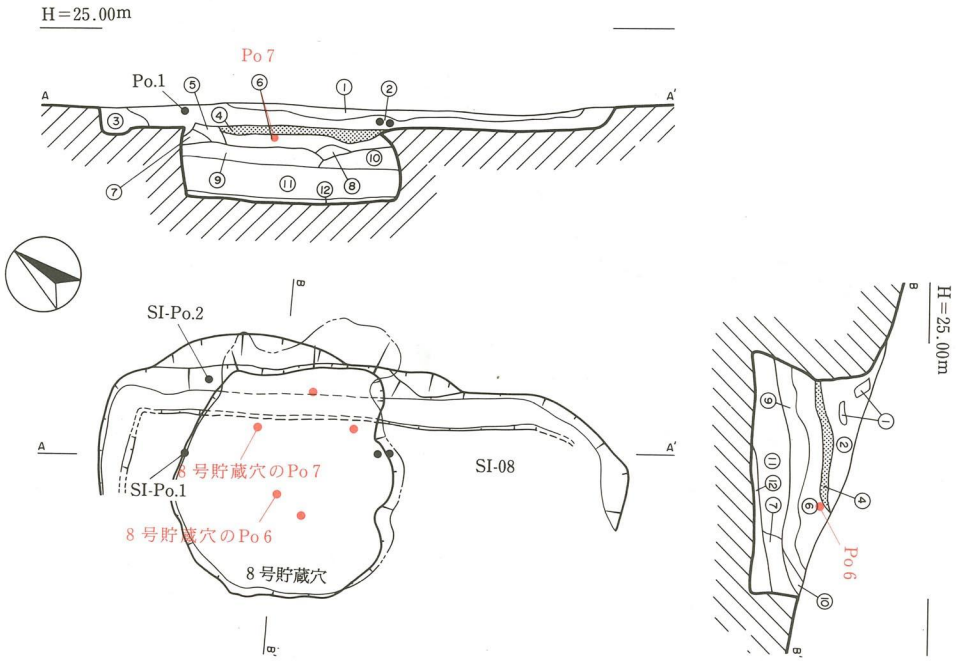
挿図43　ＳＩ－06遺構図





① 黒褐色土（黄褐色土ブロック多混）
② 黒褐色土（黄褐色土ブロック混）
③ 暗褐色土（黄褐色土ブロック混）
④ 暗褐色土（黄褐色粒子多混）
⑤ 赤褐色土
⑥ 暗褐色土
⑦ 黒褐色土
⑧ 暗黄褐色土（黄褐色土ブロック混）
⑨ 黒褐色土（黄褐色土ブロック多混）
⑩ 黄褐色土（硬くしまる）
⑪ 黒褐色土（黄褐色土ブロック混）…ＳＢ－01のＰ６埋土

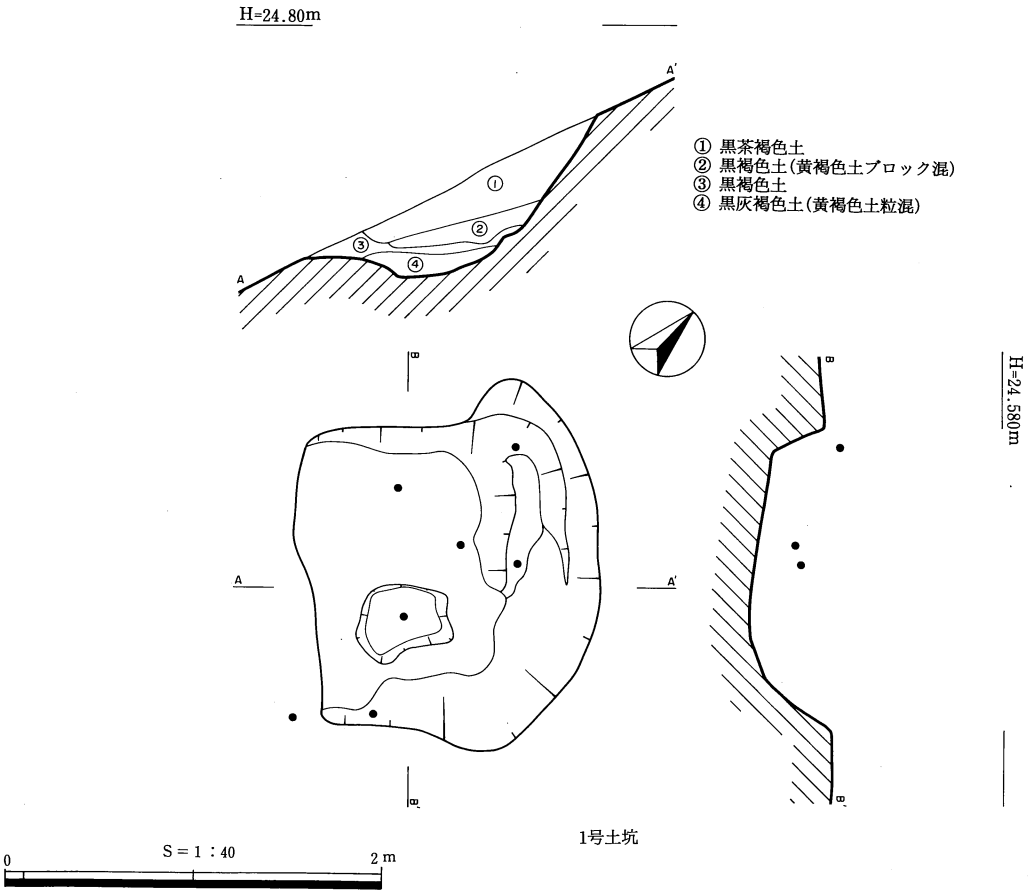
挿図44　ＳＩ－05遺構図



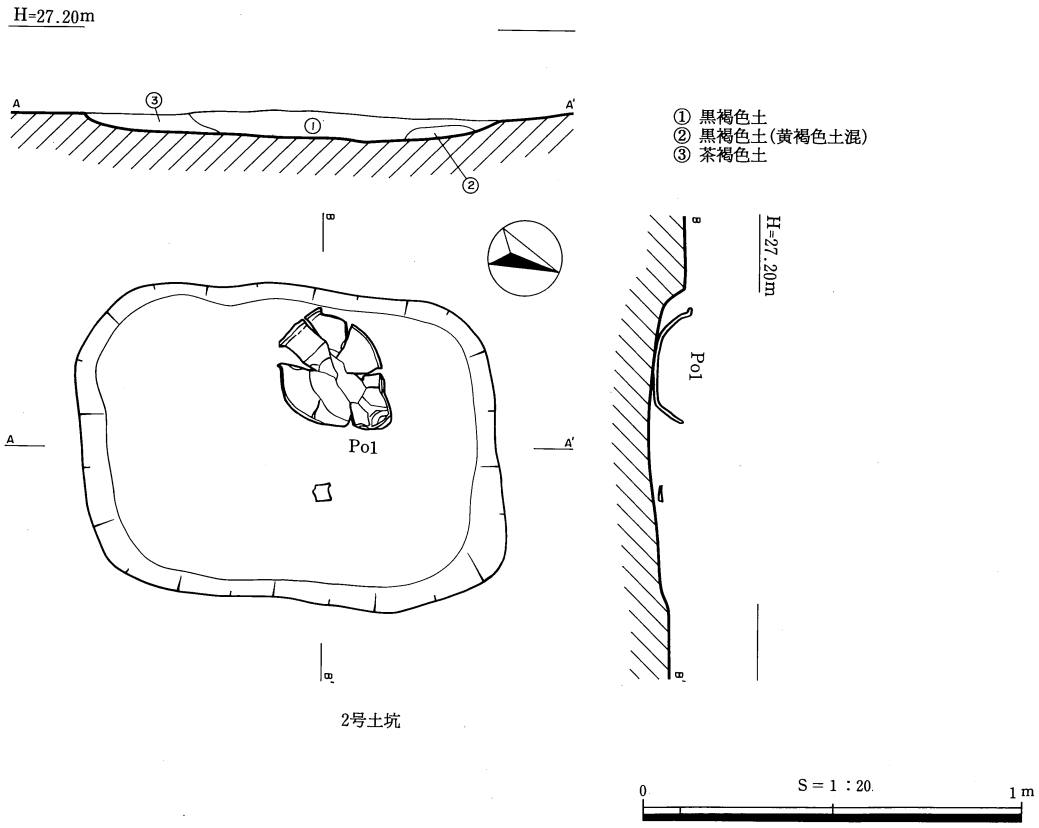
① 淡黒褐色土（橙茶褐色土粒混）
② 淡黒褐色土
③ 黒褐色土
④ 暗茶褐色土（黄褐色土混）
⑤ 茶褐色土
⑥ 暗茶褐色土
⑦ 黄褐色土ブロック（暗茶褐色土混）
⑧ 橙茶褐色土ブロック
⑨ 暗灰褐色土（黄褐色ブロック混）
⑩ 暗灰褐色土（黄褐色土ブロック
橙茶褐色土ブロック混）
⑪ 黄褐色土（黒灰褐色土粒混）
⑫ 黒灰褐色土

S＝1：60
0　2 m

挿図45　ＳＩ－08遺構図

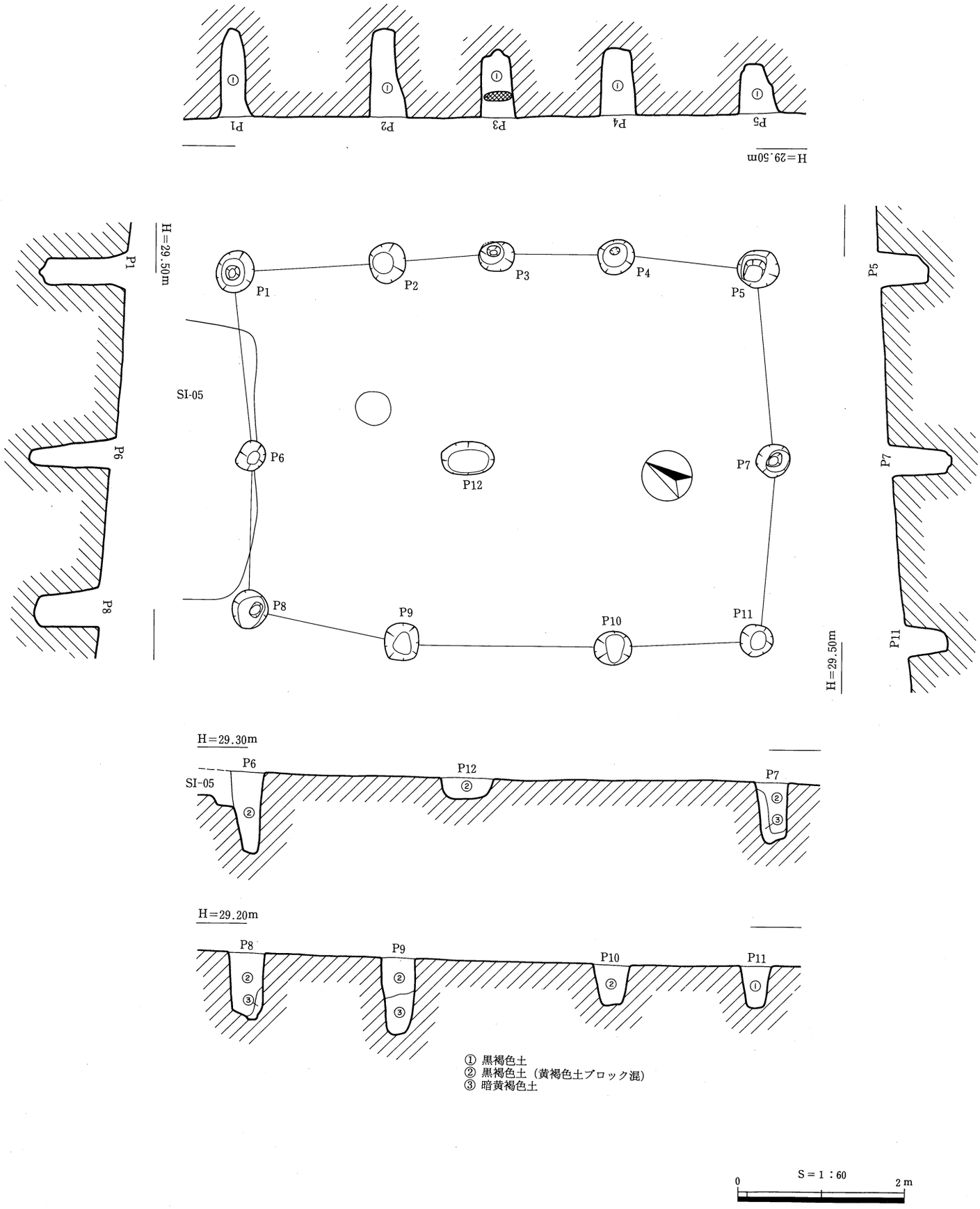


1号土坑

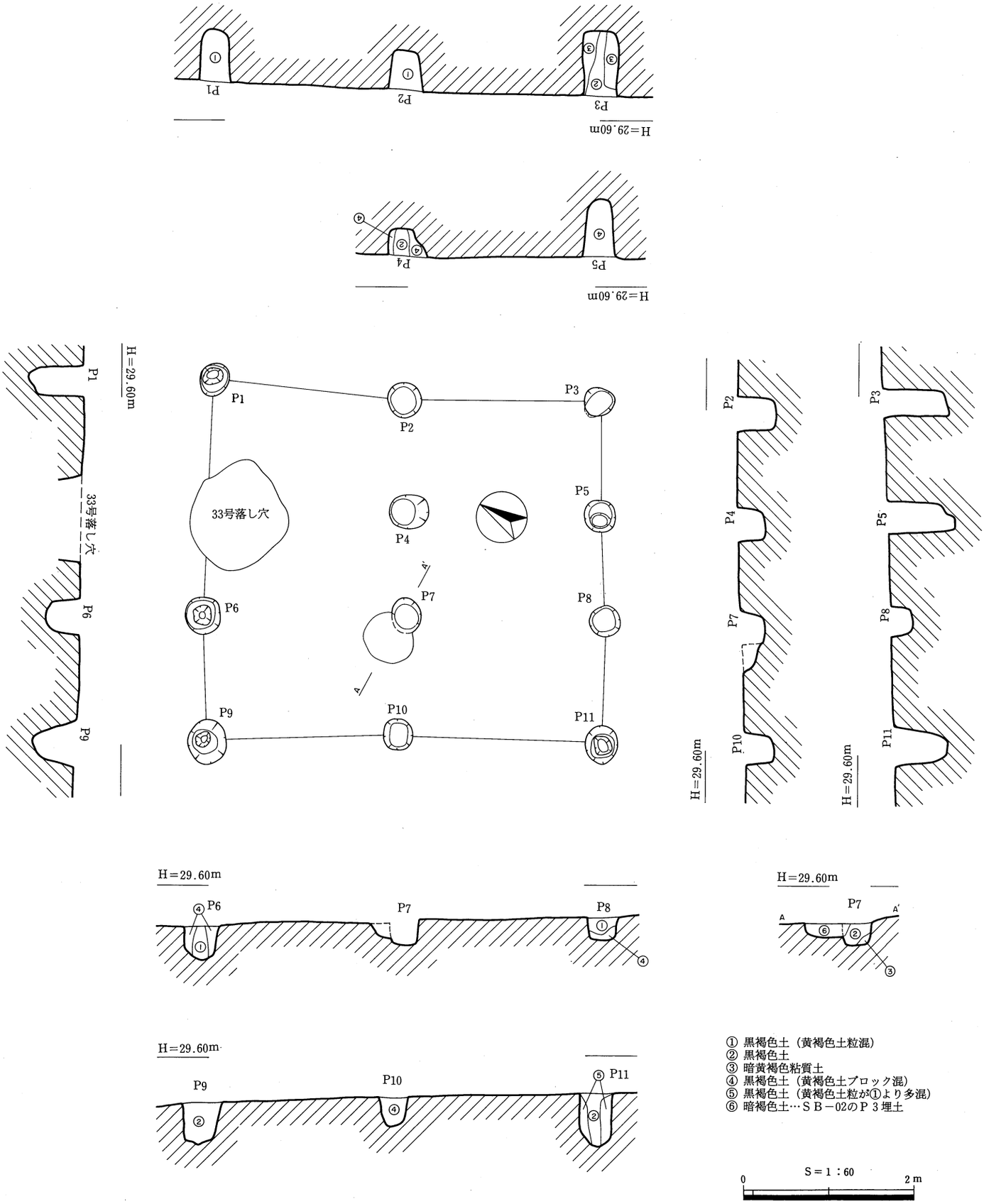


2号土坑

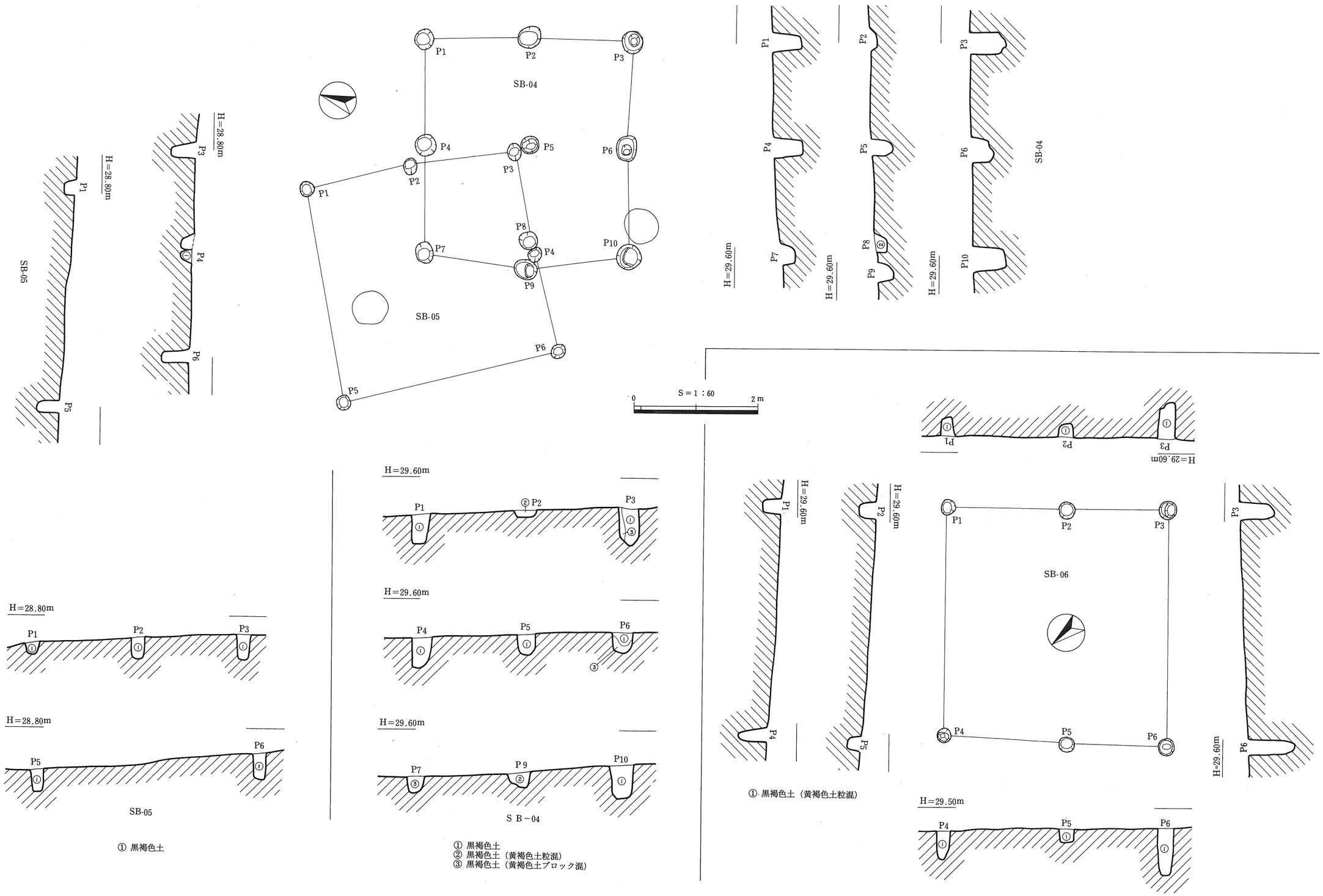
挿図46　1・2号土坑遺構図



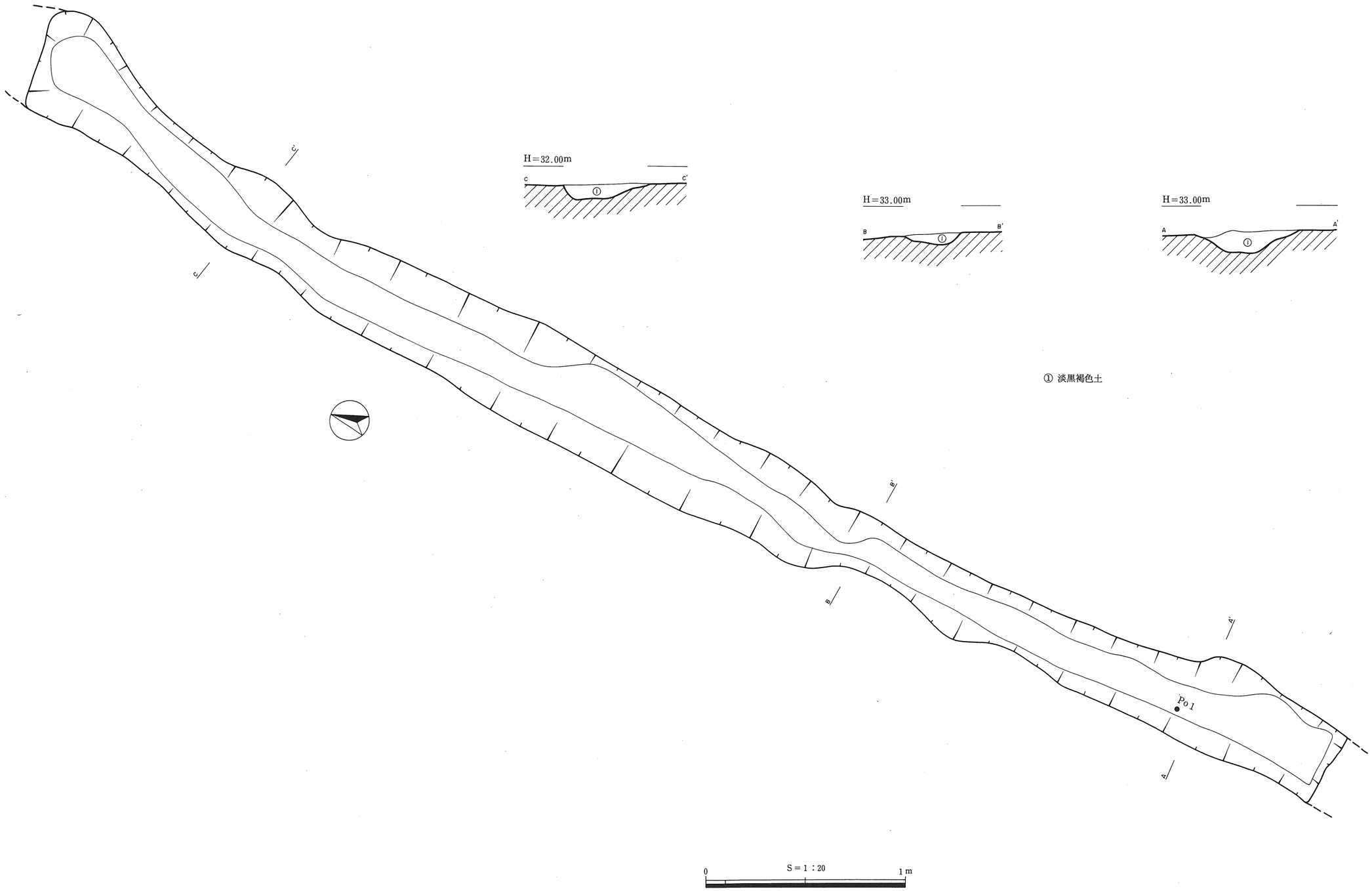
挿図47　ＳＢ－01遺構図



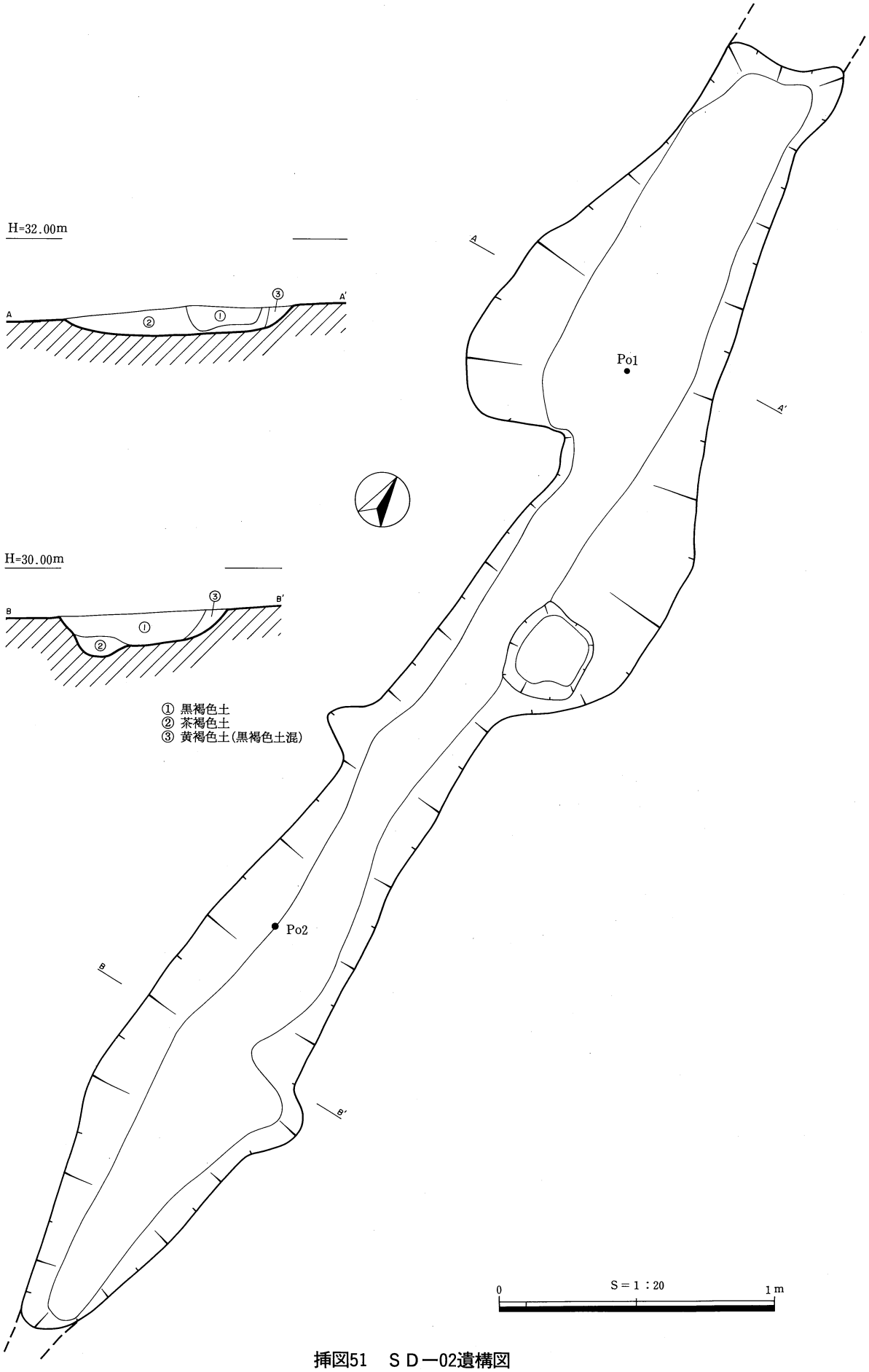
挿図48　ＳＢ－03遺構図



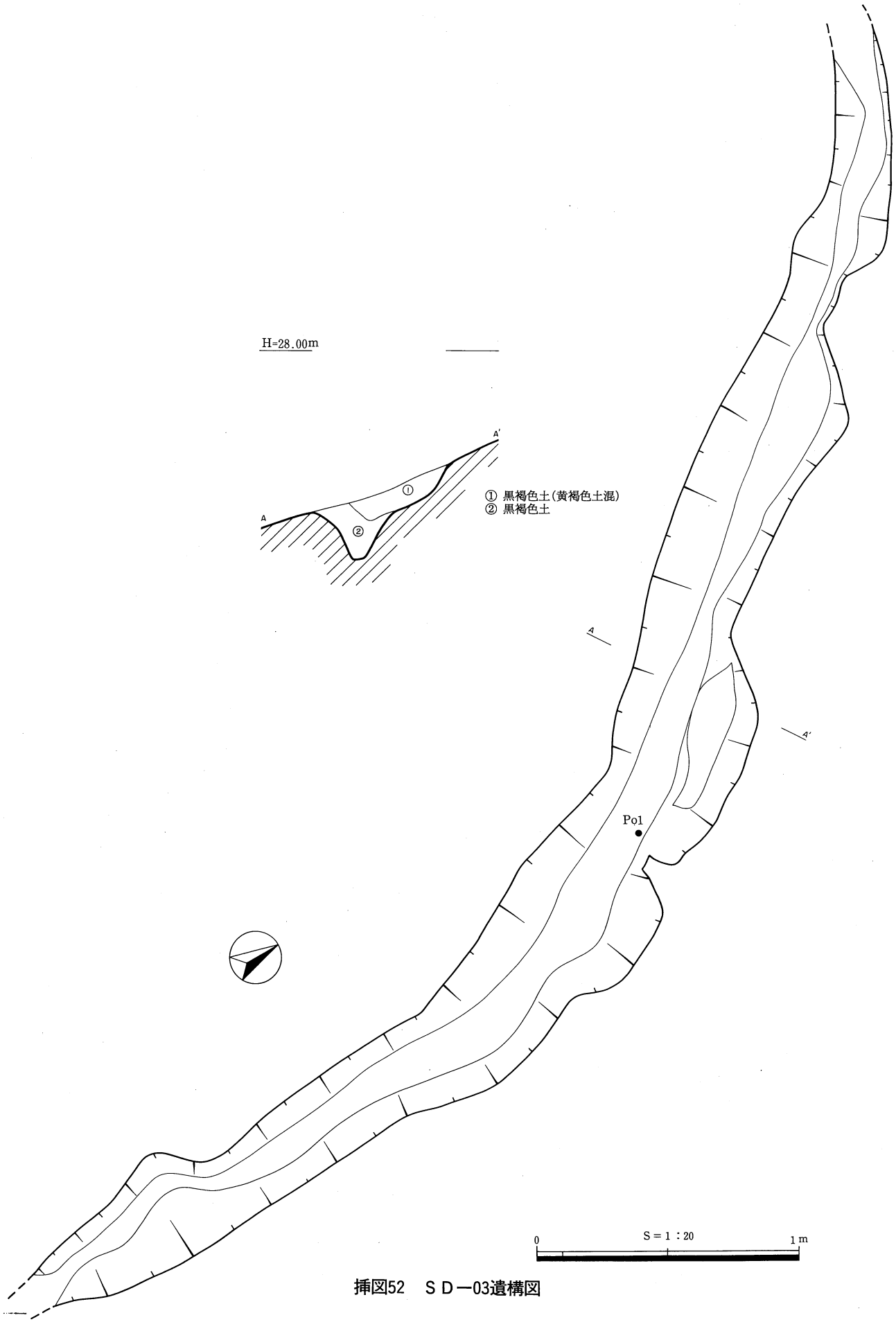
挿図49　ＳＢ―04・05・06遺構図



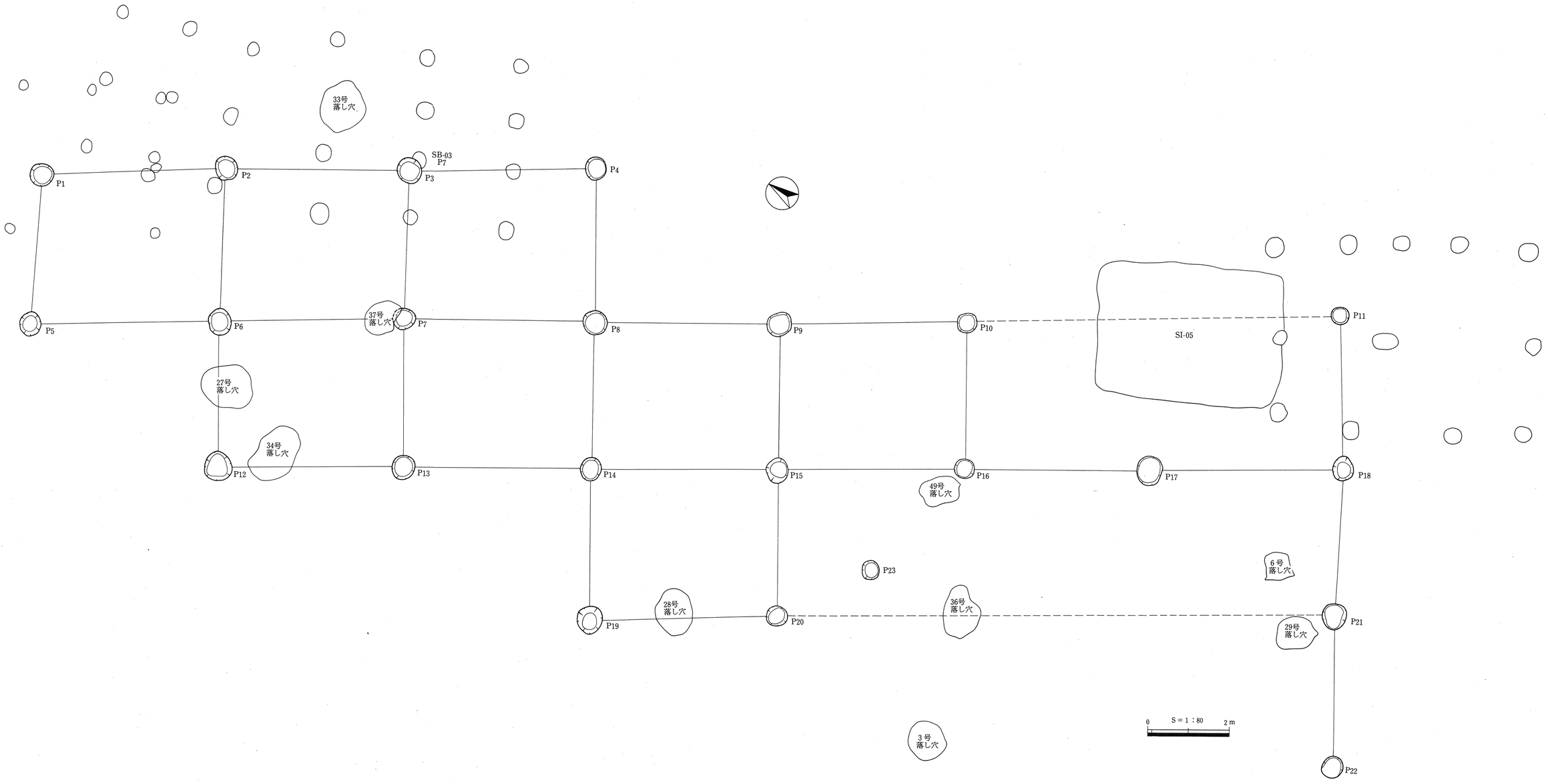
挿図50　ＳＤ－01遺構図



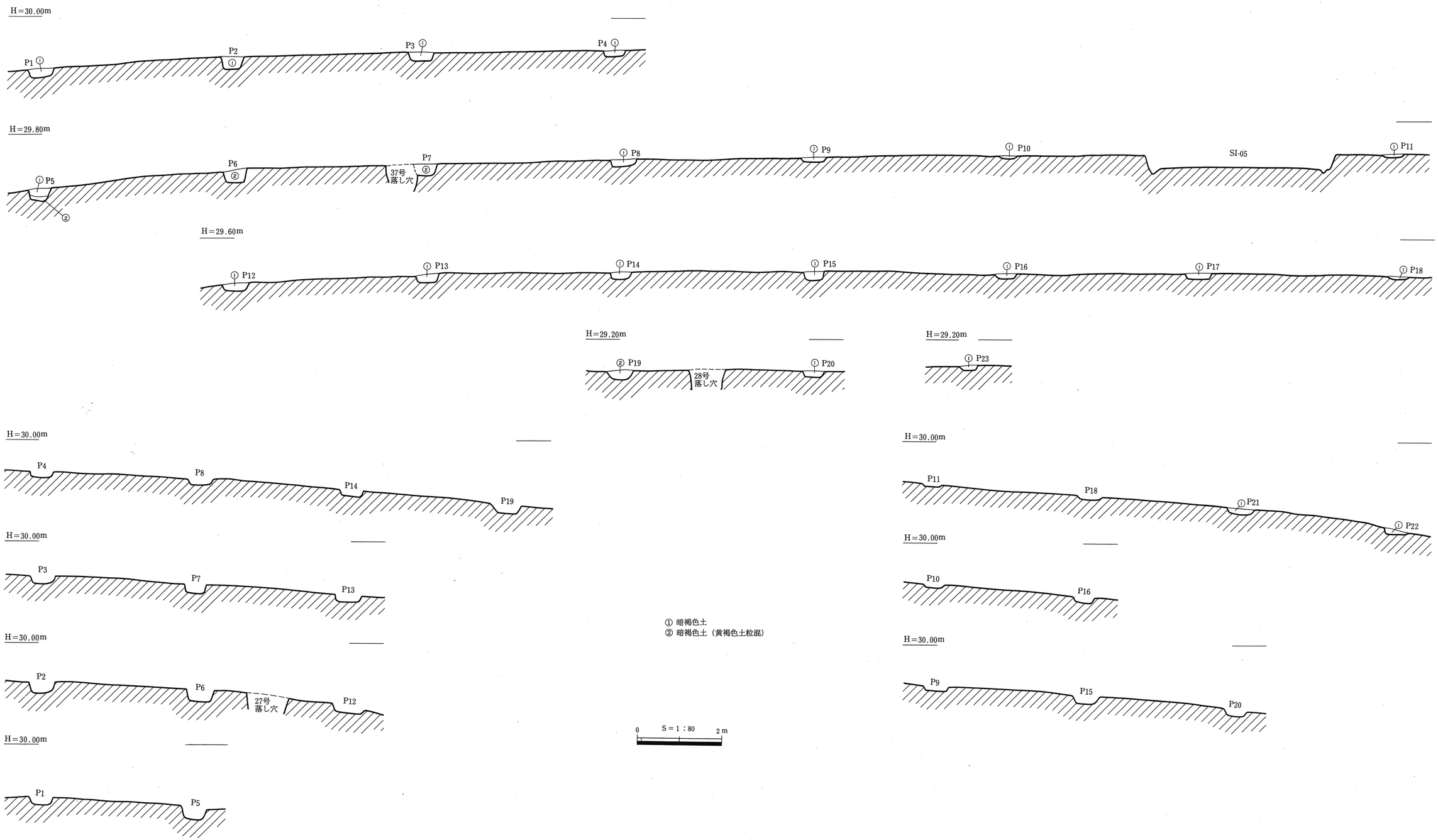
挿図51　ＳＤ－02遺構図



挿図52　ＳＤ－03遺構図



挿図53　ＳＢ－02遺構平面図



挿図54　ＳＢ－02遺構断面図

番号	平面形		規模（長軸×短軸－深さ）		規模（最大径－深さ）		石の個数
	検出面	底　面	検出面	底　面	底面ピット	杭痕跡	
1	円	円	77×67-141	71×64	無	無	0
2	円	円	74×62-72	35×30	無	無	0
3	円	円	95×87-101	74×72	無	10－15 11－17 18－24 9 －14	0
4	不定	円	98×62-124	82×60	無	10－17 7 －17 9 －20	0
5	円	円	90×80-140	50×48	無	無	0
6	不定	円	70×53-135	53×36	無	無	0
7	円	円	85×50-127	64×41	無	無	0
8	円	円	66×55-91	74×58	無	6 －17 6 －17 4 －13 6 －13	0
9	長方	長方	118×52-60	102×51	50－63	13－34 10－12 12－58	0
10	隅丸長方	長方	102×71-102	63×45	無	6 －13 7 －15 6 － 9 5 －10 8 －22 8 －15	0
11	隅丸長方	隅丸長方	103×80-99	67×41	28－35	無	0
12	隅丸長方	隅丸長方	133×80-74	111×75	31－55	無	0
13	長方	長方	114×66-55	96×58	無	10－25 6 －22	0
14	隅丸長方	隅丸長方	122×104-93	92×61	26－61	無	0
15	長方	長方	100×60-48	91×43	無	6 － 8 12－31 7 －15 6 －19	0
16	隅丸長方	隅丸長方	115×75-75	91×58	無	6 － 5 6 －22 11－28	0
17	隅丸長方	長方	109×65-98	70×65	25－51	13－27 7 －20 8 －26	0
18	隅丸長方	長方	148×76-94	104×48	21－50	15－20 8 －34	0
19	楕円	長方	108×61-90	73×37	19－16	無	0
20	不定	隅丸長方	116×96-107	68×47	22－38	無	1

規模単位（cm）

挿表１　落し穴一覧表　(1)

番号	平面形		規模（長軸×短軸－深さ）		規模（最大径－深さ）		石の個数
	検出面	底　面	検出面	底　面	底面ピット	杭痕跡	
21	不定	隅丸長方	119×96-124	80×47	無	8－6 26－12 21－8 4－10 10－12	4
22	隅丸長方	隅丸長方	110×68-99	67×28	13－27	無	0
23	隅丸長方	隅丸長方	110×52-102	85×44	無	8－11 9－16	0
24	隅丸長方	隅丸長方	113×82-105	69×62	無	10－14 10－13 13－11 8－15 10－20 11－10	0
25	不定	隅丸長方	172×113-104	95×65	31－56	無	0
26	隅丸長方	隅丸長方	124×66-98	77×41	無	12－25 10－32	0
27	不定	隅丸長方	131×80-101	98×62	23－52	無	0
28	不定	隅丸長方	114×87-120	48×40	18－26	無	0
29	不定	隅丸長方	95×79-120	60×46	16－20	無	0
30	不定	隅丸長方	153×110-97	94×53	23－33	無	0
31	隅丸長方	隅丸長方	133×66-100	101×48	23－52	6－20 4－14 5－14 3－17	6
32	隅丸長方	隅丸長方	184×129-139	66×45	31－21	無	1
33	隅丸長方	隅丸長方	130×91-126	95×50	29－38	無	1
34	隅丸長方	隅丸長方	147×88-127	93×54	21－59	無	0
35	隅丸長方	隅丸長方	106×71-110	61×39	21－48	15－19 6－6 11－33	0
36	不定	隅丸長方	131×83-121	60×33	17－25	無	0
37	不定	隅丸長方	98×49-120	56×44	20－23	無	0
38	楕円	隅丸長方	130×49-52	92×45	25－43	無	0
39	隅丸長方	長方	140×80-96	120×57	18－45	無	0
40	不定	長方	145×85-133	102×57	無	11－25 9－26 8－26 7－19 9－25	0
41	隅丸長方	隅丸長方	118×71-98	92×48	19－44	無	0

規模単位（cm）

挿表１　落し穴一覧表　(2)

番号	平面形		規模（長軸×短軸－深さ）		規模（最大径－深さ）		石の個数
	検出面	底　面	検出面	底　面	底面ピット	杭痕跡	
42	長方	長方	120×68-110	100×60	無	5－20 6－24 7－18 6－12 11－21	0
43	隅丸長方	隅丸長方	139×84-90	110×62	16－48	無	0
44	隅丸長方	隅丸長方	112×75-76	76×34	27－61	無	0
45	長方	長方	147×80-122	115×54	28－58	7－41 6－32 6－44 8－32	4
46	隅丸長方	隅丸長方	124×76-95	108×55	無	8－28 9－25 12－49 18－50	0
47	隅丸長方	隅丸長方	115×61-53	109×53	18－29	無	0
48	隅丸長方	隅丸長方	89×63-101	53×33	14－12	無	0
49	隅丸長方	隅丸長方	100×63-93	70×45	31－56	無	0
50	長方	長方	87×48-90	70×40	無	12－9 16－28 4－6	0
51	隅丸長方	隅丸長方	104×55-60	76×47	無	13－50 9－46 5－27 7－27	0
52	不定	隅丸長方	108×72-120	76×52	21－41	無	0
53	長方	長方	97×72-128	59×50	19－24	無	0
54	隅丸長方	隅丸長方	123×51-79	95×45	26－65	無	0

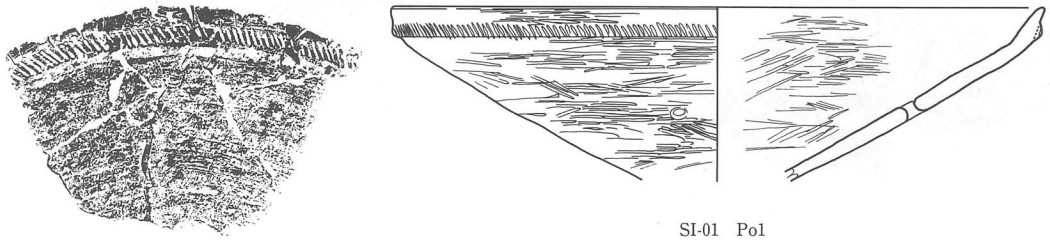
規模単位（cm）

挿表１　落し穴一覧表　(3)

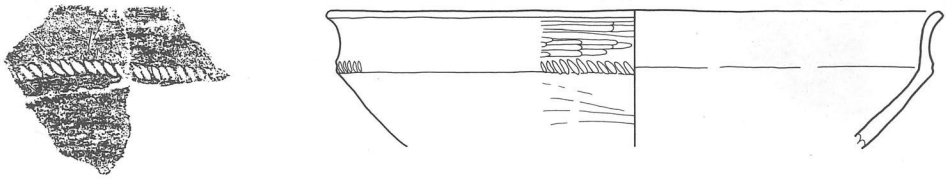
番号	平面形		規模（長軸×短軸－深さ）		時　　期	主な遺物・備考
	検出面	底　面	検出面	底　面		
1	円形	円形	175×130-125	142×123	弥生時代中期後葉	甕、壺
2	楕円形	円形	125×75-79	134×101	弥生時代中期後葉	甕、脚付甕の脚部、壺
3	円形	円形	160×117-105	172×135	弥生時代中期後葉	甕
4	円形	楕円形	115×85-92	127×89	弥生時代中期後葉	高杯
5	円形	円形	155×144-75	109×98	弥生時代中期後葉	底部片
6	円形	円形	165×115-64	155×111	弥生時代中期後葉	甕、脚付甕
7	楕円形	楕円形	147×95-55	137×85	弥生時代中期後葉	甕、脚付甕の脚部
8	楕円形	楕円形	181×138-103	218×124	弥生時代中期後葉	甕、壺

規模単位（cm）

挿表 2　貯蔵穴一覧表

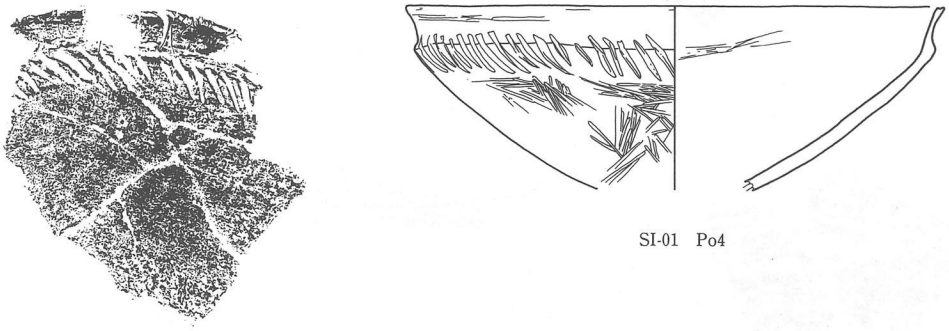


SI-01　Po1

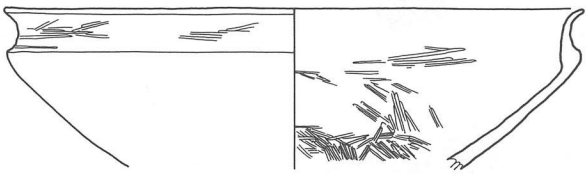


SI-01　Po2

SI-01　Po3

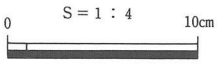


SI-01　Po4

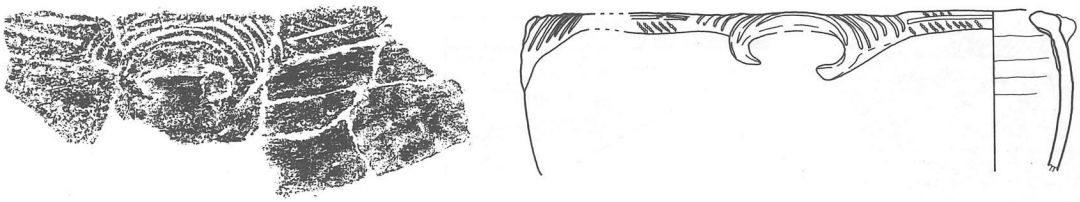


SI-01　Po5

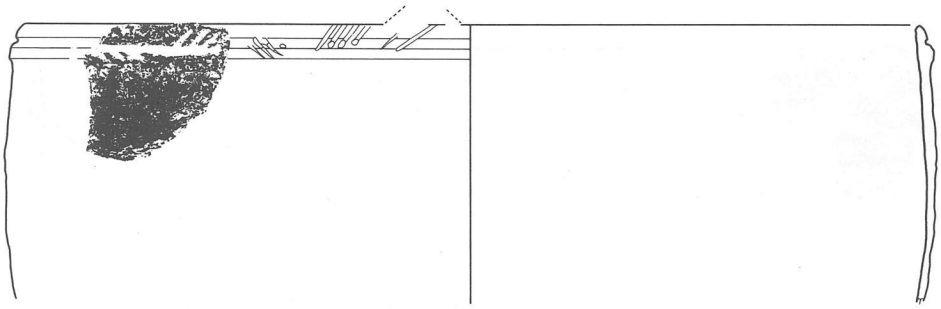
SI-01　Po6



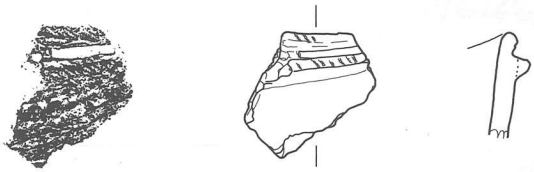
挿図55　ＳＩ－01縄文土器



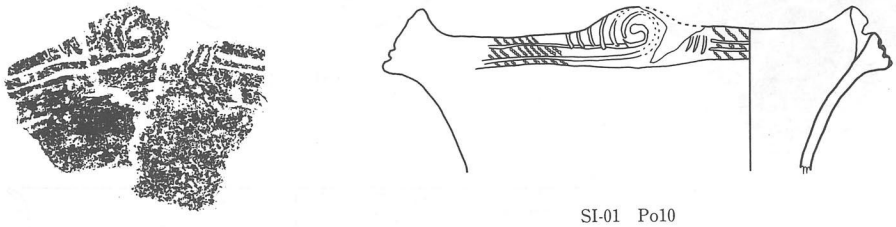
SI-01　Po7



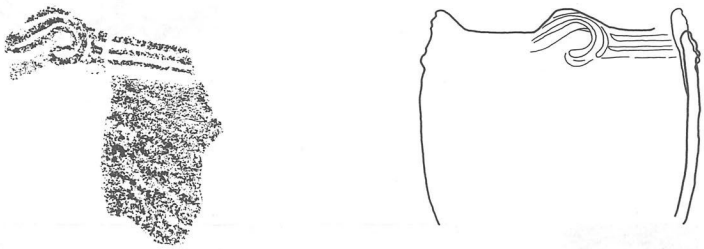
SI-01　Po8



SI-01　Po9



SI-01　Po10



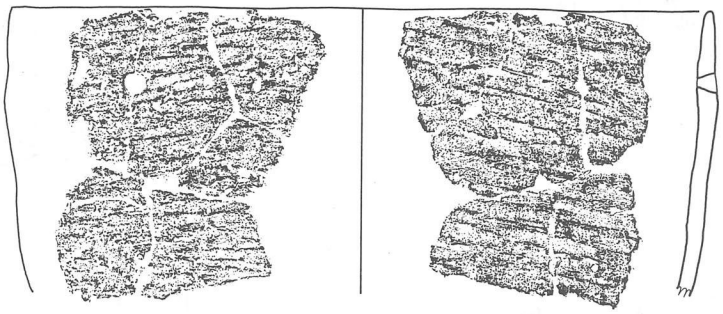
SI-01　Po11

S＝1：4

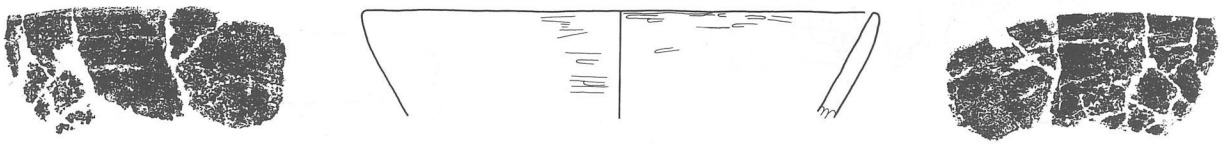
0　10cm

挿図56　ＳＩ－01縄文土器

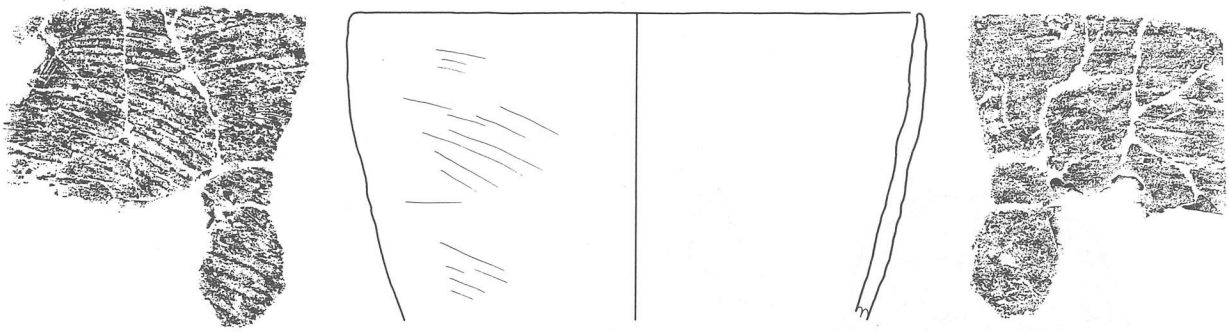
SI-01　Po12



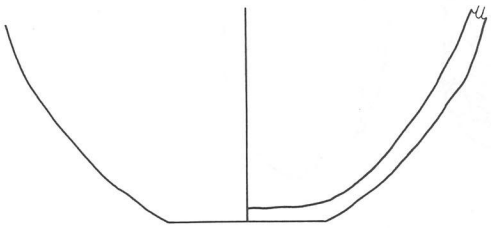
SI-01　Po14



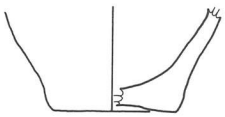
SI-01　Po16



SI-01　Po17

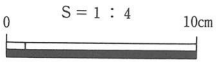


SI-01　Po18

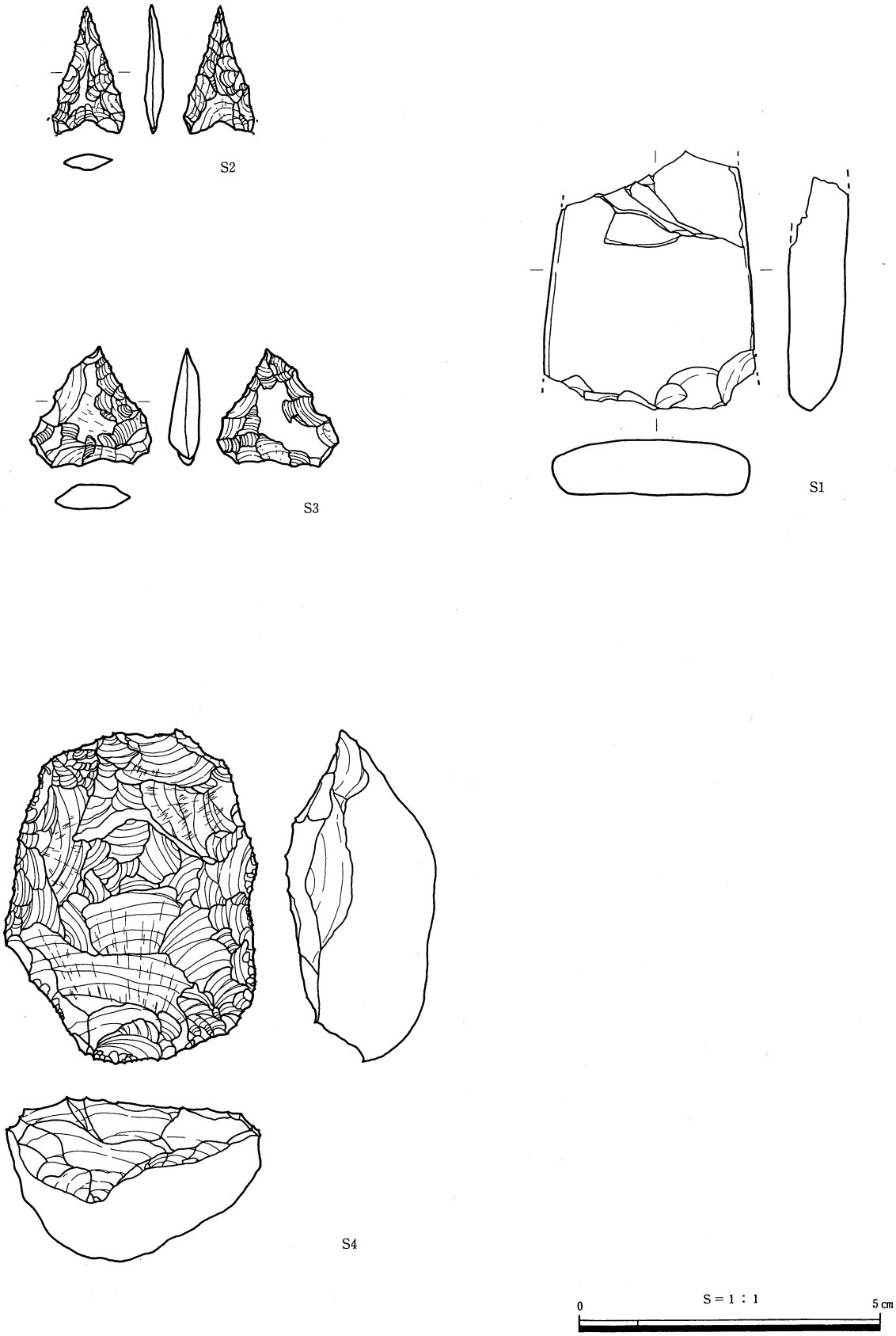


SI-01　Po19

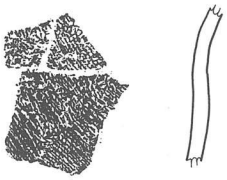
SI-01　Po20



挿図57　ＳＩ－01縄文土器



挿図58　ＳＩ－01石器、石核



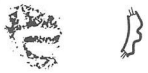
26号落し穴　Po1

31号落し穴　Po1

31号落し穴　Po2

31号落し穴　Po3

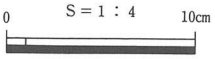
34号落し穴　Po1



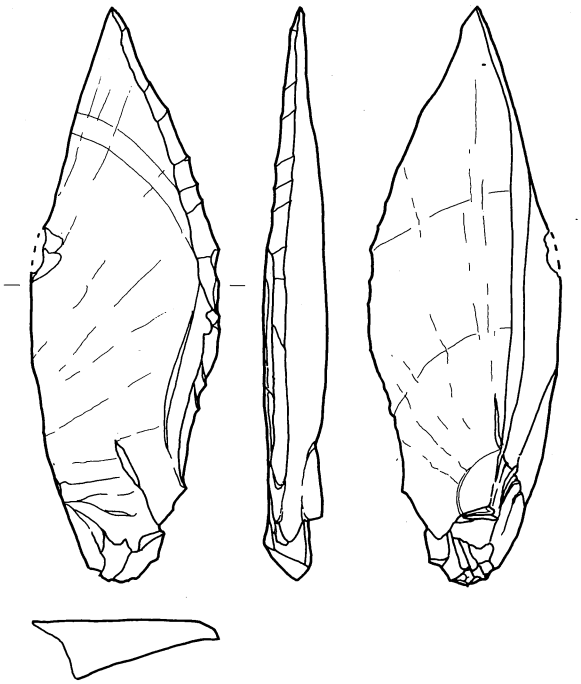
31号落し穴　Po4

34号落し穴　Po2

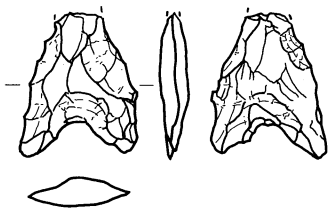
遺構外　Po1



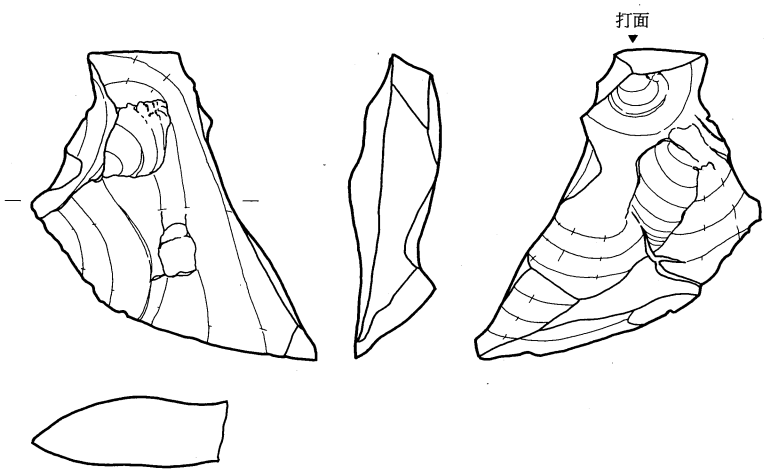
挿図59　落し穴、遺構外遺物



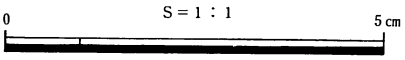
8号落し穴　S1



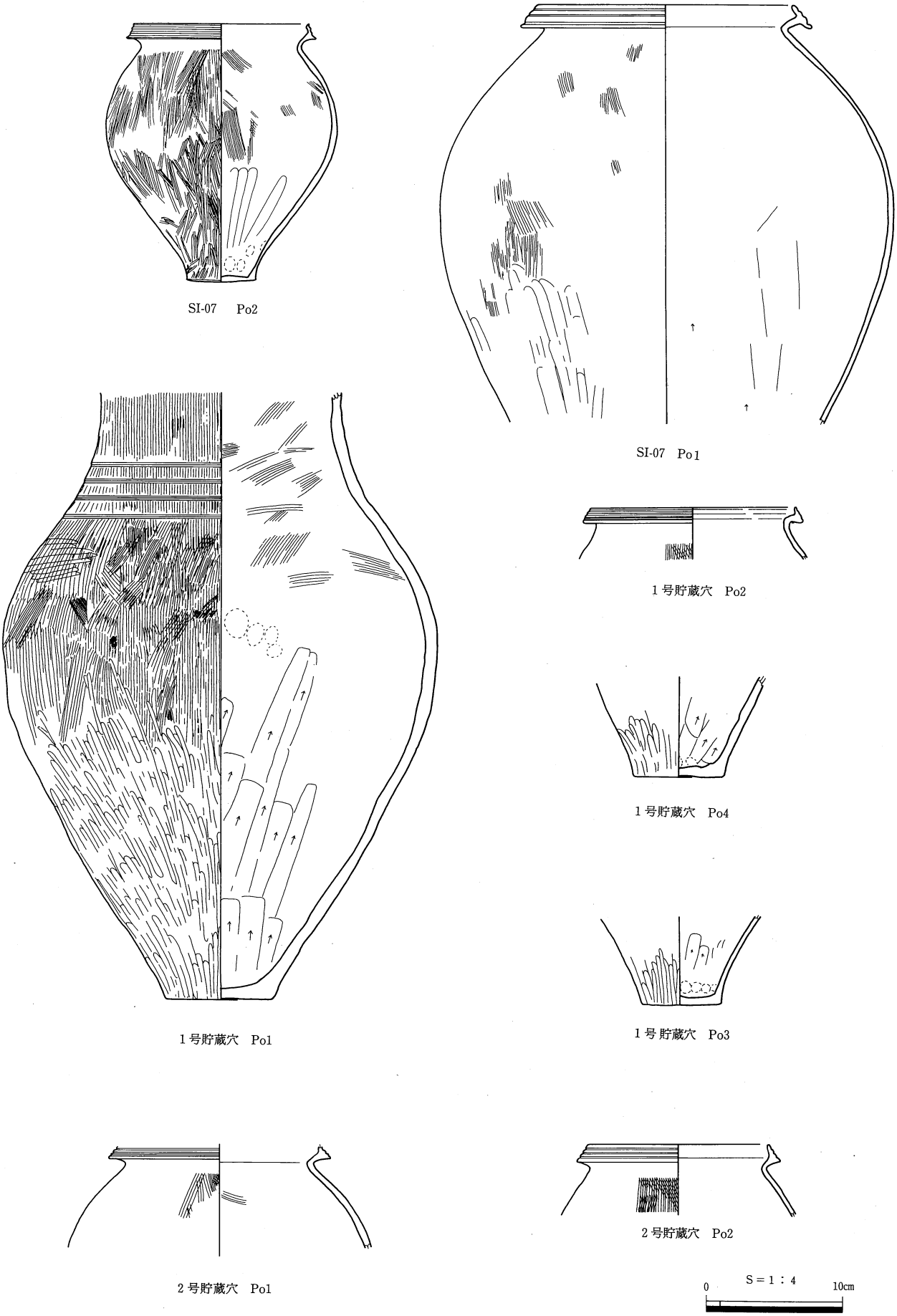
34号落し穴　S1



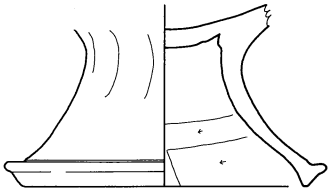
35号落し穴　S1



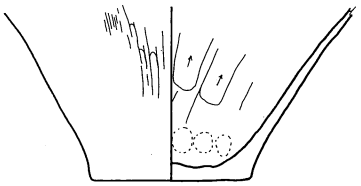
挿図60　落し穴石器、剝片



挿図61　ＳＩ―07、１・２号貯蔵穴弥生土器

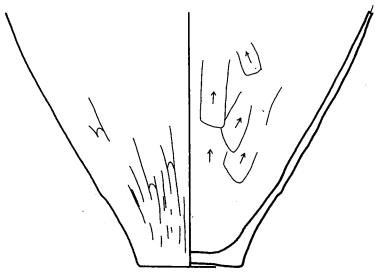


2号貯蔵穴　Po3

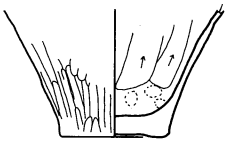


2号貯蔵穴　Po4

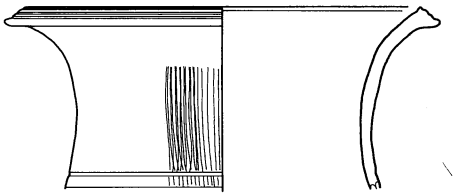
2号貯蔵穴　Po6



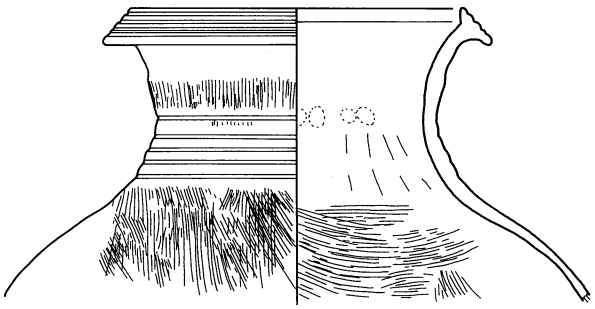
2号貯蔵穴　Po5



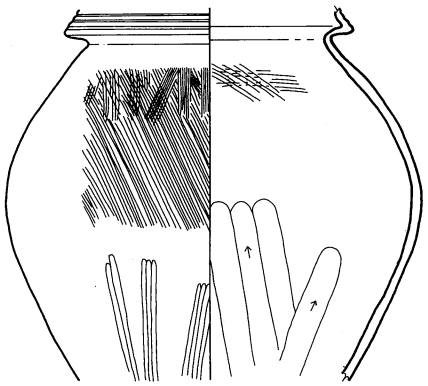
2号貯蔵穴　Po10



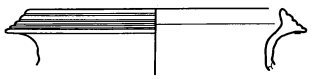
2号貯蔵穴　Po7



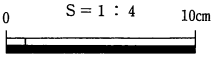
2号貯蔵穴　Po8



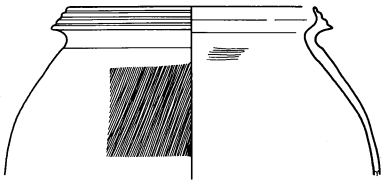
2号貯蔵穴　Po9



2号貯蔵穴　Po11

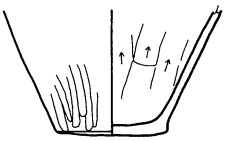


挿図62　2号貯蔵穴弥生土器

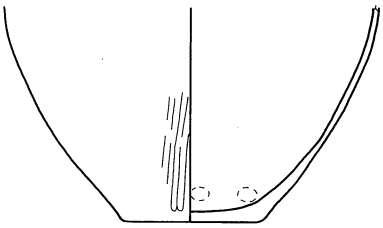


3号貯蔵穴　Po2

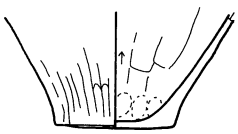
3号貯蔵穴　Po1



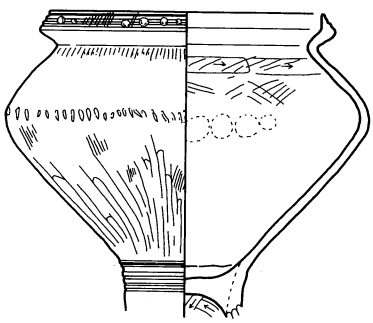
5号貯蔵穴　Po1



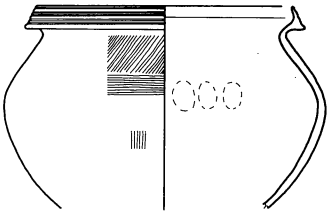
5号貯蔵穴　Po2
6号貯蔵穴　Po6 } 接合



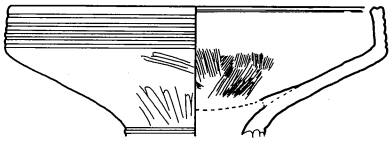
6号貯蔵穴　Po3



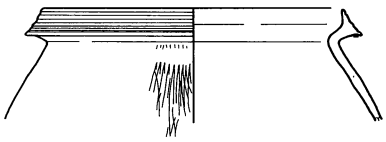
6号貯蔵穴　Po5
7号貯蔵穴　Po6 } 接合



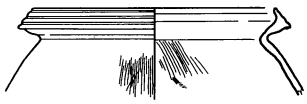
3号貯蔵穴　Po3



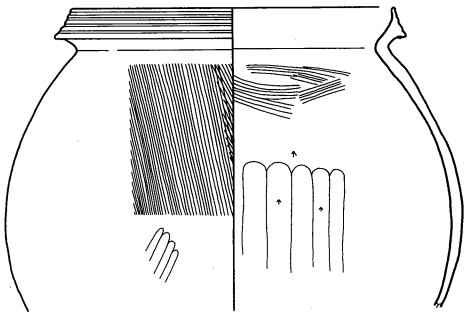
4号貯蔵穴　Po1



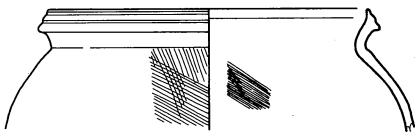
6号貯蔵穴　Po1



6号貯蔵穴　Po2



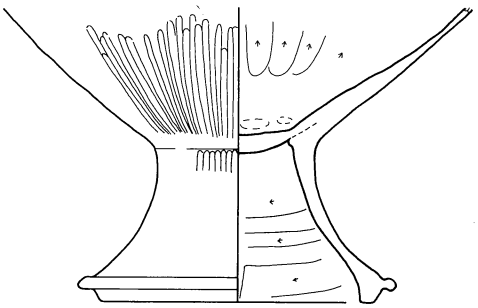
6号貯蔵穴　Po4



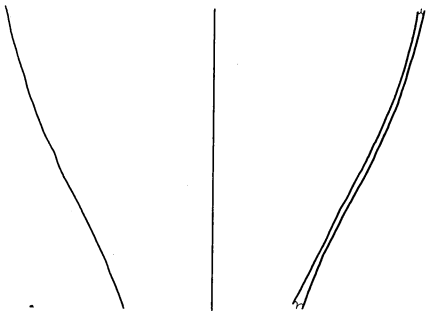
6号貯蔵穴　Po7

0　S＝1：4　10cm

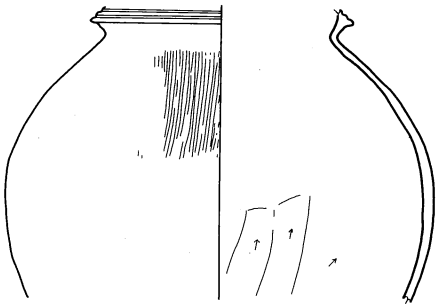
挿図63　3～6号貯蔵穴弥生土器



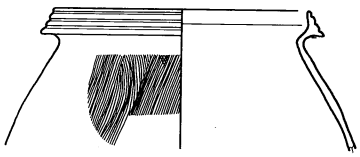
7号貯蔵穴　Po1



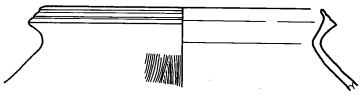
7号貯蔵穴　Po2



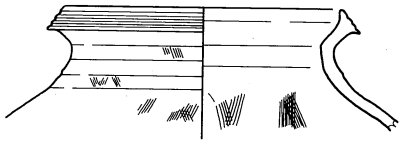
7号貯蔵穴　Po3



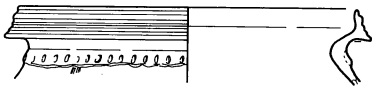
7号貯蔵穴　Po4



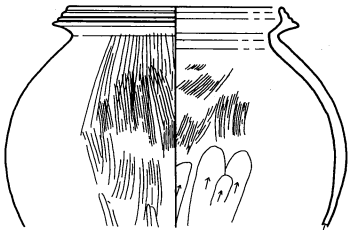
7号貯蔵穴　Po5



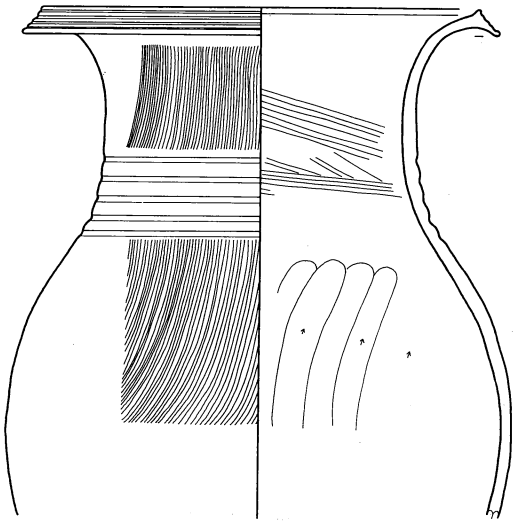
8号貯蔵穴　Po1



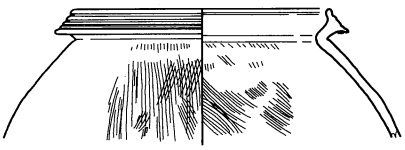
8号貯蔵穴　Po2



8号貯蔵穴　Po3



8号貯蔵穴　Po5

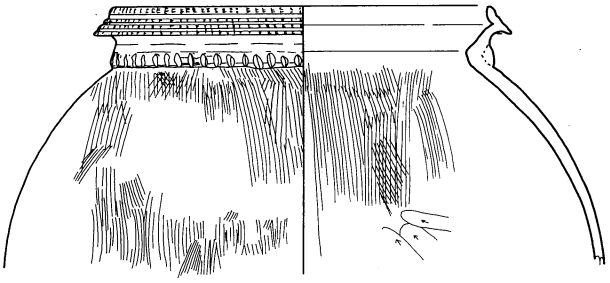


8号貯蔵穴　Po4

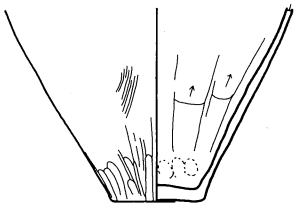
S＝1：4

0　10cm

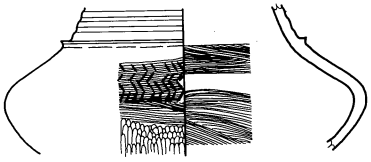
挿図64　7・8号貯蔵穴弥生土器



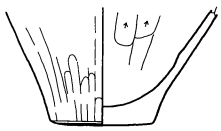
8号貯蔵穴　Po8･9



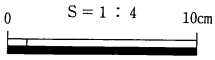
8号貯蔵穴　Po6



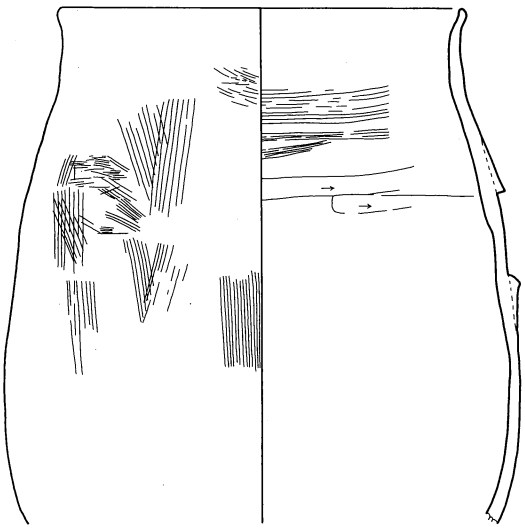
8号貯蔵穴　Po10



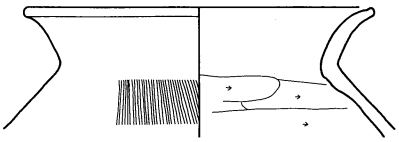
8号貯蔵穴　Po7



挿図65　8号貯蔵穴弥生土器

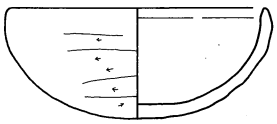


SI-02　Po1

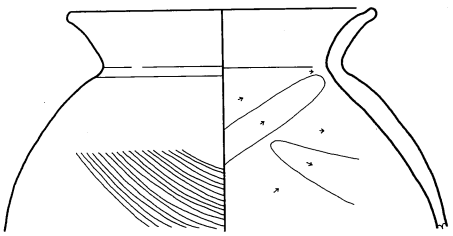


SI-02　Po2

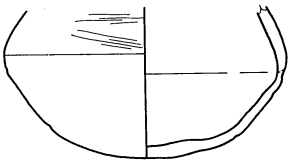
SI-02　Po3



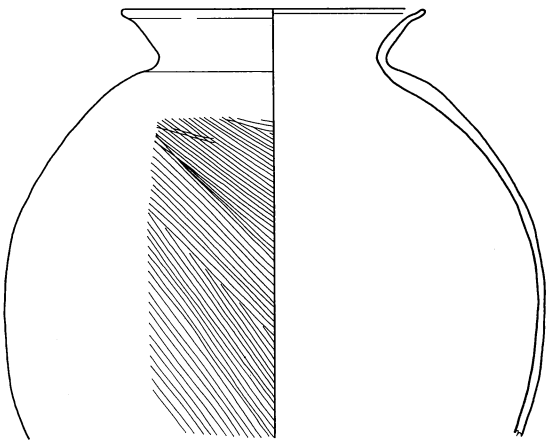
SI-02　Po5



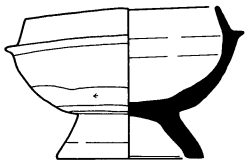
SI-02　Po4



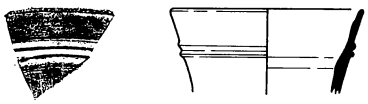
SI-02　Po7



SI-02　Po6



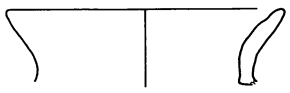
SI-02　Po8



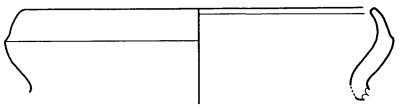
SI-02　Po9

0　S＝1：4　10cm

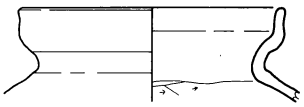
挿図66　ＳＩ－02出土土器



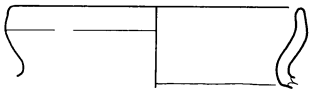
SI-03　Po1



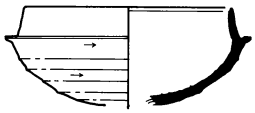
SI-03　Po2



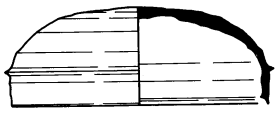
SI-03　Po3



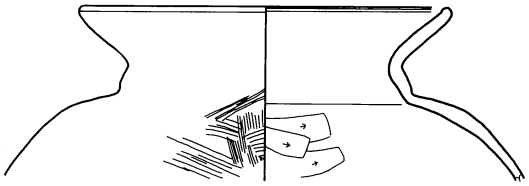
SI-03　Po5



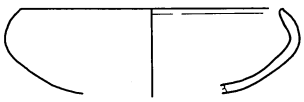
SI-04　Po1



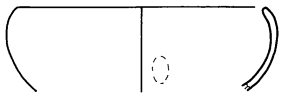
SI-04　Po2



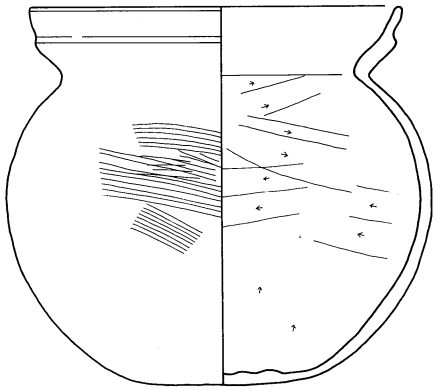
SI-05　Po1



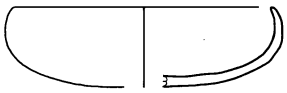
SI-05　Po2



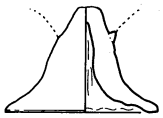
SI-03　Po4



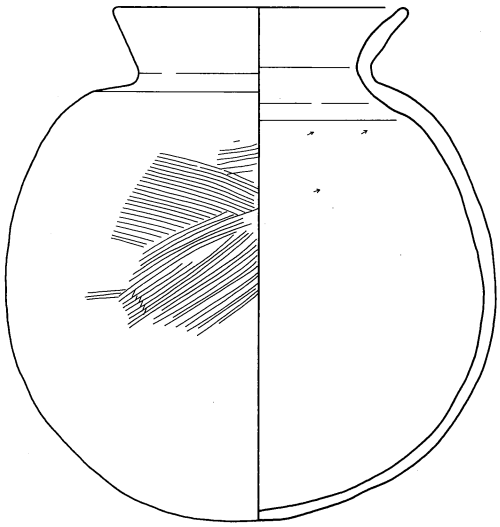
SI-03　Po6



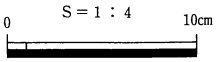
SI-04　Po4



SI-04　Po3

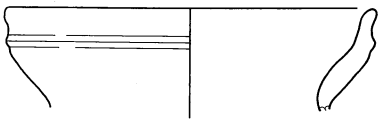


SI-05　Po3

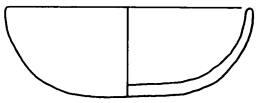


挿図67　ＳＩ―03～05出土土器

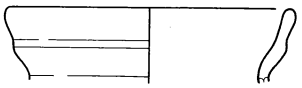
SI-06　Po1



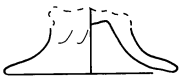
SI-06　Po2



SI-06　Po3

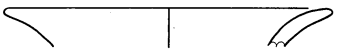


SI-06　Po5

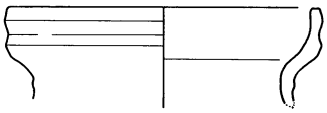


SI-06　Po4

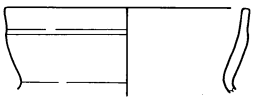
SI-08　Po1



SI-08　Po2

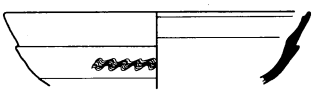


SB-01　Po1

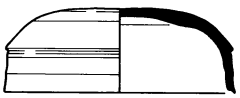


SB-01　Po2

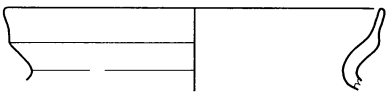
SB-01　Po3



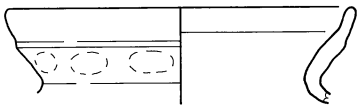
SB-03　Po2



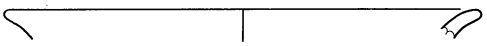
SB-03　Po1



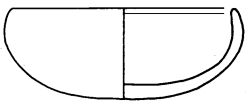
SD-02　Po1



SD-01　Po1



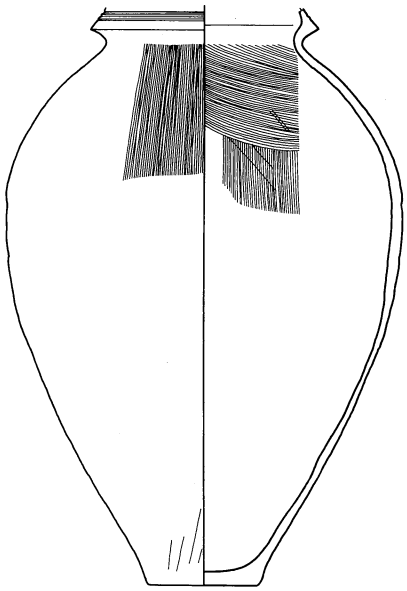
SD-03　Po1



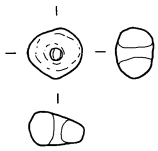
SD-02　Po2

0　S＝1：4　10cm

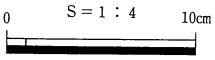
挿図68　ＳＩ―06・08、ＳＢ―01・03、ＳＤ―01～03出土土器



2号土坑　Po1



3号土坑　Po1



挿図69　その他の土坑遺物

①口径　②器高　③最大径　④底部径　⑤脚部径　⑥長さ　⑦幅　⑧厚さ　※復元値　△残存値　◎推定値

S Ⅰ-01

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 55 38	556a 556c 556d	浅鉢	①35.0※ ②9.2△ ③35.0※	口縁部は内傾し外面に刻目突帯。口縁端部はつまむようにおさめる。胴部に穿孔有。	内面ミガキ。 外面ミガキ。	密	良好	内面暗褐色 外面暗赤褐色	Ku-7
Po2 55 38	264 268	浅鉢	①33.2※ ②7.2△ ③33.2※	口縁部は屈曲して立ち上がり、端部は外反する。屈曲部に刻目。	内面ナデ。 外面ミガキ。	密	良好	内面暗褐色 外面暗赤褐色	Ku-5
Po3 55 38	424	浅鉢	①26.4※ ②4.1△ ③26.4※	口縁部は屈曲して立ち上がり、端部は外反する。屈曲部に刻目。	内面ケズリ後ナデ。 外面ミガキ。	密、石英砂粒を含む	良好	内面橙色 外面灰褐色	O-3
Po4 55 38	556b	浅鉢	①28.8※ ②9.7△ ③28.8※	口縁部付近で内側にやや屈曲する。口縁端部を１本の沈線がめぐる。	内面ミガキ。外面ミガキ、屈曲部にキザミ目。	密（0.5mm～1mmの細粒含む）雲母含む	良好	内面灰白色 外面にぶい黄橙色	外面黒斑有 イ-6
Po5 55 38	274	浅鉢	①31.1※ ②8.4△ ③31.1※	口縁部付近で屈曲して直立し、口縁端部は外反する。	内外面へラミガキ。	密、石英(1mm程度)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	イ-5
Po6 55 38	491	浅鉢	①26.0※ ②4.6△ ③26.0※	口縁部は屈曲して立ち上がり、端部は外反する。屈曲部下方と口縁端部にＬＲ縄文。	内面ナデ。外面ミガキ。	密、石英砂粒を含む	良好	内面にぶい黄橙色 外面にぶい褐色	O-4
Po7 56 38	303 418 485	鉢	①29.1※ ②8.2△ ③29.1※	内側に肥厚した口縁端部外面に１条の沈線がめぐり、その上下にＲＬ縄文施す。口唇部を外側に肥厚させ、把手をつくりだし、上面に７条の沈線を施す。	内外面ナデ。	密	良好	内外面褐色	外面スス付着 O-8
Po8 56 38	90 341 425	深鉢	①47.0※ ②14.9△ ③40.2※	肥厚した口縁端部外面に１条の沈線。その上下に刻み目。	内外面ヨコナデ。	やや粗(1～3mm程度の石英粒多く含む)	良好	内外面灰白色	イ-7
Po 9 56 39	298 350	鉢	①27.2※ ② 5.6△ ③29.3※	肥厚した口縁端部外面に１条の沈線。その上下にＲＬ縄文。	内外面ナデ。	密、石英（1～2mm）細砂多く含む	良好	内外面褐色	Ku-7
Po10 56 39	462 486	深鉢	①27.4※ ②8.7△ ③27.0※	肥厚した口縁端部外面に２条の沈線。沈線は左巻きの渦巻文をつくる。沈線の上下と沈線間の３段にＲＬ縄文。	内外面風化のため調査不明。	密、石英(0.1～0.2mm)砂粒含む	良好	内外面褐色	O-6
Po11 56 39	423	深鉢	①13.2※ ②11.3△ ③15.0※	内湾する波状口縁。口縁端部は肥厚し外面に２条の沈線。突出部に渦巻文。	内外面ナデ。	密、砂粒を含む	良好	内外面暗褐色	Ku-6
Po12 57 39	481	鉢	⑧0.7	口縁端部は突帯を貼り肥厚する。外面は２条の沈線がめぐり、突出部で左右からからみあい渦巻状になる。内面は突出部で左右から３条の沈線がからみあい渦巻状になる。	外面ナデ。	密、砂粒を含む	良好	内外面赤褐色	Ku-3
Po13 39	541	深鉢	①26.2※ ② 4.2△ ③26.2※	内湾する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ナデ。	密、砂粒を含む	良好	内面灰褐色 外面暗褐色	Ku-2
Po14 57 39	554	深鉢	②15.1△ ③37.6※	口縁部はわずかに外傾し、端部は平坦面をもつ。穿孔有。	内面ナデ。外面擦痕。	密	良好	内外面明褐色	Ku-4
Po15 39	552	深鉢	①33.8※ ②7.8△ ③35.2※	口縁部は直立し、端部はつまむようにおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(2.5～1mm)含む	良好	内面橙色 外面灰白色	イ-4
Po16 57 39	553	浅鉢	①27.2※ ②5.6△ ③27.5※	口縁部は外傾し、端部は丸くおさめる。	内外面ミガキ。	密、石英砂粒を含む	良好	内外面褐色	O-2
Po17 57 40	274 280 672	深鉢	①32.0※ ②16.2△ ③36.0※	口縁部は内湾し、端部は丸くおさめる。	内面ナデ。外面擦痕。	密、砂粒(0.5～0.6mm)含む	良好	内面にぶい橙色 外面褐色	外面スス付着 O-5
Po18 57 40	137 270 376 482 520 540 544 585 586	底部	②11.3△ ③25.4※ ④8.4※	平底。	内外面ナデ。	密、砂粒を含む	良好	内面淡黄灰白色 外面明黄褐色	内面黒斑有 Ku-1
Po19 57 40	287 293	底部	②5.6△ ③11.4※ ④6.8	上げ底。	内外面ナデ。	やや粗、0.5～2mm程度砂粒、石英多く含む	良好	内面にぶい黄橙色 外面淡茶褐色	外面黒斑有 イ-1
Po20 57 40	556e	底部	②1.9△ ③11.2※ ④4.9	平底。	内外面ナデ。	やや粗、0.5～1mm程度の細砂石英含む	良好	内面黄灰白色 外面にぶい黄橙色～橙色	イ-2

挿表３　土器、土製品観察表　(1)

26号落し穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 59 40	794	破片	⑧0.8	撚糸（ℓ）。		密(2mm以内の砂粒、雲母を含む)	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-31

31号落し穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 59 40	1023	破片	⑧0.6	１条の沈線の下方に刺突列点。		密	良好	内面暗褐色 外面にぶい赤褐色	YY-32
Po2 59 40	895 938	破片	⑧0.7	撚糸（r）後、半裁竹管による沈線。		密(0.5mm程度の砂粒雲母を含む)	良好	内面褐色 外面明褐色	YY-36
Po3 59 40	935	破片	⑧0.8	口縁端部はつまむようにおさめる。撚糸（ℓ）。		密(2mm以内の砂粒を含む)	良好	内外面にぶい黄褐色	YY-33
Po4 59 40	1099	破片	⑧0.7	流水文状の曲線の沈線。	内面ナデ。	粗(１～1.5mm石英含む)	良好	内外面橙色	イ-9

34号落し穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 59 40	1004	つまみ？	⑥3.3 ⑦2.2 ⑧2.6 ⑨0.7	例えば「かまくら」の下面が接合面となるような形態。丸い棒状のもので貫かれている。	内外面とも風化のため調整不明。	やや粗	良好	内面橙色 外面淡褐色	YY-30
Po2 59 40	1050,	破片	⑧0.9	２条の沈線と、沈線間にＲＬ縄文。		密(2mm以内の砂粒を含む)	良好	内外面にぶい褐色	YY-34

遺　構　外

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 59 52	598	破片	⑧0.8	楕円押型文（ポジ）。		密	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-35

ＳＩ—07

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 61 41	1272 1341	甕	①19.0 ②30.9△ ③34.0	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に３条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ナナメハケ、下位タテヘラケズリ。外面胴部上位タテハケ、下位ヘラミガキ。	密	良好	内面黄橙色 外面にぶい橙色	外面スス付着 O-10
Po2 61 41	1269 1342	甕	①13.0※ ②19.4△ ③17.0※	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に３条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁部ヨコナデ、胴部上方はハケメ後ナデ。胴部下方はケズリ後ナデ。底部付近に指頭圧痕。外面口縁頸部ヨコナデ。胴部上方ハケメ。胴部下方ヘラミガキ。底面ナデ。	密	良好	内外面黄橙色	外面スス付着 イ-8

挿表３　土器、土製品観察表　(2)

1号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 61 41	1288 1587 1606 1607 1608 1611 1639 1640 1641	壺	②44.8△ ③32.2※ ④7.9△	長くのびた頸部の下方に3条の凹線がめぐる。肩部が強く張る胴部。平底。	内面底部から胴部下半にかけて上方向のケズリ。胴部上半から頸部にかけてナナメハケ。外面底部から胴部下半にかけてタテ方向にミガキ。胴部上半から頸部にかけてタテハケ。	密(0.5㎜程度の砂粒雲母を含む)	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-25
Po2 61 64	1605 1606	甕	①15.0※ ②3.8△ ③16.6※	口縁端部は内傾して上方に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は「つ」の字状に屈曲する。	内面ヨコナデ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテ、ナナメハケ。	密(0.5㎜程度の砂粒を含む)	良好	内外面橙色	YY-27
Po3 61 41	1638	底部	②6.6△ ③11.7※ ④5.7※	平底。	内面上方向のケズリ。外面上方向のミガキ。	密(0.5㎜程度の砂粒を含む)	良好	内外面にぶい褐色	YY-26
Po4 61 41	1260 1552 1610	底部	②7.5△ ③12.2※ ④6.5※	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ユビオサエ。外面タテヘラミガキ。底面ナデ。	密、砂粒(0.5〜3㎜)含む	良好	内外面にぶい褐色	外面スス付着 YY-10

2号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 61 42	1695	甕	②7.5△ ③22.2※	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に3条の凹線、頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。ナナメハケ後ナデ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテ、ナナメハケ。	密、石英(2〜1㎜)含む	良好	内面橙色 外面浅黄橙色	黒斑有 YZ-29
Po2 61 42	1221 1330 1695	甕	①13.6※ ②5.2△ ③17.4※	口縁端部は内傾し、上方に拡張する。外面に3条の凹線。	内面風化のため調査不明。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテ、ナナメハケ。	密、石英(1㎜程度)含む	良好	内面明黄褐色 外面橙色	YZ-36
Po3 62 42	1679	甕脚部	②8.7△ ③17.1※ ④14.6※	脚部は外反し、端部は内傾する。外面に突帯がめぐる。	内面ヘラケズリ。外面ヨコナデ、甕底面との接合部にシボリ目。	密、石英(2.5〜1㎜含む)	良好	内面橙色 外面浅黄橙色	YZ-28
Po4 62 43	1676	底部	②9.4△ ③17.6 ④8.0	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ナデ、ユビオサエ。外面タテヘラミガキ、上位タテハケ。	密、砂粒(0.5〜2㎜)雲母含む	良好	内面にぶい黄褐色 外面にぶい黄橙色	YY-13
Po5 62 43	1610 1676 1697 1706	底部	②13.6△ ③9.4※ ④5.2※	やや上げ底。	内面タテヘラケズリ。底面ユビオサエ。外面タテヘラミガキ。底面ナデ。	密、砂粒(0.5㎜程度)雲母含む	良好	内外面にぶい橙色	外面スス付着 YY-21
Po6 62 42	1710	脚	②2.8△ ③8.0※ ④6.5※	ハの字状に広がる。端部は平坦な面になる。	内面ヘラケズリ。外面ミガキ。	密、石英(2〜1㎜)含む	良好	内外面浅黄橙色	底面にスス付着 YZ-27
Po7 62 42	1690 1691 1697 1705 1708 1709 1713	壺	①21.0※ ②9.65△ ③23.1※	口縁端部は内傾して下方に拡張する。外面に3条の凹線。頸部は長くのび、ゆるやかに外反する。下方に2条以上の凹線。	内面口縁部ヨコナデ。頸部不定方向のナデ。外面ヨコナデ。頸部にタテハケ、赤色顔料塗付。	密	良好	内外面浅黄橙色	YZ-41
Po8 62 42	1690	壺	①17.6※ ②15.4△ ③31.3※	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に4条の凹線。長く伸びる頸部は内湾する。下位に5条の凹線。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁、頸部上位ヨコナデ。頸部中位ユビオサエ、下位シボリ後ナデ。胴部ヨコハケ。外面口縁、頸部上位ヨコナデ。頸部中位以下胴部タテハケ。	密、砂粒(0.5〜2㎜)雲母含む	良好	内面暗褐色 外面明褐灰色	YY-17
Po9 62 42	1568 1697 1706 1713	甕	②19.8△ ③21.6	口縁端部は内傾し、上方に拡張する。外面に3条の凹線。頸部は「く」の字状に強く屈曲する。胴部は強く張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ナナメハケ、下位タテヘラミガキ。外面口縁部ヨコナデ。胴部上位タテ、ナナメハケ、下位タテヘラミガキ。頸部ハケ後ヨコナデ。	密、石英(2〜1㎜)含む	良好	内外面橙色	YZ-43
Po10 62 43	1337 1646	底部	②6.8△ ③11.6※ ④5.0※	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ナデ、ユビオサエ。外面タテヘラミガキ。	密、砂粒(0.5〜1㎜)雲母含む	良好	内外面にぶい褐色	内面スス付着 YY-09
Po11 62 42	1339 1569	壺	①13.6※ ②3.2△ ③16.0※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は垂直に伸び、外方に屈曲する。	内面ヨコナデ。外面口縁部、頸部ヨコナデ。頸部下方にタテハケ。	密、石英(1.5〜1㎜)含む	良好	内外面橙色	YZ-37

挿表3　土器、土製品観察表　(3)

3号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 63 43	1260 1263	底部	②4.8△ ③10.6 ④6.5	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ナデ。外面タテヘラミガキ。	密、砂粒(0.5～1.5mm)雲母含む	良好	内面にぶい赤褐色 外面灰黄褐色	底外面スス付着 YY-07
Po2 63 43	1263	甕	①13.0※ ②9.0△ ③19.8※	口縁端部は内傾して上下に拡張する。外面に3条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコハケ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。	密、石英(1mm程度)含む。	良好	内面にぶい黄色 外面にぶい黄橙色	YZ-42
Po3 63 43	1631	甕	①13.4※ ②10.85△ ③17※	口縁端部は内傾して上下に拡張する。外面に5条の沈線。頸部は「く」の字状に屈曲する。肩部が屈曲し強く張り出す胴部。	内面風化のため調査不明。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメ、ヨコ、タテハケ。	石英(3～1mm)含む	良好	内面明黄褐色 外面にぶい黄橙色	YZ-30

4号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 63 44	1236 1358 1359 1475	高坏	①19.6※ ②6.9△ ③20.2※	口縁部は垂直に立ち上がり、外面に5条の凹線。端部は平たくおさめる。坏部と脚部の境に2条以上の凹線。	内面口縁部ヨコナデ。器受部タテハケ。外面ヘラミガキ。赤色顔料塗付。	密、砂粒(0.5mm程度)含む	良好	内外面橙色	YY-18

5号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 63 43	1250 1578	底部	②6.7△ ③11.6 ④5.8	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ナデ。外面タテヘラミガキ。底面ナデ。	密、砂粒(0.5mm程度)雲母含む	良好	内面橙色 外面にぶい褐色	底外面スス付着 YY-04
Po2 63 43	1251 1252 1682	底部	②11.5△ ③19.8△ ④6.9	平底。胴部下位は外湾したまま底部に至る。	内面風化のため調査不明。外面胴部下位タテヘラミガキ。	密	良好	内面赤橙色 外面にぶい赤橙色	外面黒斑有 YZ-39

6号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 63 44	1684	甕	①15.8※ ②6.1△ ③19.8※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面口縁部ヨコナデ。胴部調整不明。外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。頸部ハケ後ナデ。	密、砂粒(2～0.5mm)雲母含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-16
Po2 63 44	1684	甕	①12.8※ ②4.7△ ③15.8※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に3条の凹線。口縁外面はやや肥厚する。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。外面口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。頸部ハケ後ナデ。	密、砂粒(0.5mm程度)雲母含む	良好	内外面暗褐色	YY-15
Po3 63 44	1325 1684	底部	②5.8△ ③13.6※ ④6.4※	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ユビオサエ。外面タテヘラミガキ。	密、砂粒(0.5mm程度)雲母含む	良好	内外面にぶい黄橙色	内面スス付着 YY-12
Po4 63 44	1325 1327 1340 1680 1687	甕	①17.3 ②16.1△ ③24.2	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコハケ。下位タテヘラケズリ。外面口縁部ヨコナデ。胴部上位タテハケ、下位タテヘラミガキ。頸部ハケ後ヨコナデ。	密、石英(2～1mm)含む	良好	内面橙色 外面黄橙色	YZ-40
Po5 63 44	1688 1575	甕	①14.3 ②16.0△ ③19.4※	口縁端部は内傾し、端部は上方に拡張する。外面に3条の凹線と円形浮文。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部は強く張り出し、「く」の字状に屈曲する。屈曲部外面に刻目列点文。胴部と脚部の中間に5条の凹線。	内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコヘラケズリ後ナナメハケ。屈曲部ユビオサエ。胴部開封下のため調整不明。甕底部は粘土を充填。脚部ヘラケズリ。外面口縁部凹線後タテハケ後円形浮文。胴部上位タテハケ、下位タテヘラミガキ。	密、砂粒(0.5mm程度)雲母含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-23
Po6 63 43	1682								5号貯蔵穴Po2と接合
Po7 63 44	1540	甕	①17.0※ ②6.3△ ③21.6※	口縁端部は内傾し、上方に拡張する。外面に2条の凹線。	内面胴部ナナメハケ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。	密、雲母含む	良好	内面淡黄色 外面浅黄橙色	YZ-32

挿表3　土器、土製品観察表　(4)

7号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 64 44	1673	甕脚部	②15.5△ ③25.1※ ④14.6※	脚部は外反し、端部は内傾する。外面に突帯がめぐる。	内面胴部下位タテヘラケズリ。底面ユビオサエ。脚部ヨコヘラケズリ。外面胴部下位タテヘラミガキ。脚部タテヘラミガキ後ヨコナデ。	密、石英(2～1mm)含む	良好	内外面黄橙色	YZ-38
Po2 64 44	1666	甕胴部	②16.1△ ③22.0※	甕胴部下位。	内面ヘラケズリ。外面ヘラミガキ。	密、石英(3～1mm)含む	良好	内面黄橙色 外面灰黄褐色	YZ-46
Po3 64 45	1669 1671	甕	①12.3※ ②15.5△ ③22.0※	口縁端部は内傾して上下に拡張する。外面に2条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はやや肩がはる。	内面胴部上位ハケメ、下位ヘラケズリ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部上位ハケメ。	密、石英(3～1mm)含む	良好	内外面黄橙色	外面スス付着 YZ-35
Po4 64 45	1668	甕	①13.8※ ②7.2△ ③18.8※	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に3条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はゆるやかに張り出す。	内面風化のため調整不明。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテ、ナナメハケ。	密、石英(2～1mm)含む	良好	内面浅黄橙色 外面にぶい黄橙色	外面スス付着 YZ-34
Po5 64 45	1282	甕	①14.9※ ②3.9△ ③18.6※	口縁端部は内傾し上方に拡張する。外面に2条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。	密	良好	内面にぶい黄褐色 外面にぶい橙色	YZ-33
Po6 64 44	1575								6号貯蔵穴Po5と接合

8号貯蔵穴

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 64 45	1562	甕	①14.6※ ②6.5△ ③21.0※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に3条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。外面口縁部ヨコナデ。頸、胴部タテハケ後頸部ヨコナデ。	密(0.5mm程度の砂粒、雲母を含む)	良好	内外面にぶい橙色	YY-03
Po2 64 45	1451 1452 1562	甕	①17.8※ ②3.4△ ③19.2※	口縁端部は上下に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲し、外面に刻目突帯を貼る。	内面ナデ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。	密(0.5mm程度の砂粒、雲母を含む)	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-12
Po3 64 45	1438	甕	①11.4※ ②11.8△ ③18.0※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に3条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲し、胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ、下半ヘラケズリ。外面胴部上位タテハケ、下位ヘラミガキ。頸部ハケ後ヨコナデ。	密(0.5～1.5mm程度を含む)	良好	内外面にぶい橙色	YY-08
Po4 64 45	1644 1657	甕	①13.4※ ②7.0△ ③21.0※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ後頸部下方ヨコナデ。外面胴部タテ、ナナメハケ後頸部下方ヨコナデ。	密(雲母を含む)	良好	内面にぶい橙色 外面にぶい黄橙色	YY-14
Po5 64 46	1455 1551 1556 1566 1660 1646 1648 1659 1662 1663 1664 1862	壺	①23.2※ ②26.9△ ③25.6※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に4条の凹線。頸部は直立し、口縁部付近で外反する。頸部下位に5条の凹線。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。頸部ナナメハケ。胴部ヘラケズリ。外面タテハケ。	密(1～3mmの石英を含む)	良好	内外面橙色	外面黒斑有 YZ-44
Po6 65 45	1243 1487	底部	②10.4△ ③15.2 ④4.8	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ナデ。外面タテヘラミガキ。タテハケ、底面ナデ。	密(0.5～1.5mm程度の砂粒を含む)	良好	内面暗褐色 外面にぶい黄褐色	底外面スス付着 YY-11
Po7 65 45	1442 1486	底部	②6.3△ ③11.0 ④5.4	平底。	内面タテヘラケズリ。底面ナデ。外面タテヘラミガキ。	密(0.5mm程度の砂粒を含む)	良好	内面褐灰色 外面灰黄褐色	内面スス付着 YY-06
Po8 65 46	1553 1646	甕	①20.0※ ②13.8△ ③31.2※	口縁端部は内傾し、上下に拡張する。外面に3条の凹線後、櫛状工具による刻目。頸部に刻目突帯。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、タテハケ。外面胴部ハケメ。赤色顔料塗付。	密(0.5mm程度の砂粒、雲母を含む)	良好	内外面淡黄灰白色	YY-24
Po9 46	1649 1650 1651 1659								Po8と同一個体
Po10 65 46	1353 1508 1509 1645 1656 1658	壺	②4.6△ ③18.5※	頸部に3条以上の凹線、下方に突出した稜をもつ。胴部は強く張り出し、算盤玉状を呈する。貝殻による羽状文を施す。	内面頸部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後、張出部ヨコナデ。外面胴部下半タテミガキ後胴部上半ヨコハケ、赤色顔料塗付。	密	良好	内外面橙色	YY-29

挿表3　土器、土製品観察表　(5)

ＳＩ—02

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 66 46	956 1361 1364 1371 1387 1388 1389 1391 1392 1394 1395	甕	①21.6※ ②27.3△ ③27.0※	口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸くおさめる。胴部はゆるやかに張り出し、付属物の剝離痕がある。	内面口縁部ヨコナデ。頸部ヨコハケ。胴部ヨコヘラケズリ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。剝離面は不定方向のハケ。	密、石英(1～3mm)含む	良好	内外面浅黄橙色	YZ-04
Po2 66 46	1228	甕	①18.8※ ②6.5△ ③21.0※	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面頸部下方、右方向のヘラケズリ。外面胴部タテハケ。	密、石英(3～1mm)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-05
Po3 66 46	1134	甕	①17.4※ ②4.3△ ③17.4※	口縁は直立し、端部付近で屈曲し外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面風化のため調整不明。	密、石英(2～1mm)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-06
Po4 66 47	1147	甕	①16.6※ ②11.6△ ③23.8※	口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部は中央で張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。外面口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。	密、石英(2～1mm)含む	良好	内面明黄褐色 外面橙色	YZ-09
Po5 66 47	1397	椀	①13.4※ ②6.0△ ③14.2※	口縁部はゆるやかに立ち上がり、端部は丸くおさめる。丸底。	内面ナデ。外面左方向のケズリ。	密、石英(3～1mm)含む	やや不良	内外面橙色	YZ-18
Po6 66 47	1029 1034 1102 1124	甕	①16.2※ ②22.7△ ③28.6※	口縁部は外傾し、口縁端部は丸くおさめる。頸部は「く」の字状に屈曲する。肩は張らず、胴部は球状を呈する。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。	密、石英(3～1mm)雲母含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-25
Po7 66 47	1366 1369 1372 1373 1393	小型丸底壺	②8.2△ ③15.1	胴部中央で肩部が張り出し屈曲する。丸底。	内面ヨコナデ。外面ナデ。	密、石英(1mm程度)含む	良好	内外面橙色	YZ-31
Po8 66 47	1139 1229	有蓋高杯	①10.5※ ②8.2△ ③12.7※ ④7.7※	立ち上がりは内傾し、端部は丸くおさめる。受部は短く水平に伸びる。「ハ」の字状に広がる短い脚をもつ。	内面回転ヨコナデ、杯の底面は接合による不定方向のナデ。外面回転ヨコナデ後、底面ヘラケズリ。	密	良好	内外面淡黄灰色	O-11
Po9 66 47	976	直口壺	①10.1※ ②4.4△ ③10.1※	口頸部はやや外傾する。外面に1状の沈線、その下に櫛描波状文を施す。	内外面回転ヨコナデ。	密(2mm以内の砂粒を含む)	良好	内外面灰色	T-7

ＳＩ—03

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 67 49	679	甕	①14.6 ②3.9△ ③14.6	口縁部は外反し、口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-01
Po2 67 49	711	甕	①18.6※ ②5.0△ ③20.6※	外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すように内傾する。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面にぶい黄橙色	T-1
Po3 67 49	737	甕	①13.8※ ②5.1△ ③15.6※	やや外傾する退化した複合口縁、口縁端部は丸くおさめる。屈曲部の稜は鈍い。	内面頸部下方ヘラケズリ。口頸部ヨコナデ。外面ヨコナデ。	密	良好	内外面にぶい赤橙色	T-2
Po4 67 49	712	椀	①13.2※ ②4.5△ ③14.4※	口縁部は内湾し、端部は丸くおさめる。	内面ヨコナデ。ユビオサエ。外面ヨコナデ。	密	良好	内外面橙色	T-4
Po5 67 49	674	甕	①15.2※ ②4.4△ ③16.0※	口縁部は外傾し、口縁端部はつまみ上げるように直立し、丸くおさめる。	内面頸部下方ヘラケズリ、口頸部ヨコナデ。外面ヨコナデ。	密	良好	内外面灰白色	T-5
Po6 67 49	675 722	甕	①20.2※ ②20.3 ③26.0※ ④ 7.1	内湾する「く」の字状口縁。口縁端部はつまみ上げられ、丸くおさめる。胴部はゆるやかに張り出し、球状を呈する。平底。	内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコヘラケズリ、下位タテヘラケズリ。外面口縁部ヨコナデ。胴部ヨコ、ナナメハケ。	密、雲母含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YY-02

ＳＩ—04

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 67 49	744	杯身	①11.0 ②5.3△ ③13.0	立ち上がりはわずかに内傾し、端部は内側に段をなす。受部は短く、水平に伸びる。	内面回転ヨコナデ。外面回転ヘラケズリ後回転ヨコナデ。	密	良好	内外面青灰色	KH-1
Po2 67 49	772	杯蓋	①13.6 ②5.3 ③14.0	口縁部は垂直に近く、端部は内側に段をなす。口縁部と天井部の境には突出した稜がある。	内面回転ヨコナデ。天井部に不整方向にナデ。外面天井部ヘラケズリ。頂部ヘラ切り後ナデ。	密	良好	内外面暗青灰色	KH-2
Po3 67 50	745	高杯脚部	②5.6△ ③8.1※ ④8.1※	端部はラッパ状に広がる。受部は剝離している。一部接合用の粘土帯が残る。	内面ナデ。端部は内側に少し折り返している。外面ナデ。	密	良好	内外面橙色	KH-4
Po4 67 50	771	椀	①13.8※ ②4.3△ ③14.2※	口縁部は内湾し、端部は丸くおさめる。平底。	内面ナデ。外面風化のため調査不明。	密	良好	内外面暗赤褐色	高杯杯部の可能性あり KH-5

挿表３　土器、土製品観察表　(6)

ＳＩ—05

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 67 50	1275 1408 1409	甕	①20.0※ ②9.2△ ③27.8※	独立した頸部を持ち、胴部から口縁部にかけて２段階に屈曲して外傾する「く」の字状口縁。端部は丸くおさめる。胴部はやや肩が張る。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ヨコヘラケズリ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。	密(0.5㎜程度の砂粒、雲母を含む)	良好	内外面灰褐色	YY-19
Po2 67 50	1309	杯部	①14.0※ ②4.6△ ③15.6※	口縁は内傾し、端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面橙色	YZ-22
Po3 67 50	1423 1425 1496 1519 1527 1531	甕	①15.8 ②27.2 ③26.0	口縁部は外傾し、口縁端部は丸くおさめる。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はややは肩が張り、球状を呈する。丸底。	内面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。外面口縁、頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ、底面ナデ。	密(3～1㎜の石英を含む)	良好	内面黄橙色 外面橙色	YZ-45

ＳＩ—06

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 50	1415	鉢	①24.0※ ②6.15△ ③24.0※	口縁部は外傾し、端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	石英(3～1㎜)含む	良好	内面浅黄橙色 外面黄橙色	YZ-07
Po2 68 50	1418	甕	①19.8※ ②5.3△ ③19.8※	内湾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(2～1㎜)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-08
Po3 68 50	1615	椀	①13.0 ②4.8 ③13.0	平底の椀。縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(1㎜程度)含む	良好	内外面橙色	YZ-24
Po4 68 50	1525	低脚杯脚部	①8.2※ ②2.4△ ③8.2※	外反しながら「ハ」の字状に開く脚部。	内外面ヨコナデ。	密、石英(2～1㎜)含む	良好	内外面橙色	YZ-17
Po5 68 51	1498	甕	①15.4※ ②3.9△ ③15.4※	内湾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(1㎜程度)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-21

ＳＩ—08

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 51	1484	甕	①11.4※ ②2.9△ ③11.4※	内湾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(1㎜程度)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-20
Po2 68 51	1379	甕	①17.4※ ②2.1△ ③17.4※	外反する「く」の字状口縁、口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密(1㎜程度の石英、雲母を含む)	良好	内外面浅黄橙色	YZ-19

ＳＢ—01

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 51	1622	甕	①16.4※ ②4.9△ ③16.8※	内湾する口縁部。口縁端部は平たい。短い頸部を持つ。	内面ヨコナデ。外面口縁部強いヨコナデ。頸部ヨコナデ。	密、石英(1㎜程度含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-16
Po2 68 51	1523	甕	①13.0※ ②4.4△ ③13.0※	わずかに内湾する「く」の字状口縁。口縁端部は薄く、平たい。	内外面ヨコナデ。	密、石英(1㎜)程度含む	良好	内外面黄橙色	YZ-15
Po3 68 51	1521	低脚杯	②3.4△ ③8.0※ ④7.8※	外反しながら「ハ」の字状に開く脚部。	内外面ヨコナデ。	密、石英(3～1㎜)含む	良好	内外面橙色	YZ-11

ＳＢ—03

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 51	1598	杯蓋	①12.2※ ②4.6△ ③12.2※	口縁部は垂直に近く、端部は内側に段をなす。口縁部と天井部の境には突出した稜がある。	内面回転ヨコナデ。天井頂部不整方向のナデ。外面天井部に口径の3/4程度の回転ヘラケズリ。	密、石英(5～1㎜)含む	良好	内面青灰色 外面灰色	YZ-12
Po2 68 51	1601	高杯杯部	①16.2※ ②4.0△ ③16.2※	口縁部は外傾し、端部は内側に段をなす。口縁部と器受部の境には突出した稜がある。外面に櫛描波状文を持つ。	内外面回転ヨコナデ。	密、石英(1㎜程度)含む	良好	内外面灰色	YZ-13

挿表３　土器、土製品観察表　(7)

ＳＤ—01

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 51	1207 1208	甕	①18.8※ ②4.4△ ③18.8※	わずかに内湾する「く」の字状口縁。外面にゆるい稜を持ち、口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。外面屈曲部上方にユビオサエ。	石英(2～1㎜)雲母を含む	良好	内外面浅黄橙色	YZ-26

ＳＤ—02

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 52	1209	甕	①20.6※ ②3.8△ ③20.6※	内湾する「く」の字状口縁。外面に緩い稜を持ち、端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	石英(1㎜程度)含む	良好	内外面浅黄橙色	YZ-23
Po2 68 52	1377 1378	椀	①11.6※ ②4.9△ ③12.6※	口縁部は内湾し、端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(3～1㎜)含む	良好	内外面橙色	YZ-10

ＳＤ—03

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 68 51	1381	甕	①25.6※ ②1.5△ ③25.6※	口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、石英(1㎜程度)含む	良好	内外面橙色	YZ-14

2号土坑

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 69 52	1344	甕	②30.9△ ③21.0※ ④6.0	口縁端部は内傾し、上方に拡張する。外面に3条以上の凹線。頸部は「く」の字状に屈曲する。胴部はゆるやかに張り出す。	内面口縁部ヨコナデ。胴部上位タテ、ナナメハケ。外面口縁部ヨコナデ。胴部上位タテハケ。下位タテヘラミガキ。底面ナデ。	石英(1㎜程度)含む	良好	内外面にぶい黄橙色	YZ-03

3号土坑

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	器　種	法量(cm)	形　態	手　法	胎　土	焼　成	色　調	備　考
Po1 69 52	1357	土錘	⑥2.9 ⑦2.8 ⑧2.0 ⑨0.4	断面はくさび状に扁平する。	ナデ。	密	不良	内外面にぶい灰色	YY-28

挿表3　土器、土製品観察表　(8)

出土位置	遺物番号	取上番号	挿図番号	図版番号	器分類	石　材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　考
ＳＩ-01	Ｓ１	508	58	40	磨製石斧		4.34	3.50	0.95	21.0	基部、刃部欠損
	Ｓ２	362	58	40	石鏃	黒曜石	2.1	1.2	0.2	0.5	凹基無茎
	Ｓ３	427	58	40	石鏃	黒曜石	1.9	2.0	0.5	1.8	平基無茎、未製品
	Ｓ４	434	58	40	石核	黒曜石	6.6	4.2	2.5	60.5	半球状
８号落し穴	Ｓ１	1516	60	40	剝片尖頭器	サヌカイト	7.7	2.5	0.8	13.4	石槍か
34号落し穴	Ｓ１	1175	60	40	石鏃	サヌカイト	2.0	1.6	0.35	0.9	凹基無茎、先端欠損
35号落し穴	Ｓ１	1191	60	40	剝片	玉髄	5.0	2.3	1.0	13.4	加工痕あり
ＳＩ-02	Ｓ１	1398	—	48	川原石		12.5	5.3	5.3	500	加工痕、使用痕なし
	Ｓ２	1715	—	48	円礫		17.5	13.0	9.5	2900	櫛掻状線刻、加熱痕あり

挿表4　石器観察表